

# 教育・研究年報

令和3年度

徳島文理大学  
人間生活学部

## ま え が き

令和3年度人間生活学部教育・研究年報を刊行いたします。ご覧下さいまして、年報のありかた、あるいは教員の活動に対し、ご指導を賜りますことを願っております。

人間生活学部は6学科からなり、各学科が連携し、人間生活学の魅力的な教育・研究を展開させています。学科構成の多様性が人間生活学部の特徴・メリットです。令和3年度を振り返り、多くの出来事の中から各学科の活動や特徴を紹介しましょう。

まず人間生活学科から紹介します。豊かなくらしのあり方を幅広く学ぶ学科をめざしています。教育内容は、生活経営学、食物学、被服学、住居学、コミュニティデザイン、保育・保健・養護学の各分野から構成されています。心理学科と共に、長年の伝統につちかわれた養護教諭の養成に工夫を重ね、模擬保健室を活用し、より実際の・具体的な実習・教育を展開しました。人間生活学科は「人生100年時代における生活の質向上」を探究し、社会と生活の変化に対応して活躍する人材を育成します。

食物栄養学科は、食を通じて健康な生活を支えるプロフェッショナルを育成します。そして管理栄養士国家試験に合格できる学力をつけることを教育の基本にして、冬期講習等、国家試験合格率向上のための工夫を重ねてきました。さらに、栄養や保健、衛生の高度な学識と技術をもち、「人間栄養学」すなわち人を健康にする栄養のプロフェッショナルである管理栄養士を養成し、生活習慣病を予防する栄養教諭の養成にも力を注ぎました。これらの目的のために、栄養学、解剖生理学、病理学、臨床栄養学を深く学ぶことができます。

児童学科では、国公立の小学校・幼稚園・保育所・認定こども園等の就職合格率も向上しました。また学生による合唱の発表等、音楽活動にも力を入れました。小学校教諭1種免許状などを取得するとともに、教育情報処理を学び、実践現場でコンピュータ類を有効に活用できる高度な教育的実践力の形成につとめ、小学校で外国の身近な生活や文化に親しませる基礎的な英会話の指導ができるようにします。近年の少子化は教員採用数に影響を与えており、厳しい状況ですが、子どもや保護者の心の理解とサポートのために準学校心理士資格の取得指導にも力を入れます。

メディアデザイン学科は、IT社会にふさわしい情報技術関連のスペシャリストを目指す学科であり、メディアテクノロジーを活用して問題を解決する能力を養成します。総合的に「情報領域」「調査分析領域」「コンテンツ領域」などを学ぶことができるという他大学にはない特色を活かしつつ、地域社会活性化プロジェクトに積極的に参加しました。コンピュータの知識・技術やデジタル制作技術を習得して、地域社会を支える実践的ICT人材を育成しています。年々学生数が増加しており、学科が認知されてきています。

建築デザイン学科では、3次元のモノ作りである3Dプリンタの応用やドローンなど最先端技術を積極的に取り入れ、4年になるまでにコンピュータによる設計ができるようにCAD教育に力を入れています。一方、地域に密着した活動も継続しています。そして人と生活と環境を大切にして、建築の3要素である「強・用・美」をそなえた建築・インテリアを創造する人材を育成しています。平成29年(2017年)から入学者数は募集

定員をコンスタントに超えており、卒業生は、総合建設業、設計事務所、住宅産業、不動産業などに100%就職しています。

心理学科は公認心理師法の施行（平成29年9月）で注目を集めています。中四国における臨床心理士養成校のパイオニアとしての永年の経験を元に、公認心理師養成に向けてカリキュラム等の整備をしました。教員自身が、第1回公認心理師試験（平成30年9月）に合格して着実に教育体制を整えています。心の問題は学校教育現場においても重要で、心理学を学び養護教諭をめざす人材の育成にも力を入れています。「心の痛みの分かる、暖かく冷静な人に」を目標に心理学科は進んでいます。

このように、各学科が多くの課題に果敢に挑戦していることの一部をお分かりいただけると思います。

令和3年度は、昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症が人々の生命と生活をおびやかし、未だ収束の兆しは見えません。感染を防ぐために対面授業から遠隔配信授業に切り替え、コロナ禍にあっても勉学が遅滞しないように努めました（別表参照）。学生は対面授業と遠隔配信授業の変化に柔軟かつ賢明に対応しましたが、実習系の授業科目には課題が残りました。

日本の大学を取り巻く状況は大変厳しいものがありますが、本学130周年に向けて、上に記したような各学科の取組を一層発展させていけば、我々は本学の明るい未来を必ず見出していくことができるものと確信しています。

人間生活学部長 森田孝夫

別表 令和3年度の授業の記録（遠隔配信授業を行った期間）

月 日	備 考
4月1日	前期開始
4月2日	入学式
4月7日～4月16日	遠隔授業
5月6日～5月14日	遠隔授業
7月19日～7月21日	遠隔授業
8月7日	夏季休業始まり
9月19日	前期終了
9月20日	後期始まり
9月21日～9月30日	遠隔授業
12月24日	冬季休業始まり
1月7日	冬季休業終了
1月11日～1月13日	遠隔授業
1月21日～1月25日	遠隔授業
1月26日～2月2日	遠隔授業（後期試験）
3月17日	卒業式
3月16日	春季休業始まり
3月31日	後期終了

目次

まえがき 人間生活学部長 森田 孝夫

第1章 人間生活学部の概要

第1節 学部の沿革と基本理念	1
第2節 学部の構成	3
第3節 学部運営組織（各種委員会の構成）	5
第4節 学部各種委員会活動報告	8

第2章 学科スタンダード

第1節 人間生活学科	28
第2節 食物栄養学科	29
第3節 児童学科	30
第4節 メディアデザイン学科	32
第5節 建築デザイン学科	33
第6節 心理学科	34

第3章 卒業生満足度評価 36

第4章 学生の授業評価アンケート 42

第5章 教員活動状況

第1節 人間生活学科	50
第2節 食物栄養学科	60
第3節 児童学科	88
第4節 メディアデザイン学科	118
第5節 建築デザイン学科	130
第6節 心理学科	144

## 第1章 人間生活学部の概要

### 第1節 学部の沿革と基本理念

#### (1) 沿革

本学園は明治 28 (1895) 年、学祖村崎サイ先生が「女も独り立ちできねばならぬ」と唱え、自立協同を建学の精神として、私立裁縫専修学校を創立したことに始まるが、その後、この専修学校が時代の変化・要請と共に拡大発展し、昭和 36 (1961) 年には徳島女子短期大学 (家政科)、次いで昭和 41 (1966) 年に徳島女子大学 (家政学部) が設置された。現在の人間生活学部はこうした歴史的発展のうえに成り立っているものである。

#### 〔沿革の概要〕

昭和 41 (1966) 年	徳島女子大学家政学部家政学科設置
昭和 42 (1967) 年	管理栄養士専攻設置 管理栄養士専攻設置が管理栄養士養成施設として認可
昭和 45 (1970) 年	児童学科設置
昭和 49 (1974) 年	被服学科設置 (昭和 61 年廃止)
平成 5 (1993) 年	家政学専攻科設置
平成 6 (1994) 年	生活環境情報学科設置
平成 9 (1997) 年	大学院家政学研究科食物学専攻・生活環境情報学専攻修士課程設置
平成 10 (1998) 年	大学院家政学研究科に児童学専攻修士課程設置 人間発達学科設置 大学院家政学研究科に人間生活学専攻博士後期課程設置 大学院家政学研究科児童学専攻臨床心理学コースが臨床心理士養成機関に指定
平成 12 (2000) 年	児童学科が保育士養成施設として指定認可
平成 14 (2002) 年	家政学部を人間生活学部に変更 家政学科管理栄養士専攻を食物栄養学科に、生活環境情報学科を生活情報学科と住居学科に改組転換 家政学科家政学専攻を人間生活学科に変更
平成 15 (2002) 年	人間福祉学科設置 人間発達学科を心理学科に変更
平成 18 (2006) 年	生活情報学科をメディアデザイン学科に変更
平成 19 (2007) 年	人間福祉学科を人間福祉学部人間福祉学科として独立
平成 21 (2009) 年	住居学科を建築デザイン学科に変更

#### (2) 基本理念

家政学部は昭和 41 年に設置されたが、その後、科学技術の急速な進歩や産業構造の高度化に伴って、社会構造も複雑化し、その結果、教育の大衆化、生活様式や価値観の多様化、情報化、少子高齢化、さらには心の問題、ヒューマンリレーションの欠如といった諸々

の問題が生じてきて、人間生活が大きく変貌してきた。

このような人間生活をめぐる社会的諸事象の変化に即応可能な人材を育成するため、従前のような衣食住を中心とする伝統的な家政学の分野を超えた新しい学部の在り方や内容を発展的・総合的に再検討する必要性が生じてきた。そこで、これまでの歴史的・社会的役割とその成果を継承しつつ、有意な教育・研究体制を確立して、より一層の社会的貢献を果たすべく、平成14年に家政学部を人間生活学部として新しくスタートさせ、今日に至っている。

現在、本学部は、それぞれに特色ある目的・内容を持った6学科と専攻科より構成されている。このいずれもが人間の「生」と深く関わったものである。人間は環境（文化的・社会的・自然的環境等）との相互作用によって規定され得る生命体であるが、この観点から言えば、人間の「生」の問題は、取りも直さず生命の保持、健康の維持・促進、人間としての成長と発達、人間らしい生活の営みと行動の在り方、対人関係、文化の習得とその創造などと常に不可分の関係にある。しかし、そこには幾多の解決されねばならない課題も存在しているため、本学部では人間の自立と環境との共生という観点から、これらの課題解決に向けて常に科学し、新しいビジョンの下に創造していくことのできる人材、従って社会の新しい分野を担うことのできる人材の育成を目指している。それだけに本学部は諸科学、つまり人文科学、自然科学、社会科学等が有機的に連関するところに成り立つ特色ある学部であると言える。人間の開発・人間の自立の問題も、こうした関連科学の探究によってこそ保障されるものであると考えられる。

ところで、現代は「知識基盤社会」と言われ、知の伝達、知の創造と発見、知の応用が大切であるとされるが、快適で健全なる人間生活の創造を考えると、「知識基盤社会」にふさわしい人間の教育をこそ重視していかなければならない。このため、本学部では建学の精神に立脚して、次のような人間の育成をめざすものである。

第一は、豊かな人間性を身に付けた人材の育成である。教育の目的は、まさしく人格の完成にある。このため、充実した教育・研究を通じて、倫理観に裏付けられた知性と技能を有する個性豊かな品位ある人間の育成を目指す。このことは「人間の自立」、「知性と人間性の尊重」における根本精神でもある。

第二には、高度な専門的知識・技能の習得を目指すことにある。基礎・基本の習得と幅広い教養教育の確立を前提として、知の時代にふさわしい先端的な知識・技能を広い視野から身に付けた人材、つまり社会から常に必要とされ、しかも地域社会においてのみならず、国際的にも貢献できる実践的な専門家の養成をねらいとする。

第三には、意欲的で創造的な人間教育である。学生のやる気・意欲を喚起し、夢と情熱を持って新しい事柄や未知の分野に柔軟な思考力で挑戦していく教育、従って知識・技能の応用力を高めつつ、学問的なパイオニア精神を培い、豊かな創造力を身に付ける教育を重視する。変化に対応できる人間教育である。

## 第2節 学部の構成

現在、人間生活学部は1～4学年をあわせて1,202名（5月1日現在）の学生を擁し、それぞれに特色ある人間生活、食物栄養、児童、メディアデザイン、建築デザイン、心理の6学科と専攻科から構成された学内最大の学部である。

ここで各学科の特性について要約的に述べれば、まず人間生活学科では、人間生活に関する衣食住のみならず、保育・保健・家族、さらには家庭経済や消費、環境問題、地域防災などを含めた内容を総合的に学びつつ、より健全なる人間の生き方を総合的に追究していく。学部のなかでは最も伝統ある学科である。食物栄養学科は、化学や生物などの内容を把握し、同時に人体の構造特性や機能等を理解したうえで、生活習慣病の予防をも視野に入れながら、人間の生命や健康に関わる食物栄養の特性などを実験等によって深く追究していく学科である。このため、管理栄養士養成を主たる目的としている。児童学科は、総合的な人間力を身につけた教育・保育の専門家を養成する学科である。乳幼児期から児童期に於いて、子どもの健全なる成長・発展と確かな学力を保障し、かつ、生きる力を育むことのできる専門的力量と豊かな指導性を養う学科である。

さらにメディアデザイン学科は、IT社会にふさわしい情報技術関連のスペシャリストを目指す学科であり、ソフトウェアの開発・ネットワークの構築技術、さらにはインストラクショナルデザインなどを幅広く習得して、常に進展し続けるIT社会に即応可能な人材育成に力点を置いている。平成19年1月のメディアセンターの完成により、最先端の情報施設・設備が整えられたことから、今後さらなる教育・研究の充実が期待される学科である。建築デザイン学科は、21世紀のよりよい住まいの創造、即ち住生活空間をまちづくりや環境共生、インテリアなどの観点から、常にフレッシュな感覚を持って、総合的・実践的に指導する学科である。心理学科は、国家資格・公認心理師法の施行で社会の注目を集め、複雑化する社会ならびに学校教育現場においてクローズアップされている心の問題に正面から取り組み、心のメカニズムや対人関係のあり方、人間の考え方（思考方法）、そして、カウンセリングの方法などを具体的・実践的に学び、メンタルヘルスに関わる専門的知識・技能を習得している。

専攻科については、平成17年度から従来の家政学専攻科を人間生活学専攻科に名称変更し、これに伴って家政学専攻も人間生活学専攻となり、現在では児童学専攻と人間生活学専攻の2専攻となっている。これらの専攻科では、学部の内容を踏まえた上で、さらに内容の深化・発展を図ることになる。

なお、これらの学科(専攻科含む)で取得可能な免許・資格及び定員については以下の別表のとおりである。



## 別表

学 科 名	取得可能な免許状・資格	入学定員	編入定員
人間生活学科	教員免許高一種・中一種（家庭・保健）、養護教諭一種、二級建築士受験資格（実務1または2年）フードスペシャリスト、社会福祉主事の任用資格、医療秘書、福祉住環境コーディネーター、防災士、上級情報処理士（N）	40	※
食物栄養学科	管理栄養士国家試験受験資格（実務経験不要）、栄養士、栄養指導員・食品衛生監視員・食品衛生管理者の任用資格、教員免許高一種・中一種（家庭）、栄養教諭一種、医療秘書	90	※
児童学科	教員免許小一種・幼一種、保育士、中学校英語二種・レクリエーション・インストラクター、スポーツ・レクリエーション指導者、准学校心理士・社会福祉主事・児童指導員・社会教育主事（任用資格）	100	※
メディアデザイン学科	教員免許高一種（情報）、上級情報処理士（N）、社会調査士、プレゼンテーション実務士、Webデザイン実務士	30	※
建築デザイン学科	教員免許高一種・中一種（家庭）、一級建築士受験資格（実務2年）、二級建築士受験資格（実務不要）、一級・二級建築施工管理技士受験資格、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーター検定	45	※
心理学科	養護教諭一種、認定心理士、社会福祉主事・児童指導員の任用資格、医療秘書 （公認心理師、臨床心理士は大学院修士修了受験資格）	100	※
※印の編入定員については、定員に余裕がある場合にのみ受け入れる。		(計) 405	

## 専攻科

専攻科	専 攻	修業年限	取得可能な免許状	入学定員	入学資格
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	1年	教員専修免許/高・中（家庭） 養護教諭	8	大学 卒業者
	児童学専攻		教員専修免許/小・幼	6	

### 第3節 学部運営組織（各種委員会の構成）

人間生活学部における運営組織については、教授が参加する学部教授会、全教員が参加する学部教授総会、学部長および各学科長による学科長会議、各学科の教員による学科会議、ならびに役割に応じた各種の委員会（全学的委員会への参加および学部独自に設置された各種委員会）がある。

学部教授総会は第2火曜日に開催することを原則としている。学部教授会は学部教授総会の一部として実施される他、必要に応じて学部長が招集する。

全学的委員会への参加を表1に、学部の各種委員会の構成を表2に示す。大学院等と学部を兼ねている教員もいるため、大学院等の委員会も含めて示している。

なお、学部の「教員養成推進委員会」については、平成17年度に全学的な視点からの教員養成対策委員会並びに教員養成対策室が設けられたことから、従来の「教育実習委員会」をこれに対応させて「教員養成推進委員会」に名称変更した。

学部の各種委員会について、各委員は2年毎に交代することを原則としている。令和3年度の学部委員会は10の委員会から構成されており、それぞれにおいて選出された委員長（委員会によっては副委員長も選出）のリーダーシップの下に、学部教授会での決議事項等を踏まえて、その役割を果たしている。

各種委員会の会議については、委員会活動の課題に応じて適宜開催されるが、その具体的な活動内容については委員長が毎年3月末に学部長に報告することになっている。

表1 令和3年度委員一覧（全学的委員会）

2021年度 委員一覧

人間生活学部  
2021年4月6日現在

区分	委員会	各学科委員						備考	
		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理		
全学的委員会	学生指導協議会				長濱			○ 学生支援課関係 1名（任期2年）(R1, 2年度:児童学科) ○ 学部学生指導委員会委員長とする（R3年度:メディア, 1年任期）	
	人権教育推進委員会				加治			○ 学生支援課関係 1名（任期2年, 小規模学科は1年） (30年度:人間生活学科)(R1, 2年度:児童学科)(R3年度:メディア)	
	紀要編集委員会			三橋				○ 教育研究支援課関係1名（任期2年） (R1, 2年度:食物栄養)(R3,4年度:児童・博士号あり)	
	全学入試委員会						土中	* 30,R1年度:食物栄養学科, R2,3年度:心理学科	
	大学入学共通テスト委員			津守				* 30,R1年度:食物栄養学科, R2,3年度:児童学科	
	ハラスメント防止委員会	防止員	竹内						○ 学生部関係 30,R1年度:心理学科, R2,3年度:人間生活学科
		相談員				古本			○ 学生部関係 30,R1年度:児童学科, R2,3年度:メディアデザイン学科
	インターンシップ推進委員会						山田	○ 就職支援部関係 1名（任期2年） 30,R1年度:児童学科, R2,3年度:建築デザイン学科	
	就職支援委員会						渡邊	○ 就職支援部関係 1名(任期2年)(30年度:建築デザイン学科) ○ 学部就職支援委員会委員長とする(R2,3年度:心理学科)	
	教育開発機構	教務委員会			河口				○ 教務部関係, 学科長輪番, R1,2年度:心理, R3,4年度:児童(主要学科) ○ 学部教務委員会委員長とする。
		一般教育研究部会			林				○ 全学共通教育センター・語学センター関係(含む新入生教育) * 29年度:食栄, 30,R1年度:児童, R2,3年度も児童にお願いしたい。
		SD推進委員会						森田	SD推進委員会設置要項にもとづき学長が指名する学部長
		FD研究部会			岡				学部内委員会の教育研究委員会に吸収する。委員長が兼務する。
	教職課程委員会	寺奥		三橋川端			貴志	○ 教務部関係 4名（任期2年:R2,3年度） ○ 教職科目担当 3名(内2名は児童学科, 1名は心理学科) ○ 学部代表 1名(教職免許取得者の多い上記以外の学科) 生活と栄養が交互(31, R2年度:食栄)(R3, 4年度:生活)	
	倫理審査委員会	藤田	石堂					○ 教育研究支援部関係2名（任期2年）R2-3年度も留任 石堂委員長・藤田副委員長(医師1名, その他1名) *	
	研究者倫理教育委員会						岡林	任期2年, 30-R1年度藤田, R2-3年度心理学科 *	
	選挙管理委員会						笠井	総務関係 1名(任期1年;隔年) R1,2年度古本 * R3,4年度建築	
	退学者防止対策検討委員会	池添	中川	岡山	山城	川村	中嶋	各学科から1名	
	広報担当委員会	竹内	坂井(堅)					学部広報委員会の正・副委員長とする(教育・研究年報)。 28,29年度:児童・メ, 30,R1年度:建築・心理, R2,3年度:人生, 食栄	
	自己点検・評価委員会(認証評価委員会)	衣川	石堂	河口	篠原	森岡	青木	R7年度第4回自己点検評価報告書の作成のため R2年度も学科長。R3年度も学科長。	
	自己点検・評価実施委員会		小川	岡			原田	主要学科(食栄, 児童, 心理)から1名	
	新入生セミナー運営委員会	2021年度実施	藤田池添	坂井(隆)森川	那住林	長濱山城	池田川村	土中貴志	○ 各学科より2名を選出して構成する。(半数を前年度委員とする) ○ 任期2年。実施委員会(委員長は学部長)委員を兼ねる。
		2022年度実施	寺奥池添	河野吉村	金子林	山城古本	笠井池田	福本貴志	○ 任期は翌年の実施後のアンケート処理までとする。
	チーム医療促進委員会			坂井(隆)森川				伊藤	委員長 * 医師, 管理栄養士, 臨床心理士各1名
	実験動物委員会			石堂					喜多委員長(薬学部)
	組み替えDNA委員会			石堂					石堂委員長 *
	<p>○ 上記の委員は、各委員会に出席し、その内容を学部教授会において報告・連絡するとともに、必要に応じて議案を提出するなどして、それぞれの責務において速やかな対応を図るように努める。同時に、学部の関連する委員会とも密接な連携を図る。</p> <p>* 学部長指名</p>								

表2 令和3年度委員一覧（人間生活学部各種委員会）

2021/4/6現在

区分	委員会	各学科委員						備考
		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理	
人間生活学部委員会	教務委員会 (学科長)	衣川	石堂	◎河口	篠原	森岡	青木	◎各委員は、所属学科のカリキュラムの実情を十分に把握したうえで学科間のカリキュラム調整を行う。(R1,2心理, R3,4年児童) ◎委員長は全学教務委員を兼ね他学部学科・教務部と調整をする。
	教育研究委員会 (FD研究部会) (各学科1名)	藤田	近藤	◎岡	○加治	山田	岡林	◎教員の研究発表会を運営する(発表者の選出、計画、実施) ◎学生による授業評価や研究授業等に関する運営全般を行う。 ◎学生図書購入申請リストの作成等を行う(年2回)など。(1年任期)
	入学試験委員会 (各学科1名)	竹内	坂井(隆)	津守	山城	山田	◎土中	◎委員長は全学入学試験委員を兼ねる。 (30,R1年度食栄・粟飯原、R2,3年度心理・小坂一土中)
	自己点検・自己評価委員会 (各学科1名)	○竹内	小川	岡	加治	池田	◎原田	◎主要学科委員は自己点検評価書の作成を行う実施委員を兼ねる。(年間を通じての計画作成・実施など) ◎原則として、年1回(3月頃)報告書を作成する(授業評価、研究授業、研究発表、就職状況、各科スタンダードの達成状況、新入生のイメージ調査の概要、共同研究の概要、社会的活動や業績など)(H30,R1建,R2児,R3心,R4人,R5食)
	学生指導委員会 (各学科1名)	寺奥	犬伏	松本	◎長濱	川村	中嶋	◎委員長は、学生指導協議会の委員も兼ねる。 ◎学生生活に関する各種調査を実施し報告書を作成する・ ◎クラス担任及びチューターの学生指導に関する内容をまとめたり、必要に応じて問題提起を行う、など。 ◎委員長はR3年メディア、R4年建築、R5,6年心理。
	広報担当委員会 (各学科1～2名)	○池添 衣川	◎坂井(望)	定國	古本 山城	池田	福本	◎委員長・副委員長は広報担当委員会の委員も兼ねる。 ◎広報誌(専攻科、大学院含む)の作成を担当する。(入試広報部と連携) ◎ホームページ(専攻科、大学院含む)の作成や修正を行い、常に新しい情報を収集して入試広報部に依頼LHPに掲載する。 ◎入試広報部と連携して高校訪問等の広報活動を企画運営する。
	教員養成対策委員会	衣川	石堂	河口	篠原	◎森田 森岡	青木	◎学部長及び学科長をもって構成する。 ◎委員長は学部長とする。
	教員養成推進委員会 (各学科1名)	○寺奥	◎松本	三橋	長濱	川村	貴志	◎委員長は必要に応じて学部の教員養成対策委員会に出席できる。 ◎委員会は教員養成向上のため、学部の教員養成対策委員会及び教員養成対策室と密接な連携を取り合っており、必要事項についての円滑な実施を図る。 ◎各種の校外実習(教育・保育・臨地実習等)を充実させるため、教育実習の手引き等を参考にして、その趣旨の徹底化を促す。 ◎必要に応じてアンケート調査等を実施し、実習における事前・事後指導を含む問題点を明確にするとともに、その改善策を提示するなど。
	就職支援委員	竹内	粟飯原	仁宇	古本	森岡	◎渡邊	◎委員長は全学就職支援委員会の学部委員を兼ねる。各学科1名。
	中期目標策定委員会	衣川	石堂	河口	篠原	◎森田 森岡	青木	◎委員長は学部長が務め、委員は学科長が務める。 ◎学園本部企画部の指示にしたがい2020年度から策定する。
	進路ウォーク委員	池添	吉村	林・那住	古本	川村	貴志	◎新入生セミナー運営委員会委員が兼務してよい。
	災害時初期対応者	衣川	石堂 粟飯原 坂井(望)	三橋 林 松本	篠原	山田	土中	選出条件: 大学から近距離に住み、災害時に大学へ駆けつけられる。
	保護者会とりまとめ				篠原			◎学科長1年任期 H29中津 H30岡部 R1石堂 R2河口 R3篠原
	履修ガイド (学科長)	R3年度		河口				◎学科長1年任期 H30中津 H31岡部 R2石堂 R3河口 R4篠原
		R4年度			篠原			
文理・幼小中高 学校薬剤師	藤田						R3年度より記載する。	

- 任期中に欠員が生じた場合、残任期間について補充することを原則とする。
- 各委員会においては、委員長及び副委員長を選出し、職務が円滑に遂行されるようにする。
- 各委員会の委員長は、年間の活動状況(委員会開催の日時、活動の概要、各委員の参加状況等)を別紙の様式にしたがって記載し、毎年学部長および自己点検・自己評価委員会委員長に提出し、「教育・研究年報」に活動状況を報告する(2月中旬に提出)。
- 全学的委員の交替については、原則として人間生活学科、食物栄養学科、児童学科、メディアデザイン学科、建築デザイン学科、心理学科の順とする。なお、各委員は、学部教授会で、必要に応じて当該委員会での報告等を行う。

◎ 委員長    ○ 副委員長

## 令和3年度 人間生活学部教務委員会活動報告

全学教務委員会委員  
河口 雅子

令和3年度においては全学教務委員会が2回開催され、各議題への協議がなされた。

### 1 第1回全学教務委員会（令和3年12月15日開催）

- (1) 補助金と教学マネジメントについて
- (2) 進級判定、卒業判定、退学勧告にGPAを活用することについて
- (3) 教育の内部質保証と学修成果の可視化について
  - ・徳島文理大学および短期大学部における教育の内部質保証について
  - ・ルービックを活用した教育成果の評価について（薬学部）
- (4) その他
  - ・キャンパスガイド履修要綱の変更について
  - ・クォーター制の検討について
  - ・出欠管理の徹底について

### 2 第2回全学教務委員会（令和4年3月26日開催）

- (1) 私立大学等経常費補助金特別補助について
- (2) クォーター制について
  - ・クォーター制のメリットに着目して導入する場合は、「学生の理解の状況」「授業の形態と特性」「同時期に導入するクォーター授業の数」等を考え併せる必要がある。
- (3) ディプロマポリシーの達成に向けた教育活動・学修のPDCAサイクル
- (4) 教育課程の変更について
  - ・指定規則の変更
  - ・教職再課程認定に伴う変更
  - ・学科の意向による変更

## I 委員会の目的

1. 図書（図書館収蔵）購入に関する事務を取り扱う：大学院生・学部生の勉学に資するため図書館に収蔵する図書を各委員が推薦し、委員会がとりまとめて購入申請を行う。
2. 「新任教員の研究紹介」発表会（年1回）を実施する：学部に新たに着任された教員の研究領域、業績、今後の教育・研究の展望を発表して頂く会を実施する。日時・場所の設定、発表者への依頼、抄録集の作成、当日の運営を行う。

## II 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。図書申請は大学院の図書も含まれるため、大学院担当の教員（各専攻1名）が必ず含まれることとする。
2. 令和3年度委員  
藤田義彦（人間生活学科）、近藤美樹（食物栄養学科）、◎岡直樹（児童学科）、  
○加治芳雄（メディアデザイン学科）、山田實（建築デザイン学科）  
岡林春雄（心理学科）  
〔◎印：委員長、○印：副委員長〕【敬称略】
3. 役割：図書申請（加治）  
「新任教員の研究紹介」発表会（全員）

## III 委員会開催の概要

### 第1回教育研究委員会

日 時：令和3年7月20日(火)12:20～12:45

場 所：1号館9階（大学院演習室②）

出席者：藤田（人間生活学科）、近藤（食物栄養学科）、岡（委員長・司会・児童学科）  
加治（副委員長・メディアデザイン学科）、山田（建築デザイン学科）、  
岡林（心理学科）【敬称略】

### 議題

1. 図書申請について
  - (1) 学部及び大学院担当：加治（副委員長）が担当する。
  - (2) 申請時期：第Ⅰ期（8月）、第Ⅱ期（10月）、予備（第Ⅲ期12月）
  - (3) 予算：学部 500万円、大学院 70万円
2. 新任教員の研究発表会について  
今年度もこれまでと同様に実施することとした。
  - (1) 発表対象者  
協議の結果、次の5名（敬称略）が今回の発表者として選出された。なお、事務職兼務および助教は対象としないことを確認した。

- ① 人間生活学科：寺奥敦子
  - ② 食物栄養学科：吉村英悟
  - ③ 児童学科：定國雅洋
  - ④ 心理学科（2名）：中嶋英治、伊藤泰彦
- (2) 日程：(予定) 9月14日(火) 学部教授会終了後(14時30分開始予定)
- (3) 場所：9703 講義室（学部教授会と同じ場所）
- (4) 担当（敬称略）
- ①司会（タイムキーパーを含む）：近藤、山田
  - ②資料作成 3名：岡林、藤田、岡
  - ③会場設営 1名：加治
- (5) 発表形式：15分（発表12分+質疑応答3分）
- (6) 休憩：休憩はなしで実施

以上について協議された。

#### IV 図書購入申請の概要

主に8月と10月のII期で購入申請を行った。人間生活学部全教員からの購入希望図書を集約し、購入申請を行った。購入することができた冊数は、学部、大学院とも令和2年度よりも多かった。

	予算	執行金額	冊数
学部図書	5,000,000円	4,999,924円	827冊(DVD含む)
大学院図書	700,000円	699,401円	222冊(DVD含む)

#### V 活動のまとめ

図書申請と新任教員研究発表会を中心に活動を行った。図書申請については、購入希望冊数は、最終的にほぼ予算通りであったため、学科間の調整無しで購入申請することができた。新任教員の研究紹介については、発表対象者を教授、准教授、講師とした。本年度は対象者5名であり、9703 講義室にて実施した。

## 令和3年度人間生活学部入試委員会

入試委員会委員長  
土中 幸宏

### I 委員会の目的

- ① 学生確保に資する方策を検討する。
- ② 人間生活学部における入学試験に関する事項について、学科間の意見を調整し、学部教授会にて承認を得る。
- ③ 全学入試制度検討委員会および全学入試委員会と人間生活学部教授会との円滑な情報交換に資する。
- ④ 学務入試グループと連携を図る。

### II 入試委員会の活動概要

#### (1) 構成メンバー

委員長：土中（心理）

委員：竹内（人間生活）、坂井（隆）（食栄）、山城（メディア）、山田（建築デザイン）、津守（児童）、土中（心理）

全学入試委員会委員：土中（心理）

共通テスト担当：津守（児童）

#### (2) 主な作業

##### ・入試要項の確認

各学科に入試要項の校正を依頼、取りまとめ

##### ・地方試験場派遣者の検討・決定

地方試験場派遣者の選出を各学科へ依頼、取りまとめ

##### ・入試問題仕分け作業

##### ・各種入試志願者の情報確認

各種入試志願者の情報確認を各学科に依頼

##### ・各種入試合否判定

各種入試の合格者数、合格得点率などのデータ入力

##### ・全学入試委員会への参加

来年度入試改革の検討

##### ・大学入試センター試験（共通テスト）業務

試験監督割り振り、試験会場準備、試験実施および実施後の処理など

##### ・学務入試グループとの連携

総合型選抜入試面談日固定案の検討

共通テスト試験業務：準備、実施他

#### (3) 活動のまとめ

入試委員長および全学入試委員は、年度内に複数回の各種入試に対応する必要があり、かつ人間生活学部は学科数が多く、入試業務は多岐にわたった。こうした中、昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症への対策が求められる状況下、オンライン面接の積極的な活用等、より一層スムーズに業務処理が行えるよう努めた。



## 令和3年度 学生指導委員会報告

学生指導委員会委員長  
長濱 太造

### I 委員会の目的

全ての学生が学生生活の充実をはかり、実りある大学生を送れるようにその方策を検討する。学生生活に関する調査を実施し、学生の生活指導に役立つよう報告書を作成する。

### II 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。
2. 令和3年度委員

寺奥敦子(人間生活学科)、犬伏知子(食物栄養学科)、松本有貴(児童学科)、○長濱太造(メディアデザイン学科)、川村恭平(建築デザイン学科)、中嶋英治(心理学科) [○印：委員長] 【敬称略】

### III 委員会開催の概要

#### 第1回学生指導委員会

日時：10月5日 メール会議まとめ：活動内容についての検討

1. 全学の学生指導・支援協議会が9月13日(月)に書面会議で開催された。全学の委員会から学部の委員会へ仕事の依頼等は無かった。

2. 本年度の活動について、次の3案について検討した。

- 1) 学生生活の変化を昨年度と比較、把握するため、昨年度と同じ調査を実施する。
- 2) 昨年度の調査を改良して実施する。
- 3) 新しい調査を考案し、実施する。

その結果、「1) 学生生活の変化を昨年度と比較、把握するため、昨年度と同じ調査を実施する。」に決定した。

#### 第2回学生指導委員会

日時：10月6日 メール会議まとめ：アンケート調査の内容等についての検討

1. 2020年度の調査目的、内容、時期、学生への連絡、結果の共有方法について確認した。

2. 2021年度の調査目的、内容、時期、学生への連絡、結果の共有方法について検討した。

### 第3回学生指導委員会

日時：10月18日 メール会議まとめ：アンケート調査の内容等についての確認・決定

1. 2021年度の調査目的、内容、時期、学生への連絡、結果の共有方法について確認した。

#### 2. アンケート調査の目的

コロナ禍の影響により、遠隔授業や外出自粛を余儀なくされている学生の現在の状況や課題を調査し、今後の授業や生活に対する支援の参考とする。

### 第4回学生指導委員会

日時：令和4年2月17日 メール会議まとめ：アンケート集計結果についての検討

#### 1. アンケート集計結果について検討した。

- ・全体の回答率が60%を超えており、学生生活の実態把握に役立つものとなった。
- ・調査内容は昨年度と同じなので、今年度と比較できるようにした。
- ・回答者属性（性別、住居、学年）による特徴を分析する。学科別の特徴は調べない。
- ・単純集計、等質性分析、自由記述を元にまとめた。
- ・その他、無回答は除外して分析した。
- ・今回のアンケートは回答者属性を除くと22問あり、その半数が複数回答の設問である。
- ・複数回答データは、いわゆる「検定」ができない。
- ・複数回答データに対しても実施可能な等質性分析（SPSSでは多重応答分析）で特徴を把握した。
- ・単数回答に対しても等質性分析は実施できる。
- ・半数は独立性の検定、半数は等質性分析という方法もあるが、結果をシンプルに把握するため、今回は属性（性別、住居、学年）×22問を全て等質性分析で分析した。
- ・等質性分析
  - ・散布図上に似ている変数同士を近くに配置する。
  - ・原点付近は属性にかかわらず選択数が多い項目が配置される。つまり特徴が無い項目といえる。
  - ・単数回答と複数回答を同時に分析可能である。
  - ・（有意水準0.05のような）明確な基準はない。
  - ・選択者数が極端に少ない項目は、「外れ値」として分析から外す。

#### 2. アンケート集計結果の公開、周知方法について検討した。

1) 学生に対しては、学部HPで2021年度版「教育・研究年報」が公開された後、学生ポータルサイトから次の内容をアナウンスする。

「2021年度 学生アンケート（人間生活学部）集計結果」について

人間生活学部 学生指導委員会からの連絡です。

学部HPで「教育・研究年報」が公開されました。

その中に「2021年度 学生アンケート（人間生活学部）」の集計結果を掲載しておりますのでご確認下さい。

（年報が公開されている Web ページの URL。変更がなければ以下と同じ。）

<https://www.bunri-u.ac.jp/faculty/human-life/>

2) 教職員に対しては、令和4年3月8日（火）の学部教授総会で資料を配付し、学生指導に役立てて頂くよう依頼した。また、学生部をはじめ、関係部署に配布した。

#### IV アンケート結果と考察

### 人間生活学部 2021年度学生アンケート集計結果

性別、学年、実家か下宿かの属性による相違があるかどうかを等質性分析で検討した。

#### Q1 あなたが所属する学科をお選びください

	在籍者数	回答者数	回答率%	構成割合%
人間生活学科	95	100	105.3	13.3
食物栄養学科	230	160	69.6	21.2
児童学科	251	182	72.5	24.2
メディアデザイン学科	84	59	70.2	7.8
建築デザイン学科	189	41	21.7	5.4
心理学科	334	171	51.2	22.7
6学科合計	1183	753	63.7	100.0

他学科の学生が人間生活学科を選択しており、回答者数・回答率が本来より高くなっている。全体で63.7%の回答率は高いと評価できる（昨年度は63.0%）。

#### Q2 あなたの性別をお選びください

	人数	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%
女性	508	71.2	65.3
男性	205	28.8	34.7
合計	713	100.0	100.0

#### Q3 あなたの現在の住まいをお選びください

	人数	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%
実家	322	45.2	47.8
下宿（一人暮らし）	369	51.8	49.8
学生寮	12	1.7	1.3
親戚の家	6	0.8	
その他	4	0.6	1.1
合計	713	100.0	100.0

※ 選択肢「親戚の家」は2021年度の新設項目。

#### Q4 あなたの学年をお選びください

	人数	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%
1年生	192	26.9	28.6
2年生	168	23.6	25.4
3年生	213	29.9	24.2
4年生	140	19.6	21.8
合計	713	100.0	100.0

**Q5 クラブやサークルへの所属状況をお選びください**

	人数	2021年度		2020年度	
		構成割合%	構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.クラブに所属	160	22.4	27.1		
2.同好会・サークルに所属	125	17.5	13.8		
3.以前は所属していたが、今は所属していない	110	15.4	16.9		
4.今まで一度も所属したことはない	318	44.6	42.2		
合計	713	100.0	100.0		

「クラブに所属」と「同好会・サークルに所属」の合計は、2021度(40.0%)は2020度(40.9%)とほぼ同程度。

2年生、実家は「今まで一度も所属したことはない」が高い。

1年生、下宿はクラブ・同好会・サークルに所属が高い。

4年生は、以前は所属していたが、今は所属していないが高い。

**Q6 2年生以上の学生で、クラブ・サークル等に所属している方におたずねします  
昨年度と今年度を比較して、活動頻度の状況をお選びください**

	人数	2021年度		2020年度	
		構成割合%	構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.同じくらいできている	70	35.5	11.9		
2.どちらかという減った	47	23.9	21.1		
3.約半分になった	12	6.1	11.9		
4.かなり減った	39	19.8	39.2		
5.全くできていない	24	12.2	14.5		
無回答	5	2.5	1.3		
合計	197	100.0	100.0		

※対象：2年生以上でクラブ、同好会、サークルに所属している学生197人

2021年度は「減少した」(2.どちらかという減った～5.全くできていない)が64.5%であり、  
コロナ禍の影響で活動頻度が低下した2020年度より、さらに活動頻度が下がっている。

2年生は「同じくらいできている」を選択した学生が多い。

3年生は「減少した」を選択した学生が多い。

**Q7 クラブ・サークル等の活動で困っていることは何ですか？(全学年対象；複数回答可)  
(2年以上でクラブ・サークルに所属している学生対象；複数回答可)**

	選択数	2021年度		2020年度	
		選択率%	選択率%	選択率%	選択率%
1.今後の活動の見通しが見つからない	40	20.3	38.3		
2.毎年行っていた行事など実施できない	96	48.7	66.5		
3.活動場所を確保できない	13	6.6	7.9		
4.部員同士で連絡や相談ができない	4	2.0	4.4		
5.部員数が大きく減少した	54	27.4	15.4		
6.困っていない	57	28.9	42.3		
その他	4	2.0	4.4		
合計	268	136.0	179.3		

※対象：2年生以上でクラブ、同好会、サークルに所属している学生197人

属性による違いはみられない。

**Q8 あなたは主としてどのような機器で遠隔授業を受けていましたか？(複数回答可)**

	選択数	2021年度		2020年度	
		選択率%	選択率%	選択率%	選択率%
1.パソコン	577	80.9	77.7		
2.スマートフォン	514	72.1	72.0		
3.タブレット	48	6.7	0.9		
合計	1139	159.7	150.6		

属性による違いはあまりみられない。

スマートフォンで授業を受ける割合は、パソコンで受ける割合と同程度ある。

Q9 あなたの住まいのネットワーク環境(Wi-Fi、有線LAN、携帯電話(テザリングを含む))はどうですか？

	人数	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%
1.データ通信量が無制限で、安定してつながるので、不安は無い。	381	53.4	47.1
2.データ通信量は無制限だが、つながらないことがあるので、やや不安がある。	198	27.8	30.3
3.安定してつながるが、データ通信量に制限(上限)があるので、やや不安がある。	91	12.8	15.1
4.データ通信量に制限(上限)があり、つながらないことがあるので、不安がある。	33	4.6	6.0
5.遠隔授業を受講できる機器の環境は整っていない。	1	0.1	0.4
その他	2	0.3	0.0
無回答	7	1.0	1.1
合計	713	100.0	100.0

属性による違いはあまりみられない。

Q10 あなたが受けていた遠隔授業はどのようなものですか？(複数回答可)

	選択数	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%
1.GoogleClassRoomによるリアルタイムの授業	690	96.8	98.1
2.GoogleMeet等によるリアルタイムの授業	603	84.6	57.5
3.ビデオ配信による授業	205	28.8	24.0
その他	0	0.0	0.3
合計	1498	210.1	179.9

属性による違いはあまりみられない。

2021年度は「2.GoogleMeet等によるリアルタイムの授業」がやや増加した。

Q11 遠隔授業は対面授業に比べると印象はどうですか？

	人数	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%
1.対面授業より大変である	208	29.2	37.8
2.対面授業より容易である	466	65.4	55.9
その他	35	4.9	5.3
無回答	4	0.6	0.9
合計	713	100.0	100.0

属性による違いはあまりみられない。

2021年度は「1.対面授業より大変である」がやや減少し、「2.対面授業より容易である」がやや増加した。

自由記述: 対面授業より容易だが対面の方が勉強になる。

自由記述: 応答の面で不便だが、出席の面では容易。

Q12 遠隔授業は、対面授業と比べて学習効果はありましたか？

	人数	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%
1.かなり効果があった	79	11.1	10.2
2.何らかの効果があった	177	24.8	26.3
3.どちらともいえない	321	45.0	39.0
4.あまり効果がなかった	106	14.9	20.7
5.全く効果がなかった	28	3.9	3.2
その他	0	0.0	0.1
無回答	2	0.3	0.4
合計	713	100.0	100.0

2年生は「何らかの効果があった」、3年生は「あまり効果がなかった」が高い。

自由記述: テスト勉強がやりやすかった

Q13 遠隔授業では、教員とのコミュニケーションは取れていましたか？

	人数	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%
1.全く取れていない	118	16.5	16.6
2.ある程度取れていた	549	77.0	78.2
3.よく取れていた	37	5.2	4.4
その他	5	0.7	0.5
無回答	4	0.6	0.3
合計	713	100.0	100.0

属性に違いはみられない。

自由記述：授業によって違う。

自由記述：Google Meetで授業が配信されていない不具合があったときに、教授に伝える事が難しかった。

Q14 今後の遠隔授業について、あなたはどのように考えますか？

	人数	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%
1.遠隔授業を拡大してほしい	150	21.0	20.5
2.遠隔授業と対面授業を併用してほしい	427	59.9	54.7
3.対面授業だけでよい	128	18.0	22.6
その他	6	0.8	1.6
無回答	2	0.3	0.7
合計	713	100.0	100.0

1年生は「遠隔授業を拡大してほしい」、3年生、男性は「3.対面授業だけでよい」が高い。

自由記述：状況によって対面授業と遠隔授業を使い分けてほしい。

Q15 大学の休みの日には主に何をしていますか？（複数回答可）

	選択数	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%
1.自宅で友人や家族と一緒に過ごす	286	40.1	44.9
2.自宅で一人で過ごす	420	58.9	56.6
3.自宅で一人だが、ネットで繋がるゲームや電話で誰かとつながっている	155	21.7	22.2
4.大学のクラブサークル活動に参加している	74	10.4	13.3
5.大学で勉強や研究活動をしている	46	6.5	6.6
6.友人や家族と一緒に出かける	330	46.3	34.9
7.一人で出かける	235	33.0	26.3
8.アルバイト	388	54.4	10.1
その他	9	1.3	1.1
合計	1943	272.5	215.9

※ 選択肢「8. アルバイト」は2021年度の新設項目。

2020年度は「その他」の中のアルバイトに関するものを集計した数値。

2021年度は「アルバイト」の選択率が40%増加した。

実家で生活する学生は「自宅で友人や家族と一緒に過ごす」「友人や家族と一緒に出かける」、下宿生は「自宅で一人で過ごす」が高い。

Q16 今年度になり大学内で新しい友人はできましたか？(複数回答可)

	2021年度		2020年度
	選択数	選択率%	選択率%
1.学科(授業)が一緒になった	391	54.8	51.0
2.出身地が一緒だったことがきっかけで	103	14.4	14.5
3.クラブ・サークルが一緒になった	159	22.3	23.1
4.マンション等近所に住んでいる	26	3.6	3.9
5.バイト先が一緒になった	140	19.6	21.4
6.もともとの友人の紹介	85	11.9	14.7
7.LINEでつながる友人ができた	52	7.3	9.6
8.できていない	193	27.1	7.6
その他	9	1.3	0.7
合計	1158	162.4	146.3

属性による違いはあまりみられない。

2021年度は「できていない」の選択率が20%増加した。

自由記述: ボランティア、採用試験対策・実習などの機会

Q17 今も交流がある徳島文理大学生以外の友人はいますか？(複数回答可)

	2021年度		2020年度
	選択数	選択率%	選択率%
1.中・高時代の友人と今も交流がある	604	84.7	82.5
2.文理大学以外のクラブ・サークルで友人がいる	62	8.7	10.0
3.趣味の集まりでできた友人がいる	113	15.8	16.6
4.マンション等近所に住んでいることがきっかけでできた友人がいる	11	1.5	1.9
5.バイト先が一緒になったことがきっかけでできた友人がいる	190	26.6	25.1
6.会う前にSNS等インターネットがきっかけでできた友人がいる(対面したことあり)	75	10.5	8.6
7.会ったことはないがSNS等インターネットでつながる友人がいる(対面したことなし)	95	13.3	11.3
8.宗教等の勧誘でできた友人がいる	0	0.0	0.3
9.いない	56	7.9	1.7
その他	5	0.7	0.8
合計	1211	169.8	158.7

属性による違いはみられない。

自由記述: 自動車教習所、実習、小学校前、中学校前からの友人

Q18 何か不安なことはありますか？(複数回答可)

	選択数	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%
1.一日中誰とも話をしない日があり、不安・不満が溜まっている	38	5.3	8.0
2.起きられるのかなど生活習慣の乱れが心配だ	240	33.7	34.1
3.コロナ不況で、親からの仕送りが減りそうで不安だ	19	2.7	3.6
4.バイトをやろうと思っても、選択肢や募集自体が少ない	89	12.5	15.5
5.大学を続けられるかどうか不安だ	54	7.6	6.1
6.楽しい大学生生活を過ごせるか心配だ	129	18.1	22.4
7.夜色々と考えて眠れなくなる	139	19.5	15.4
8.就職活動が不安だ	284	39.8	1.9
9.特にない	197	27.6	38.5
その他	23	3.2	1.7
合計	1212	170.0	147.3

※ 選択肢「8. 就職活動が不安だ」は2021年度の新設項目。

2020年度は「その他」の中の就職活動に関するものを集計した数値。

2021年度は「8. 就職活動が不安だ」の選択率が約38%増加した。

また、3年生の「8. 就職活動が不安だ」が高い。

「コロナ不況で、親からの仕送りが減りそうで不安だ」

「バイトをやろうと思っても、選択肢や募集自体が少ない」「大学を続けられるかどうか不安だ」と経済的な不安が高い様子がうかがえる。

自由記述: 経済的な不安。将来の不安。

Q19 コロナ感染関連の不安・ストレスはありますか？(複数回答可)

	選択数	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%
1.スーパー等買い物に出ても、コロナに感染しないか心配だ	80	11.2	24.4
2.大学構内まで行けても、教室内は密の様な気がして不安だ	104	14.6	23.9
3.少し咳が出ても、ちょっと体がだるくてもコロナではないかと不安になる	132	18.5	25.0
4.PCR検査を受けてみたいが費用が掛かり過ぎてできないので不安だ	46	6.5	7.6
5.抗体検査程度は受けておきたいが費用の面でできないので不安だ	38	5.3	6.8
6.自分の部屋以外、ドアノブ等に素手で触れなくなった	17	2.4	3.9
7.特にない	433	60.7	43.0
その他	21	2.9	3.9
合計	871	122.2	138.4

2020年度と比較して、2021年度は全体的に心配・不安の選択率が低下し、「7. 特にない」は増加した。

属性による違いはみられない。

「PCR検査を受けてみたいが費用が掛かり過ぎてできないので不安だ」、

「抗体検査程度は受けておきたいが費用の面でできないので不安だ」、

「自分の部屋以外、ドアノブ等に素手で触れなくなった」は

他の選択肢より多くはないが、理解が必要である。

自由記述: ワクチン未接種への偏見・公共交通機関・エレベーター



Q20 ストレスを抱えて体調はいかがですか？(複数回答可)

	選択数	2021年度		2020年度	
		選択率%	選択率%	選択率%	選択率%
1.頭痛や腹痛食欲不振がある	144	20.2	13.8		
2.教科書や本を読み通す気力がない	114	16.0	12.6		
3.将来の事を考えると動悸が激しくなる	78	10.9	10.5		
4.寝起きなど規則正しくできなくなってきた	172	24.1	20.2		
5.何も考えていないのになぜか涙が	65	9.1	7.2		
6.以前は無かったが、気づくとぼんやり	137	19.2	17.1		
7.体調不良はない	369	51.8	53.8		
その他	7	1.0	1.5		
合計	1086	152.3	136.7		

属性による違いはみられない。

自由記述: 不安感やイライラなどマイナスな感情がコントロールできないことがある

Q21 コロナの感染がないときと比べ、あなたのストレスの度合いはどの程度ですか？

	人数	2021年度		2020年度	
		構成割合%	構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.とてもストレスや不安を感じている	112	15.7	19.1		
2.少しストレスや不安を感じている	268	37.6	41.4		
3.どちらともいえない	203	28.5	22.2		
4.あまりストレスや不安を感じていない	79	11.1	9.2		
5.ストレスや不安を全く感じていない	49	6.9	6.9		
無回答	2	0.3	1.2		
合計	713	100.0	100.0		

属性による違いはあまりみられない。

Q22 生活面で不安を感じた時や困ったときに、あなたはどのような行動を取っていますか？

	人数	2021年度		2020年度	
		構成割合%	構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.誰かに相談する	316	44.3	42.1		
2.テレビのニュースや新聞で情報収集をする	17	2.4	3.7		
3.インターネットで情報収集をする	119	16.7	17.4		
4.場面によって使い分けている	178	25.0	21.8		
5.何もしない	75	10.5	13.4		
その他	5	0.7	0.9		
無回答	3	0.4	0.7		
合計	713	100.0	100.0		

女性は「誰かに相談する」、男性は「何もしない」が高い。

自由記述: カウンセリングを受ける・趣味をする・寝る

Q23 生活面で不安を感じた時や困ったときに、相談(話し)相手になってくれる人は誰ですか？(複数回答可)

	選択数	2021年度		2020年度	
		選択率%	選択率%	選択率%	選択率%
1.家族親戚	514	72.1	71.6		
2.大学の友人	438	61.4	64.4		
3.大学以外の友人	343	48.1	44.6		
4.大学の先生	82	11.5	11.4		
5.大学の相談窓口	7	1.0	1.3		
6.カウンセリング等の専門家	24	3.4	2.1		
7.相談相手はいない	49	6.9	6.9		
その他	10	1.4	1.9		
合計	1467	205.8	204.2		

属性による違いは見られない。約7%が相談相手がいないと回答。

自由記述: 友人・恋人・先輩・恩師

**Q24 誰かに相談する場合、どのような方法で連絡を取りますか？**

	人数	2021年度		2020年度	
		構成割合%	構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.直接会っている	241	33.8	31.2		
2.電話など「声」が中心	167	23.4	27.0		
3.SNSやLINEなど「文字やチャット等」が中心	120	16.8	17.3		
4.ZOOMなど「顔が見えるシステム」を活用	5	0.7	0.7		
5.場面によって使い分けている	130	18.2	16.3		
6.相談しない	44	6.2	6.5		
無回答	6	0.8	1.1		
合計	713	100.0	100.0		

実家で暮らす学生は「直接会っている」、下宿生は「電話など「声」が中心」の回答率が高い。

**Q25 本学保健センターには、心身の健康をサポートする相談日  
(臨床心理士によるカウンセリングや校医による健康相談)があることを知っていますか？**

	人数	2021年度		2020年度	
		構成割合%	構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.知っていて利用したことがある	41	5.8	4.2		
2.知っているが利用したことはない	401	56.2	45.4		
3.知らなかった	268	37.6	49.4		
無回答	3	0.4	0.9		
合計	713	100.0	100.0		

男性、1年生は「知らなかった」が高い。

「知っているが利用したことはない」(56.2%)と「知らなかった」(37.6%)に対応が必要であると思われる。

**Q26 生活面で不安を感じた時や困ったときの大学におけるサポート体制として、  
強化してほしいものはありますか？(複数回答可)**

	選択数	2021年度		2020年度	
		選択率%	選択率%	選択率%	選択率%
1.専門家へ相談できる窓口	145	20.3	30.3		
2.学生支援課からのサポート	169	23.7	39.2		
3.大学教員からのサポート	179	25.1	39.8		
4.学内外で相談できる窓口の情報	105	14.7	21.4		
5.特でない	344	48.2			
その他	8	1.1	0.8		
合計	950	133.2	131.5		

※ 選択肢「5. 特でない」は2021年度の新設項目。

2021年度は全体的に選択率が低下した。

属性による違いは見られない。

自由記述: 給付金・チャットやメールを通した相談窓口

**V 総括**

昨年度に続き、今年度もコロナ禍における学生生活に関するアンケート調査を実施し、昨年度と今年度の比較ができるようにまとめた。また、学部全体の回答率が60%を超えており、コロナ禍の学生生活を理解し、今後の学生指導・支援に役立てることができると期待する。

本年度のアンケートへのご協力に委員会一同より各学部の先生方、学生の皆様に深く御礼を申し上げ、集計結果のご高覧をお願い申し上げます。

## 令和3年度 人間生活学部広報担当委員会活動報告

広報担当委員会委員長 坂井堅太郎

### 1. はじめに

人間生活学部広報担当委員会は、学部6学科から各1・2名、計9名の委員により構成され、入試広報部との連携のもと、大学案内やホームページの作成、各種の広報活動を行っている。令和3年度は委員会を1回開催し、その後もメール等で情報共有を行った。

### 2. 2021年度 第1回人間生活学部広報担当委員会

日時：令和3年12月7日（火）16時20分～16時50分

場所：1号館10階大学院講義室

出席者：池添純子（人生）、粟飯原乙起（食栄）、山城新吾（メディア）、  
池田文夫（建築）、福本浩行（心理）、定國雅洋（児童）  
欠席者：衣川明美（人生）、古本奈奈代（メディア）  
委員長（進行）：坂井堅太郎（食栄）

#### 議題：

##### 1. 学部・学科ホームページについて

学部・学科に加えて大学院（人間生活学研究科）および健康科学研究所のホームページからBlognでの情報発信は終了していることが坂井委員長から報告された。

今年度は入試広報部と協力し、動画作成やバーチャル施設見学を作成するなど、各学科のホームページの充実化が図れた。一方で、現在は宿泊セミナーなどの学部合同のイベントがなく、学部のホームページの充実化が今後の課題であることが協議された。

また、WordPressによるホームページ作成には専門的な知識が必要であることから、そのような知識を習得したい、あるいは積極的に情報発信をすることに意欲のある教員が本委員会のメンバーとなることが理想的であることが協議された。

##### 2. その他

坂井委員長から大学院（人間生活学部研究科）の情報に関して、「博士学位論文」および「博士論文の内容の要旨および博士論文審査の結果の要旨」は公開義務があり、これまでに1件の博士論文がホームページ上に掲載されていることが紹介された。今年度は、博士論文の審査が予定されているので、来年度の委員長への引継ぎ事項として報告された。

3. 各学科のホームページ投稿実績、新聞・テレビ・雑誌等各種メディアでの掲載・紹介実績、その他各学科独自広報活動（純粋な学外実習や社旗貢献活動とは別）について

#### 【人間生活学科】

○ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数（2021.4～2022.3末時点）

学科の特徴と魅力：学科情報（資格・研究室等）3，学科イベント3，学科だより：2，  
オープンキャンパス：5，教員採用・就職：4，授業紹介：5 計22件

○新聞・テレビでの掲載紹介実績

- ・令和3年11月17日 NHK ニュースとく6 徳島にて、池添研究室学生が美波町で行った防災に関する調査がニュースで取り上げられた。
- ・令和4年3月11日 徳島新聞【地域総合面】にて、池添研究室学生が美波町で行った調査結果が「高齢者防災意識 交流活発で高く」という記事で取り上げられた。

○その他学科独自の広報活動

- ・学科だより（A4）を vol.8～vol.11 まで刊行し、オープンキャンパスや高校訪問などの広報に活用した。Vol.8～vol.11 の各テーマは以下の通りである。
  - vol.8 (2021.5.20) 学科の学びと資格
  - vol.9 (2021.7.20) 就職先と学科イベント
  - vol.10(2021.9.20) 目指せる資格 その1～本学科で目指す編
  - vol.11(2021.11.20) 目指せる資格 その2～さらにチャレンジ編
- ・編入学生用チラシを作成し、編入学募集要項に同封して郵送した。
- ・instagram の更新を計 27 回行い、フォロワー数を約 260 名へ増やした。
- ・人間生活学科オリジナルTシャツ及びクリアファイルの作成を行い、オープンキャンパス等でスタッフが着用したり、資料配布に使用したり、ロゴマークを活用して学科イメージを周知した。
- ・令和3年7月26日 愛媛県立伊予高等学校へ衣川先生が訪問し、「ファッションブランドはどのようにしてできているのか？」について出前授業を行った。約40名の高校生が受講した。

【食物栄養学科】

○ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

(2021年4月1日～2022年2月3日時点)

学科からのお知らせ：10 学科の特徴と魅力：5 入学式：1

オープンキャンパス：5 計21件

○その他学科独自の広報活動

- ・学科の特徴と魅力をまとめたA4 チラシを作成し、高校訪問などの広報に活用した。
- ・HACCP 対応の調理室（14号館）の魅力を伝えるため、A4 チラシをオープンキャンパスなどの広報に活用した。
- ・令和3年7月20日給食経営管理実習の実習内容や、献立、学生が作成したチラシなどを公開し、学科の特徴や魅力を伝えた。
- ・令和3年10月22日、食物栄養学科の「もちっとむぎゅとの会」が、アスティとくしまで開催されている徳島ビジネスチャレンジメッセに出店した。
- ・令和3年12月24日、2年間、コロナ禍により大学祭が中止となったことで、学生よる「健康ランド」の紹介動画を作成した。

【児童学科】

○ ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

- ・「公立小学校・幼稚園教諭・保育士採用試験合格者数」速報

- ・学科からのお知らせ (2)    ・入学式 (1)    ・卒業式 (1)    ・交流活動(1)
  - ・オープンキャンパス (2)    ・児童学科の魅力を伝える動画やチラシ(2)
  - ※ 「徳島の新しい生活様式の様々な実践」の一つとして「徳島県\_新しい生活の補助線」プロジェクトに学生が「HOME」をテーマとした創作作品を制作し、動画配信した。  
-2021年4月12日児童学科のページでも公開-
  - ※ 「高校生のための児童学科 Q&A」の記事を追加し、常時閲覧できるよう改訂中
- その他、学科独自の広報活動
- ・ 児童学科だよりの作成 (月1回発行)
  - ・ 児童学科の特徴と魅力を伝えるチラシを作成(A4版カラー両面)
  - ・ 児童学科の先輩からのビデオメッセージをオープンキャンパス時に公開。
  - ・ 児童学科オリジナルデザインのキーホルダー、クリアフォルダー等を作成しオープンキャンパスや高校訪問等で配布。
  - ・ 県内のすべての高等学校への児童学科だよりとチラシの配布。
  - ・ 県内高等学校への訪問
  - ・ 「これから受けることができる入試情報 (児童学科)」の作成。(12月末)

#### 【メディアデザイン学科】

- ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数  
学科紹介:1 特色ある教育・研究:5 出張講義:1 入学式:1 オープンキャンパス:7  
計15件
- その他学科独自の広報活動
- ・ 学科の特徴と魅力をまとめたA4チラシを作成し、高校訪問などの広報に活用した。
  - ・ 学科 twitter アカウントを開設し、令和3年4月2日から令和4年3月15日までの間、69ツイートを公表した。
  - ・ 徳島大学総合科学部社会総合科学科と合同ゼミナール (とくしまCOC教育・研究・社会貢献プログラム) を実施し、「徳島県の若者にUIターンを促すための情報発信」として徳島県主催の若者向け情報サイトAWAIROに掲載された。
  - ・ 令和3年10月20日 徳島県立阿南光高等学校において機械ロボットシステム科2年生を対象にロボット制御プログラミング講座を開催した。
  - ・ 令和3年7月14日 本学と徳島県警察との連携事業である「徳島県警察ネットウォッチャー」の委嘱式が行われた。
  - ・ 令和3年8月25日 情報メディア論 (前期集中講義) に参加した受講生と山城講師が、エフエムびざん (BFM791) 「夏期講習特番」にライブ出演し、授業の目的や制作物、コロナ禍での学生生活等について紹介し、番組制作を体験した。
  - ・ 令和3年9月16日 情報メディア論 (前期集中講義) にて受講生チームが課題として作成したラジオ番組が、エフエムびざん (BFM791) 「B-STEP TALKING」で紹介された。この際山城講師と学生2名がライブ出演した。
  - ・ 令和3年11月9日 本学と徳島県警察との連携事業である「徳島県情報発信ウォッチャー」の委嘱式が行われた。

### 【建築デザイン学科】

○ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

宅地建物取引士セミナー参加の案内 2、学科各種ラボ参加の案内 2、 オープンキャンパス：8

計 12 件

○その他学科独自の広報活動

- ・学生の在学中の国家資格取得支援として、宅地建物取引士セミナーに関する取り組みを行っていることを、オープンキャンパス、高校生の訪問等を利用して広報活動を行った。また、オープンキャンパス等の説明会においてもパワーポイント等により具体的な取り組み等についても積極的に広報活動を行った。
- ・将来の建築士資格取得にむけての支援として、夏季 2 級建築士対策セミナー実施についての具体的な広報活動をオープンキャンパス等を通じて参加者に対して行った。

○その他

- ・オープンキャンパス等の参加者からの問い合わせ等について高校生、保護者の方からの様々な質問に対して迅速に対応を行った。

### 【心理学科】

○ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

学科からのお知らせ：3，学科の特徴と魅力：1，オープンキャンパス：6

○その他学科独自の広報活動

- ・学科の特徴と魅力をまとめた A 4 チラシ「心理学を学びたいあなたへ」を作成し、オープンキャンパス来訪者等に対する広報に活用した。
- ・オープンキャンパス及び各種広報の場において，“社会人の学び直し”をPRし、社会人の入学を促した。
- ・各種広報の場で、公認心理師及び臨床心理士の卒業生の合格実績をPRするとともに、雑誌「こころの科学 公認心理師になるための大学案内」に当学科の紹介を行った。

## 4. 総括

令和3年度は6学科ともにそれぞれの特色を生かし、学科ホームページの更新や学科独自の広報活動、新聞・テレビ等各種マスメディアを利用した広報活動を行った。また、昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍においてオープンキャンパスが中止や縮小となる中、学科の特色を伝える YouTube 動画による「WEB オープンキャンパス」のコンテンツの充実を図った。さらに、バーチャル施設見学など、学科の特色や施設の魅力を動画により閲覧できる環境を拡充させた。

メディアを通じてのアピールや、地域住民との交流活動、自治体や企業などとの協力プロジェクトなど様々な活動や情報発信を通じて、広く各学科を知っていただき、また学科への「共感」を感じていただくチャンスを増やしていく必要がある。

改めて各学科がホームページや各種メディアを通じて魅力的な情報を発信するのに加え、地域連携活動、高大連携活動等を通じ、地域や高校生に身近な存在となるために活動を継続していかなければならない。

## 令和3年度 人間生活学部教員養成推進委員会報告

教員養成推進委員会委員長

松本 萬寿美

### I 委員会の目的

教育実習等に関する資質や指導技術を確かなものにするための具体的な方策を検討する。また、教員養成に関する資質や指導技術を確かなものとするための具体的な方策を検討する。

### II 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。

2. 令和3年度委員

○寺奥 敦子 (人間生活学科)、◎松本 萬寿美 (食物栄養学科)、三橋 謙一郎 (児童学科)、長濱 太造 (メディアデザイン学科)、川村 恭平 (建築デザイン学科)、貴志 知恵子 (心理学科)

[◎印：委員長、○印：副委員長]【敬称略】

### III 委員会開催の概要

第1回教員養成推進委員会

日時：令和3年 6月1日 (火) 15:20～16:00

場所：9号館10階 (研究室⑥)

出席者：寺奥 (記録)、松本、三橋 (司会)、長濱、川村、貴志【敬称略】

議題

1. 教育実習・保育実習の評価点のあり方をめぐる問題について

(1) 実習校の評価点を参考にしながら、実習の評価点を大学側で決めている大学がある。しかしながら、本学は実習の最終評価点を実習校にゆだねている。

(2) 都道府県や実習校によって教育実習の評価に差があることは確かであるが、教諭という免許を取得させる責任上、大学で評価を決定するというのであれば、手順をふんで委員会として評価を作成し、評価理由を明記することが必要である。

2. 教育実習の評価について

(1) 今年度より、事前・事後指導担当者が、実習校の評価書により履修登録をした学生の成績入力を行う。

(2) 教育実習に直接関わる事前・事後指導の担当教員を教育実習担当とする。

シラバスの教員名も担当教員に変更し、実習校からの所見を確認した後、点数を入力する。

3. 教職履修カルテについて

(1) カルテを記載するよう学生への指導を徹底する。

(2) 教職履修カルテのあり方を検討する。

4. 教員養成の質をアップする方策を検討

(1) 教員養成に関わる授業科目担当者の質の高い授業はもとより、教員採用に向けての指導が効果的に行えるよう、関係部署間の連携が必要である。

例年3回実施していた委員会であるが、今年度は諸事情により1回の実施に留まった。次年度は、活発な委員会開催を実施したい。



## 第2章 各学科スタンダード

### 第1節 人間生活学科

人間生活学科は、人の相互理解のもとに築く心豊かな生活と健やかで快適な生活環境の構築を求めて知識を深めるとともに、環境との共存を図りながら自己に適したライフスタイルを創造する能力と実践力を身につけ、豊かな教養とグローバルな思考力を持つ教員・社会人の育成を教育目標としている。

教育内容は「生活経営学」「食物学」「被服学」「住居学」「保育・保健・養護学」の各分野から構成され、それぞれ、総論から各論へ、基礎から専門へと学びを深めていく。授業形態は講義、実験、実習、ゼミナールからなり、アクティブラーニングの手法を取り入れるなど多様な手法で展開されている。

また、令和2年度入学生から新カリキュラムをスタートさせ、家政学の学問領域と将来の進路を融合させた教育内容から構成される3つのフィールド（教員養成、ビジネスキャリア、コミュニティデザイン）を設定した。

本学科で取得できる教員免許は、家庭科および保健科の中学校教諭一種・高等学校教諭一種と養護教諭一種に加え、フードスペシャリスト、医療秘書、社会福祉主事任用資格などである。新カリキュラム開始に伴い二級建築士、上級情報処理士、福祉住環境コーディネーター、防災士などの資格が新たに加わった。どの免許・資格も現代社会においては非常に重要な役割をはたす資格であり、学生の興味・関心・適性に応じた個別指導を行う事により、自己の専門性を確立させ、自立した生活者としての幅広い知識と応用可能なスキルを習得させることを目指している。

令和2年度からの新カリキュラム開始に伴い、他学科との連携が強化され、人間生活学科の教育内容はさらに深化したと言える。来る「人生100年時代における生活の質向上」を視座に据え、従来の教育内容に加え「環境」「健康」「福祉」「国際」そして「防災」の領域から生活研究を多面的に追究する学科として歩み続けたい。

- (1) 家庭科及び保健科の中学校一種・高等学校一種、養護教諭一種の教員免許を取得し、社会の変化に柔軟に対応でき、豊かな教養と包容力を持つ教員の養成を目指す。
- (2) 医療秘書・フードスペシャリスト・消費生活アドバイザーなどの資格や知識、及び他学科の講義を受講・受験することで取得可能となる二級建築士や上級情報処理士などの資格と知識を、ビジネス社会において主体的に役立たせる意欲を持つ学生の育成を目指す。
- (3) 地域の課題解決に興味・関心・意欲を持ち、フィールドワーク等を通じて積極的に関わることによって得られた知見を社会において実践し、地域社会へ貢献する気概を持つ学生の育成を目指す。
- (4) 大学院や専攻科への進学を希望する学生への十分な学術研究能力と教育実践力の養成を行う。

## 第2節 食物栄養学科

管理栄養士は栄養を通して「ヒトの健康」を維持管理するプロフェッショナルである。そのために、本学科では栄養や保健、衛生に関する高度な学識と技術をもつとともに、「人間栄養学」を実践できる人間味溢れる管理栄養士を養成する。すなわち、チーム医療の一員として傷病者の健康回復を栄養面からサポートできるプロフェッショナル、保健チームの一員として地域住民の健康増進と疾病予防のために役立つプロフェッショナルを育成する。また、栄養を通じて「ヒトの健康」を増進するため小学校・中学校において食育を担当する栄養教諭、中学校・高等学校において生きる力を教育する家庭科教員を育成する。いずれにおいても、栄養アセスメントを基盤としたマネージメント・サイクルに適応できるプロフェッショナルでなければならない。

この目的のため、四年間を通して、栄養学を意識した「人体の構造と機能」や「ヒトの健康と疾患」、つまり解剖生理学、病理学、臨床栄養学を深く学ぶ。これらに加えて、低学年では食品学や食品加工学、食品衛生学や給食管理、調理学について学び、高学年では、個人及び集団に対する栄養教育・指導を行うために、公衆栄養学や栄養教育論を学ぶ。さらに、HACCP 対応給食実習室での給食経営管理実習により実践力を身につける。学内での実験・実習に加えて、三・四年次には、総計 180 時間におよぶ病院での臨床栄養学臨地実習、保健所での公衆栄養学臨地実習、給食施設で給食の運営臨地実習・給食経営管理臨地実習により実際に管理栄養士が活躍する現場を経験し理解を深める。

社会に出て管理栄養士として活躍するためには、管理栄養士国家試験に合格して、管理栄養士の資格を取得しなければならない。そのために、国家試験に合格できる学力をつけることを教育目標とする。国家試験対策として、①模擬試験の実施とその結果分析、さらに事後指導 (PDCA サイクルの強化) を行うためのゼミナール形式の少人数指導を行う。②演習科目により講義内容の理解をさらに深める。さらに、③自習室を積極的に利用して学生同士で教え合う環境を整備する。一方、研究職や大学教員を目指す学生の育成にも努め、研究能力涵養のために、卒業研究において研究能力の基礎を教育・指導し、さらに大学院人間生活学研究科・博士前期課程・食物学専攻において、より深い研究能力を修得させる。

### 第3節 児童学科

今日の教育界においては、「いじめ」「不登校」「体力低下」「児童虐待」「子どもの貧困」等が社会的課題となっている。このような状況の中、児童学科では教育学、心理学、保育学、ICT活用力等の学びから、多様な教育・保育ニーズに理論的、実践的に対応でき、さらに、豊かな感性、コミュニケーション能力を持つ教員・幼稚園教諭・保育士等の養成を目指している。4年前に策定した児童学科のキャッチフレーズ「感（豊かな感性を磨きます）夢（夢を叶えます）温（温かいサポートします）」のもとに全職員が一体となって全力を傾けている。

豊かな感性を育てる授業実践では、アクティブラーニングを主として実践し、表現力やコミュニケーション能力を養い、自己肯定感や達成感を持つことを目指している。さらに、実践力を付けるために、各種実習、多様なボランティア活動、地域活動への参加も図っている。また、4年前から採用試験現役合格という学生の夢を叶えるための方策として児童学科独自の「対策講座」、チューターによる「ゼミチーム」、学生の「県別チーム」によって現役合格率が75パーセントまで上がってきた。

現在、教育・保育現場の多忙さや保護者への対応力の必要性が報道されるが、「人財」こそが将来の社会を支える基盤となることや人を育てるやりがいや喜びを学生に伝えていくことが重要であると考え、この点を踏まえ、以下のような児童学科のスタンダードのもと、人材育成を図っている。

(1) 小学校教諭1種免許取得、中学校英語2種免許取得、幼稚園教諭1種免許取得、保育士資格取得

現在の小学校や幼稚園、認定こども園、保育園での多様な課題に柔軟に対応し、専門的知識と子ども個々の思いや心を大切にしながら豊かな教養とやさしさを持つ「子どものスペシャリスト」としての教員・幼稚園教諭・保育士の育成を目指している。また、こうした資格を生かして、児童福祉施設職員や公務員として社会の変化に柔軟に対応することも目指している。

(2) 准学校心理士資格、レクリエーションインストラクター、スポーツインストラクター資格の取得

子どもや保護者の心の理解とサポートのために准学校心理士資格を取得し、こころの健康や不登校問題等に貢献できることを目指している。また、子どもの健康と楽しい学び、人間関係づくりやコミュニケーション能力育成のためにレクリエーションインストラクター資格やスポーツインストラクター取得により、小学校・幼稚園・保育園のみならず、地域の活動にも貢献できることを目指している。

(3) 教育実習（小学校・幼稚園）・保育実習・施設実習・介護等体験

多様な実習体験を通して、専門的知識を実践的指導力の向上につなげ、さらに、社会人としての豊かな人間性を身に付けることを目指している。

(4) 各種ボランティア活動への参加、「学びサポートセンター・きらり」におけるサポート

地域の多様なボランティア活動に参加することにより、コミュニケーション能力、人間関係づくり、地域貢献するやりがいを持たせることを目指している。また、学科内にセンターを設置、地域の小学校や幼稚園の子どもたちの学習や生活をサポートする中で、支援

方法のあり方を検証し、指導者として必要とされる資質や能力を身に付けることを目指している。

(6) 今日の課題としての情報教育

「教育方法技術論（情報通信技術の活用含む）」「情報処理」等の開設及びI C T機器を  
実践に有効活用できる力を育成することを目指している。

## 第4節 メディアデザイン学科

メディアデザイン学科では、デザイン能力を「問題を解決する能力、新しい価値を創出する能力」と捉え、メディアテクノロジーを活用することで新しいデザインを提案できる人材を育成する。具体的には、現代社会のさまざまな問題解決のための企画・立案・実践を行うことのできる能力を習得することを目的とする。ここで言うメディアテクノロジーとは、映像などのデジタルコンテンツの処理、プログラミング、Web サイト、Web アプリケーションの開発、ネットワークの構築・運営・管理、社会調査データなどの統計分析を指す。

また、当学科では、社会で求められている能力「各個人は、人材市場でどの程度の価値を持ち、通用するのか判断できる」、「人材を求める企業は、人材戦略を明確に立案できるようになる」(IT スキル標準 ITSS)も視野に入れ、次のような資格に裏付けられた人材養成を行う。

- 1) IT 専門職：「IT スキル標準」は知識だけでなく実務能力の評価指標であるため、当学科では知識を主体とした資格取得を目標とする。上級情報処理士<sup>㊦</sup>、プレゼンテーション実務士、Web デザイン実務士資格の取得、IT パスポート試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者高度試験、MOS (Microsoft Office Specialist) 試験の合格を目指す。
- 2) 高等学校教諭：平成 15 年度から始まった高等学校「情報」の授業の教育者として、情報社会における IT やセキュリティ、情報倫理、著作権などを学び、人間性豊かなコミュニケーションができる人材を育成する。
- 3) 社会調査士：社会調査士認定協会の認定が始まった初年度（平成 16 年）から、資格を取得できる体制を整えた。調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を学習することにより、基本的な調査方法や分析方法の妥当性、問題点の指摘、提言ができる実力を養う。

カリキュラムは、①情報領域、②コンテンツ領域、③調査分析領域、④共通領域の 4 領域で構成される。

また、講義の中で業界第一線の知識・技術に触れ、外部講師による専門的な経験談を取り入れ、学生のスキル向上を図るとともに、学士力の向上に努める。

## 第5節 建築デザイン学科

日本の建築における課題は、豪雨、台風、地震や津波などの自然災害が多く、安全で優れた建物をつくる技術の向上がますます求められている。また同時に、エネルギーを浪費せず、環境に負荷をかけず、生活に快適さをもたらす建物の室内環境調整の技術やインテリアデザインも大切であり、合わせて、建物に美しさも期待されることも求められている。さらには、高齢社会をむかえ、誰もがスムーズに使える住宅や公共施設のユニバーサルデザインも要求されている。

従って、建築デザイン学科は建築・インテリアデザインの専門家として、このような多くの課題をかかえる社会に貢献する知識や技術をもった、人間性豊かな人材の育成を、教育のねらいとして位置付けている。

人間生活学部にも属するメリットを生かして、人と生活と環境を大切に、建築の3大要素である「強・用・美」をそなえる、建築・インテリアデザインの実現をめざし、課題を解決できる創造力を持った人材を育成している。

教育は、講義とともに、製図、CAD、模型製作、建築材料実験などの実習・演習を展開し、カリキュラムツリーにしたがって系統的におこなわれている。

建築デザイン学科では、次のようなスタンダード（学習到達水準）を設けて教育にあっている。

1. 専門分野の基本的な知識と考え方を身につける。
2. 自己の考えを的確に表現し、円滑なコミュニケーションができる。
3. 都市や地域の歴史・環境・計画についての基礎知識を持たせる。
4. 建物の室内環境調整についての基礎理論を習得させる。
5. 木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の建物の施工や材料について基礎知識を持たせる。
6. コンピュータについて、建築系の実務に必要な基礎知識と自由に操作することができる能力を持たせる。
7. 建築士に必要な実務的知識と設計製図能力を習得させる。
8. 戸建住宅および小規模建物の基本的な建築計画・設計・施工管理ができる能力を持たせる。
9. 中学・高校の家庭科教員に必要な住生活に関する知識の基礎的事項を習得させる。

## 第6節 心理学科

心理学は人間の心の機能（知・情・意）とその表れである行動についての学問であり、人間行動のあらゆる領域をその対象としている。基礎的な生理的反応や知覚の領域から、カウンセリングや心理療法といった対人支援の領域、また、生産性の向上や組織運営のあり方といった産業領域での活用、地域社会や環境との関わりまで含めたコミュニティ心理学など、非常に幅広い学問である。

ヒトは社会的動物であり、人との関わりの中で人間として成長し、人が作る社会の中で生きていく。心理学は人としての基礎教養であり、また、それぞれの職能領域で「こころの専門家」としての活躍が期待されている学問でもある。心理学科においては、「心理学概論」「知覚・認知心理学」「学習・言語心理学」「神経・生理心理学」等の基礎的領域から「健康・医療心理学」「産業・組織心理学」「司法・犯罪心理学」「心理学的支援法」等の応用領域へと、幅広い領域の心理学を段階的に学べるようにカリキュラムが編成されている。また、「心理学実験」や「心理検査実習」「心理療法演習」などの体験・参加型授業によって、知識のみでなく、心理学的技能の習得を図っている。

心理学科は、卒業後の就職および進学に関連して資格取得という点から、3つの特徴ある目標指向プロセス（Goal oriented process）をもっている。これはコース編成というよりもキャリア選択に向けての具体的な指針であるので、余裕のある学生は（1）～（3）の複数の目標をもって大学生生活を送ることができる。

### （1）一般企業、公務員等（標準心理プロセス）

人間関係が希薄になっている現代社会において、心理学を専門として学んできたこと自体が一般企業や公務員として好印象を持たれることは間違いないが、一般企業の会社員や一般公務員として社会の中で種々の役割を担うにあたって、心理学全般の基礎的知識・能力を認定するものとして、「認定心理士」と「心理学検定」がある。所定の科目を履修することで「認定心理士」の資格取得が可能である。また、在学中に「心理学検定」の受験が推奨されており、検定資格の取得を目指すことができる。

### （2）養護教諭一種免許取得（養護心理プロセス）

養護教諭は児童・生徒の心身の健康を担う教諭であるが、心理学科では特に「こころ」の健康に貢献できる養護教諭の養成を目指している。教育現場では、不登校やいじめなど心の問題を抱えた児童・生徒への支援が保健室の大きな役割になっており、身体的な知識に加え、心理学の専門性が必要とされている。

### （3）大学院進学と資格取得（臨床心理プロセス）

心の専門家に関する国家資格への社会的な要請は強く、公認心理師法が成立した。本学科では、スタッフならびに実習先確保等万全の態勢で養成を始めており、大学院修士修了が国家試験・受験資格の要件なので、学部・大学院が揃っている徳島文理大学は国家資格を目指すには非常に良い環境だと言えよう。今後、医療や種々の心理相談機関において心理専門職として認められるためには、公認心理師あるいは臨床心理士の資格取得が望まし

い。臨床心理士については、指定大学院卒業が受験資格とされており、本学大学院は臨床心理士養成第1種指定校である。



### 第3章 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果

令和3年度より学部全体での集計から学科別の集計に変更した。

2021年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果										人間生活学部 人間生活学科		
性別	男性	女性	在籍年数			1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	18
	1	13				1	13	0	0	0		
卒業後の進路	就職	進学	未定	あなたの成績について 一番多かったのは			優	良	可	回答数	14	
	10	0	4				8	6	0			
										回答率(%)	77.8	

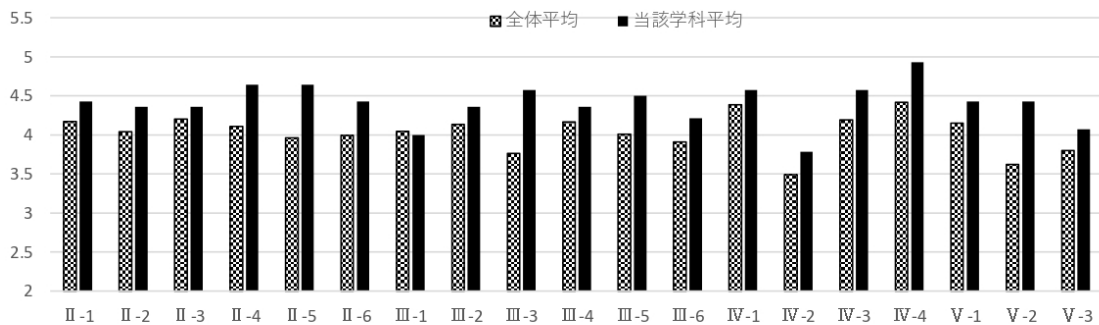
II. 授業・教育課程について (全体として)											
No.	設問文	回答数					平均				
		5	4	3	2	1					
1	授業科目は充実していましたか	8	5	0	1	0	4.43				
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	6	7	1	0	0	4.36				
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を修得できましたか	8	4	1	1	0	4.36				
4	教育に対する熱意は感じられましたか	9	5	0	0	0	4.64				
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は充実していましたか	11	2	0	1	0	4.64				
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	7	6	1	0	0	4.43				

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします (全体として)											
No.	設問文	回答数					平均				
		5	4	3	2	1					
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	5	6	1	2	0	4.00				
2	図書館は利用しやすかったですか	7	6	0	1	0	4.36				
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	8	6	0	0	0	4.57				
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	8	4	1	1	0	4.36				
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	8	5	1	0	0	4.50				
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	7	4	2	1	0	4.21				

IV. キャンパスライフについてお尋ねします											
No.	設問文	回答数					平均				
		5	4	3	2	1					
1	キャンパスは清潔でしたか	8	6	0	0	0	4.57				
2	課外活動(部活やイベントなど)に満足しましたか	3	5	6	0	0	3.79				
3	頼りになる教員に出会えましたか	8	6	0	0	0	4.57				
4	よき友と出会えましたか	13	1	0	0	0	4.93				

V. 総合評価をお願いします											
No.	設問文	回答数					平均				
		5	4	3	2	1					
1	入学時の夢をかなえることができましたか	7	6	1	0	0	4.43				
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	9	3	1	1	0	4.43				
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	7	1	6	0	0	4.07				

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2021年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果 人間生活学部 食物栄養学科

性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	45	
	10	34			0	43	1	0	0	回答数	44	
卒業後の進路	就職	進学	未定		あなたの成績について一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	97.8
	34	1	9				17	16	11			

II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	15	21	6	2	0	4.11
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	12	20	7	4	1	3.86
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を修得できましたか	18	19	6	0	1	4.20
4	教育に対する熱意は感じられましたか	14	16	10	2	2	3.86
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は充実していましたか	10	23	6	2	3	3.80
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	14	15	9	3	3	3.77

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします (全体として)

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	18	14	4	6	2	3.91
2	図書館は利用しやすかったですか	20	19	1	3	1	4.23
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	10	18	7	7	2	3.61
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	18	19	6	1	0	4.23
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	17	18	5	3	1	4.07
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	13	14	9	3	5	3.61

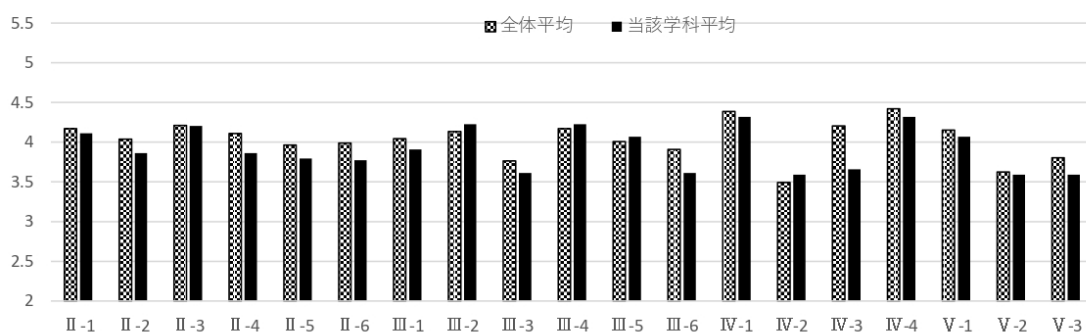
IV. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	23	14	5	2	0	4.32
2	課外活動(部活やイベントなど)に満足しましたか	12	14	11	2	5	3.59
3	頼りになる教員に出会えましたか	14	15	4	8	3	3.66
4	よき友と出会えましたか	25	10	7	2	0	4.32

V. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	18	16	6	3	1	4.07
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	12	13	11	5	3	3.59
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	11	15	9	7	2	3.59

(5: そう思う 4: ややそう思う 3: どちらでもない 2: あまりそう思わない 1: そう思わない)



2021年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果 人間生活学部 児童学科

性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	49	
	16	33			2	47	0	0	0	回答数	49	
卒業後の進路	就職	進学	未定		あなたの成績について一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	100.0
	37	6	6				31	13	5			

II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	28	18	3	0	0	4.51
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	23	23	3	0	0	4.41
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を修得できましたか	27	20	2	0	0	4.51
4	教育に対する熱意は感じられましたか	29	15	4	1	0	4.47
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は充実していましたか	30	16	1	2	0	4.51
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	28	18	3	0	0	4.51

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします (全体として)

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	32	10	5	2	0	4.47
2	図書館は利用しやすかったですか	29	12	5	2	1	4.35
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	18	17	9	5	0	3.98
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	28	19	1	1	0	4.51
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	24	14	6	5	0	4.16
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	26	16	5	2	0	4.35

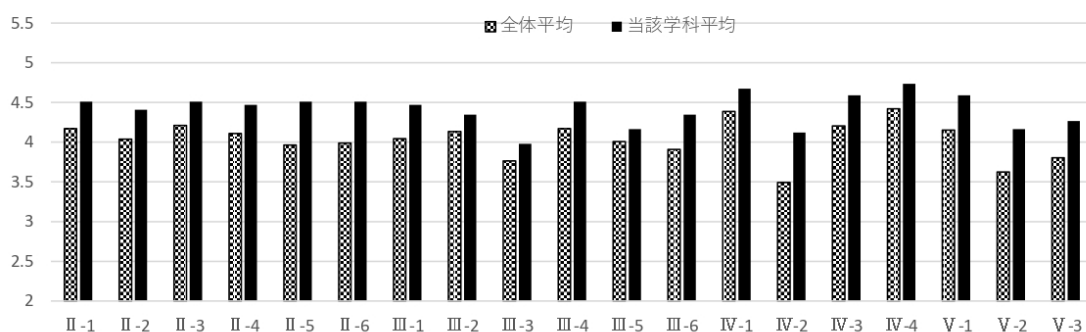
IV. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	34	14	1	0	0	4.67
2	課外活動(部活やイベントなど)に満足しましたか	20	19	6	4	0	4.12
3	頼りになる教員に出会えましたか	34	12	1	2	0	4.59
4	よき友と出会えましたか	38	9	2	0	0	4.73

V. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	34	10	5	0	0	4.59
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	21	16	11	1	0	4.16
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	26	12	9	2	0	4.27

(5: そう思う 4: ややそう思う 3: どちらでもない 2: あまりそう思わない 1: そう思わない)



**2021年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果** 人間生活学部 メディアデザイン学科

性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	12	
	1	4			0	5	0	0	0	回答数	5	
卒業後の進路	就職	進学	未定		あなたの成績について一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	41.7
	4	0	1				5	0	0			

**II. 授業・教育課程について (全体として)**

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	0	5	0	0	0	4.00
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	2	3	0	0	0	4.40
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を修得できましたか	0	4	0	1	0	3.60
4	教育に対する熱意は感じられましたか	2	1	2	0	0	4.00
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は充実していましたか	2	3	0	0	0	4.40
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	2	2	1	0	0	4.20

**III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします (全体として)**

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	3	2	0	0	0	4.60
2	図書館は利用しやすかったですか	2	2	1	0	0	4.20
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	2	2	1	0	0	4.20
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	1	3	1	0	0	4.00
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	4	0	1	0	0	4.60
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	2	2	1	0	0	4.20

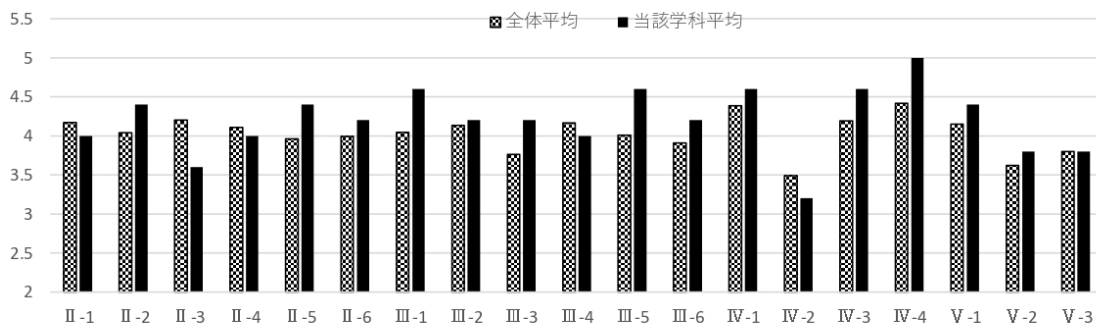
**IV. キャンパスライフについてお尋ねします**

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	3	2	0	0	0	4.60
2	課外活動(部活やイベントなど)に満足しましたか	0	1	4	0	0	3.20
3	頼りになる教員に出会えましたか	4	0	1	0	0	4.60
4	よき友と出会えましたか	5	0	0	0	0	5.00

**V. 総合評価をお願いします**

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	3	1	1	0	0	4.40
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	1	2	2	0	0	3.80
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	1	3	0	1	0	3.80

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2021年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果 人間生活学部 建築デザイン学科

性別	男性	女性	在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	45	
	30	12		2	40	0	0	0	回答数	42	
卒業後の進路	就職	進学	未定	あなたの成績について 一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	93.3
	39	0	3	18	21	3					

II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	14	22	4	2	0	4.14
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	15	21	4	1	1	4.14
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を修得できましたか	13	17	8	3	1	3.90
4	教育に対する熱意は感じられましたか	12	20	7	3	0	3.98
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は充実していましたか	12	19	4	6	1	3.83
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	15	18	7	2	0	4.10

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします (全体として)

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	17	14	9	2	0	4.10
2	図書館は利用しやすかったですか	19	15	8	0	0	4.26
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	18	11	9	2	2	3.98
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	19	15	7	1	0	4.24
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	21	14	6	1	0	4.31
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	13	18	8	3	0	3.98

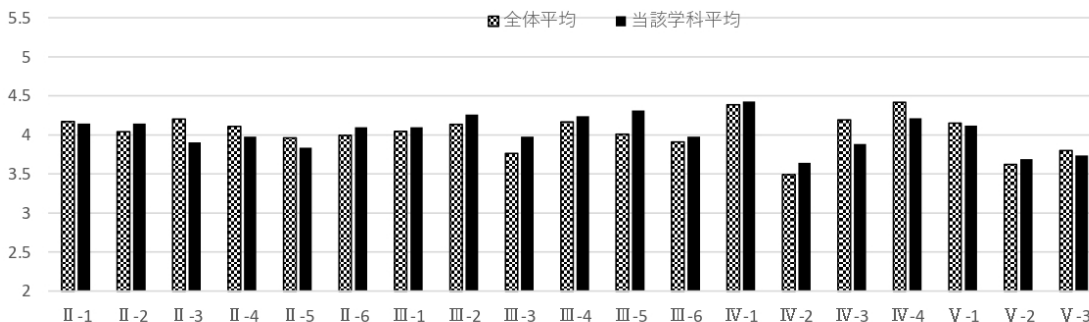
IV. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	22	16	4	0	0	4.43
2	課外活動(部活やイベントなど)に満足しましたか	11	12	14	3	2	3.64
3	頼りになる教員に出会えましたか	15	13	9	4	1	3.88
4	よき友と出会えましたか	19	15	7	0	1	4.21

V. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	17	16	6	3	0	4.12
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	8	19	11	2	2	3.69
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	9	17	12	4	0	3.74

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



**2021年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果** 人間生活学部 心理学科

性別	男性	女性	在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	80	
	9	41		4	46	0	0	0	回答数	50	
卒業後の進路	就職	進学	未定	あなたの成績について 一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	62.5
	29	13	8	26	20	4					

**II. 授業・教育課程について (全体として)**

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	24	20	5	1	0	4.34
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	19	26	3	2	0	4.24
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を修得できましたか	24	15	5	5	1	4.12
4	教育に対する熱意は感じられましたか	19	23	6	2	0	4.18
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は充実していましたか	16	17	11	4	2	3.82
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	12	29	7	2	0	4.02

**III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします (全体として)**

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	19	17	9	1	4	3.92
2	図書館は利用しやすかったですか	24	19	6	1	0	4.32
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	14	23	5	6	2	3.82
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	21	19	6	3	1	4.12
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	27	18	2	3	0	4.38
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	20	18	6	3	3	3.98

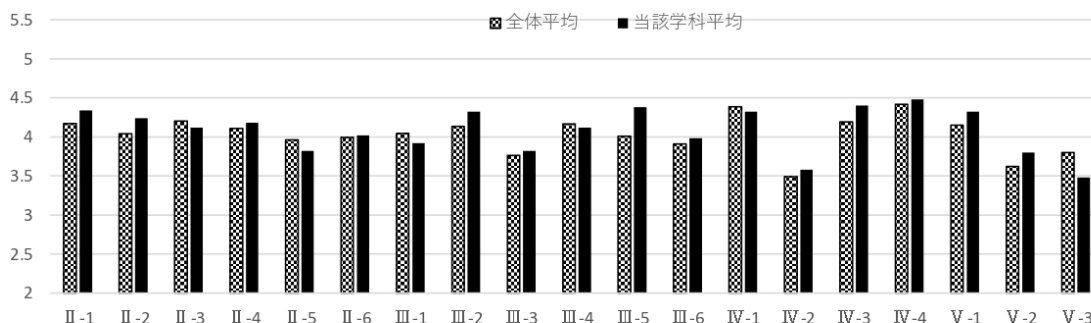
**IV. キャンパスライフについてお尋ねします**

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	24	21	2	3	0	4.32
2	課外活動(部活やイベントなど)に満足しましたか	15	11	15	6	3	3.58
3	頼りになる教員に出会えましたか	31	11	5	3	0	4.40
4	よき友と出会えましたか	33	11	4	1	1	4.48

**V. 総合評価をお願いします**

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	25	18	6	0	1	4.32
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	15	19	11	1	4	3.80
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	12	17	11	3	7	3.48

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



## 第4章 学生による授業評価アンケートの集計結果

令和3年度の前期では学部全体での集計結果を支援したが、後期からは学科別での集計結果を示すよう変更した。そのため、総括は省略する。

2021年度前期 授業アンケート集計結果 (人間生活学部)				徳島文理大学	
対象数 (学生の履修登録数の総和)	回答数	10,288	有効回答数	10,186	
14,175	回答率	72.58%	有効回答率	99.0%	
<b>1. 受講する前 (学期はじめ) に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか</b>					
設問	回答数	比率	加重平均		
全体的に読んだ(4点)	4,041	0.40	3.20		
部分的に読んだ(3点)	4,493	0.44			
ほとんど読まなかった(2点)	1,253	0.12			
まったく読まなかった(1点)	399	0.04			
<b>2. 受講する前 (学期はじめ)、あなたはこの授業に興味 (学習意欲) がありましたか</b>					
設問	回答数	比率	加重平均		
とても興味があった(4点)	3,665	0.36	3.22		
どちらかというに興味があった(3点)	5,282	0.52			
どちらかというに興味がなかった(2点)	1,056	0.10			
まったく興味がなかった(1点)	183	0.02			
<b>3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか</b>					
設問	回答数	比率	加重平均		
わかりやすい内容であった(4点)	5,553	0.55	3.45		
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	3,779	0.37			
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	716	0.07			
わかりにくい内容であった(1点)	138	0.01			
<b>5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください</b>					
設問	回答数	選択率(%)			
専門的な知識・技能	9,031	88.66			
自立性	3,815	37.45			
協同性	2,783	27.32			
考え抜く力	3,852	37.82			
交渉力	1,839	18.05			
発信力	1,683	16.52			
<b>6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください</b>					
設問	回答数	選択率(%)			
説明内容	7,322	71.88			
授業の進め方	6,180	60.67			
教科書・パワーポイントなどの資料	4,919	48.29			
課題や宿題の内容 (量も含む)	3,329	32.68			
教室の設備	3,476	34.13			
<b>7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績 (スコア) はどれだと思いますか</b>					
設問	回答数	比率	加重平均		
優(4点)	4,127	0.41	3.21		
良(3点)	4,101	0.40			
可(2点)	1,879	0.18			
不可(1点)	79	0.01			
<b>8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか</b>					
設問	回答数	比率	加重平均		
満足(4点)	5,760	0.57	3.52		
どちらかという満足(3点)	4,037	0.40			
どちらかという不満足(2点)	329	0.03			
不満足(1点)	60	0.01			

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2021年度 後期	対象	人間生活学部 人間生活学科				
対象数	1,299	回答数	1,049	回答率(%)	80.8	有効回答数	1,040
1. 受講する前(学期はじめ)に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
全体的に読んだ(4点)	618	0.59	3.36				
部分的に読んだ(3点)	324	0.31					
ほとんど読まなかった(2点)	16	0.02					
まったく読まなかった(1点)	16	0.02					
2. 受講する前(学期はじめ)、あなたはこの授業に興味(学習意欲)がありましたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
とても興味があった(4点)	475	0.46	3.37				
どちらかというに興味があった(3点)	482	0.46					
どちらかというに興味がなかった(2点)	79	0.08					
まったく興味がなかった(1点)	4	0.00					
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
わかりやすい内容であった(4点)	726	0.70	3.65				
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	272	0.26					
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	36	0.03					
わかりにくい内容であった(1点)	6	0.01					
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問	回答数	選択率(%)					
専門的な知識・技能	953	91.63					
自立性	369	35.48					
協同性	338	32.50					
考え抜く力	371	35.67					
交渉力	212	20.38					
発信力	177	17.02					
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問	回答数	選択率(%)					
説明内容	841	80.87					
授業の進め方	586	56.35					
教科書・パワーポイントなどの資料	484	46.54					
課題や宿題の内容(量も含む)	360	34.62					
教室の設備	420	40.38					
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績(スコア)はどれだと思いますか							
設問	回答数	比率	加重平均				
優(4点)	554	0.53	3.46				
良(3点)	408	0.39					
可(2点)	78	0.08					
不可(1点)	0	0.00					
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問	回答数	比率	加重平均				
満足(4点)	724	0.70	3.68				
どちらかという満足(3点)	298	0.29					
どちらかという不満足(2点)	16	0.02					
不満足(1点)	2	0.00					



授業アンケート集計結果				徳島文理大学			
実施年度	2021年度 後期	対象	人間生活学部 食物栄養学科				
対象数	2,850	回答数	2,385	回答率(%)	83.7	有効回答数	2,352
1. 受講する前(学期はじめ)に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問		回答数		比率		加重平均	
全体的に読んだ(4点)		999		0.42		3.11	
部分的に読んだ(3点)		997		0.42			
ほとんど読まなかった(2点)		106		0.05			
まったく読まなかった(1点)		107		0.05			
2. 受講する前(学期はじめ)、あなたはこの授業に興味(学習意欲)がありましたか							
設問		回答数		比率		加重平均	
とても興味があった(4点)		753		0.32		3.17	
どちらかというに興味があった(3点)		1,297		0.55			
どちらかというに興味がなかった(2点)		256		0.11			
まったく興味がなかった(1点)		46		0.02			
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問		回答数		比率		加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)		1,129		0.48		3.37	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)		1,007		0.43			
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)		175		0.07			
わかりにくい内容であった(1点)		41		0.02			
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問		回答数		選択率(%)			
専門的な知識・技能		2,145		91.20			
自立性		682		29.00			
協同性		564		23.98			
考え抜く力		721		30.65			
交渉力		334		14.20			
発信力		230		9.78			
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問		回答数		選択率(%)			
説明内容		1,680		71.43			
授業の進め方		1,179		50.13			
教科書・パワーポイントなどの資料		904		38.44			
課題や宿題の内容(量も含む)		597		25.38			
教室の設備		682		29.00			
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績(スコア)はどれだと思いますか							
設問		回答数		比率		加重平均	
優(4点)		735		0.31		3.05	
良(3点)		1,012		0.43			
可(2点)		597		0.25			
不可(1点)		8		0.00			
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問		回答数		比率		加重平均	
満足(4点)		1,150		0.49		3.44	
どちらかという満足(3点)		1,098		0.47			
どちらかという不満足(2点)		93		0.04			
不満足(1点)		11		0.00			

授業アンケート集計結果						徳島文理大学	
実施年度	2021年度 後期		対象	人間生活学部 児童学科			
対象数	3,129	回答数	2,394	回答率(%)	76.5	有効回答数	2,379
1. 受講する前(学期はじめ)に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
全体的に読んだ(4点)	924	0.39	3.00				
部分的に読んだ(3点)	1,081	0.45					
ほとんど読まなかった(2点)	63	0.03					
まったく読まなかった(1点)	62	0.03					
2. 受講する前(学期はじめ)、あなたはこの授業に興味(学習意欲)がありましたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
とても興味があった(4点)	1,105	0.46	3.38				
どちらかというに興味があった(3点)	1,096	0.46					
どちらかというに興味がなかった(2点)	166	0.07					
まったく興味がなかった(1点)	12	0.01					
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
わかりやすい内容であった(4点)	1,614	0.68	3.65				
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	698	0.29					
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	59	0.02					
わかりにくい内容であった(1点)	8	0.00					
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問	回答数	選択率(%)					
専門的な知識・技能	2,204	92.64					
自立性	1,167	49.05					
協同性	1,025	43.09					
考え抜く力	1,182	49.68					
交渉力	728	30.60					
発信力	782	32.87					
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問	回答数	選択率(%)					
説明内容	1,956	82.22					
授業の進め方	1,651	69.40					
教科書・パワーポイントなどの資料	1,411	59.31					
課題や宿題の内容(量も含む)	1,072	45.06					
教室の設備	1,131	47.54					
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績(スコア)はどれだと思いますか							
設問	回答数	比率	加重平均				
優(4点)	1,357	0.57	3.50				
良(3点)	863	0.36					
可(2点)	158	0.07					
不可(1点)	1	0.00					
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問	回答数	比率	加重平均				
満足(4点)	1,720	0.72	3.71				
どちらかという満足(3点)	626	0.26					
どちらかという不満足(2点)	28	0.01					
不満足(1点)	5	0.00					

授業アンケート集計結果						徳島文理大学	
実施年度	2021年度 後期	対象	人間生活学部 メディアデザイン学科				
対象数	865	回答数	597	回答率(%)	69.0	有効回答数	595
1. 受講する前(学期はじめ)に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
全体的に読んだ(4点)	202	0.34	3.07				
部分的に読んだ(3点)	320	0.54					
ほとんど読まなかった(2点)	19	0.03					
まったく読まなかった(1点)	18	0.03					
2. 受講する前(学期はじめ)、あなたはこの授業に興味(学習意欲)がありましたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
とても興味があった(4点)	159	0.27	3.12				
どちらかというに興味があった(3点)	358	0.60					
どちらかというに興味がなかった(2点)	70	0.12					
まったく興味がなかった(1点)	8	0.01					
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
わかりやすい内容であった(4点)	229	0.38	3.26				
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	298	0.50					
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	59	0.10					
わかりにくい内容であった(1点)	9	0.02					
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問	回答数	選択率(%)					
専門的な知識・技能	534	89.75					
自立性	261	43.87					
協同性	166	27.90					
考え抜く力	255	42.86					
交渉力	82	13.78					
発信力	91	15.29					
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問	回答数	選択率(%)					
説明内容	424	71.26					
授業の進め方	393	66.05					
教科書・パワーポイントなどの資料	254	42.69					
課題や宿題の内容(量も含む)	178	29.92					
教室の設備	151	25.38					
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績(スコア)はどれだと思いますか							
設問	回答数	比率	加重平均				
優(4点)	161	0.27	3.04				
良(3点)	300	0.50					
可(2点)	133	0.22					
不可(1点)	1	0.00					
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問	回答数	比率	加重平均				
満足(4点)	256	0.43	3.37				
どちらかという満足(3点)	307	0.52					
どちらかという不満足(2点)	28	0.05					
不満足(1点)	4	0.01					

授業アンケート集計結果						徳島文理大学	
実施年度	2021年度 後期		対象	人間生活学部 建築デザイン学科			
対象数	1,691	回答数	855	回答率(%)	50.6	有効回答数	849
1. 受講する前(学期はじめ)に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問		回答数	比率	加重平均			
全体的に読んだ(4点)		453	0.53	3.37			
部分的に読んだ(3点)		326	0.38				
ほとんど読まなかった(2点)		25	0.03				
まったく読まなかった(1点)		24	0.03				
2. 受講する前(学期はじめ)、あなたはこの授業に興味(学習意欲)がありましたか							
設問		回答数	比率	加重平均			
とても興味があった(4点)		425	0.50	3.43			
どちらかというに興味があった(3点)		371	0.44				
どちらかというに興味がなかった(2点)		44	0.05				
まったく興味がなかった(1点)		9	0.01				
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問		回答数	比率	加重平均			
わかりやすい内容であった(4点)		509	0.60	3.54			
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)		295	0.35				
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)		41	0.05				
わかりにくい内容であった(1点)		4	0.00				
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問		回答数	選択率(%)				
専門的な知識・技能		746	87.87				
自立性		299	35.22				
協同性		132	15.55				
考え抜く力		297	34.98				
交渉力		110	12.96				
発信力		119	14.02				
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問		回答数	選択率(%)				
説明内容		542	63.84				
授業の進め方		528	62.19				
教科書・パワーポイントなどの資料		342	40.28				
課題や宿題の内容(量も含む)		264	31.10				
教室の設備		197	23.20				
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績(スコア)はどれだと思いますか							
設問		回答数	比率	加重平均			
優(4点)		398	0.47	3.36			
良(3点)		360	0.42				
可(2点)		89	0.10				
不可(1点)		2	0.00				
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問		回答数	比率	加重平均			
満足(4点)		501	0.59	3.55			
どちらかという満足(3点)		319	0.38				
どちらかという不満足(2点)		26	0.03				
不満足(1点)		3	0.00				

授業アンケート集計結果						徳島文理大学	
実施年度	2021年度 後期	対象	人間生活学部 心理学科				
対象数	3,333	回答数	2,174	回答率(%)	65.2	有効回答数	2,138
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
全体的に読んだ(4点)	1,044	0.49	3.27				
部分的に読んだ(3点)	861	0.40					
ほとんど読まなかった(2点)	74	0.03					
まったく読まなかった(1点)	74	0.03					
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
とても興味があった(4点)	883	0.41	3.31				
どちらかというに興味があった(3点)	1,061	0.50					
どちらかというに興味がなかった(2点)	173	0.08					
まったく興味がなかった(1点)	21	0.01					
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
わかりやすい内容であった(4点)	1,347	0.63	3.58				
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	697	0.33					
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	88	0.04					
わかりにくい内容であった(1点)	6	0.00					
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問	回答数	選択率(%)					
専門的な知識・技能	1,968	92.05					
自立性	844	39.48					
協同性	555	25.96					
考え抜く力	870	40.69					
交渉力	410	19.18					
発信力	334	15.62					
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問	回答数	選択率(%)					
説明内容	1,690	79.05					
授業の進め方	1,428	66.79					
教科書・パワーポイントなどの資料	1,295	60.57					
課題や宿題の内容（量も含む）	760	35.55					
教室の設備	774	36.20					
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問	回答数	比率	加重平均				
優(4点)	756	0.35	3.13				
良(3点)	908	0.42					
可(2点)	465	0.22					
不可(1点)	9	0.00					
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問	回答数	比率	加重平均				
満足(4点)	1,285	0.60	3.58				
どちらかという満足(3点)	812	0.38					
どちらかという不満足(2点)	35	0.02					
不満足(1点)	6	0.00					



## 第5章 教員活動状況の調査

### 第1節 人間生活学科

#### 個人情報

1. 氏名：衣川 明美
2. 職位：教授

#### 教育領域

1. 教育の担当専門領域  
被服構成学、被服構成学実習、衣生活論、西洋服装史
2. 授業担当科目  
前期：大学・専門ゼミナールⅠ、衣生活論、被服構成、  
短大・生活科学論、衣生活論、ブライダルドレスメイクⅠ  
後期：大学・専門ゼミナールⅡ、ファッションビジネス論  
短大・被服構成学実習、ファッションビジネス論、  
ブライダルドレスメイクⅡ（4年生2名 履修）
3. 直接に研究指導した学部学生等  
卒業論文（0）名、大学院生：修士（0）名
4. 自己評価
  - ①コロナ禍に見舞われた状況において、遠隔授業の準備、実施、見直しに追われた一年間であった。グーグルクラスルームを活用した授業を行い新しい講義形態を経験できたことは大きな収穫であり、対面授業とは違った学生の面に触れることができたことも今後の授業のあり方を考える点で大いに参考になった。
  - ②専門ゼミナールⅡでは3名の学生を担当し、3名それぞれに主体的にテーマ設定をし、高い研究意欲を持ちながら被服制作に取り組んでいた。これらの経験を重ねることにより問題意識や考察が深化し、どの学生も強い達成感を得ている。学生の主体的な学びの姿勢形成に貢献でき、学生はこの学びを通し、卒論に結び付けると言う。この様な学生の主体的な学びの姿勢形成に貢献できたと考える。
  - ③教科の授業は実習が多く、昨年度の教員から引き継ぎ授業を進めた。これまでの被服学の授業を履修してきたにも関わらず初歩の段階から学生が低レベルなことしか理解しておらず愕然とした。とりあえず、学生のために金曜日を「ファッションデー」と名付け、後期8:15～19:00まで指導し続けた。勿論、他の授業とバッティングしている場合は8:15から1時間目終了まで被服実習を行い、2・3時間目は他の授業を受け、戻ってくるといった体制あった。結果として、最初は無理かと思っていたジャケットやワンピースを何とか仕上げる事ができた。学生自身うまくいかない作品を前に、「卒業作品として展示しない」と、言っていたが結果として展示することができ、このことは、学生の主体的な学びの姿勢形成に貢献できたと考える。
  - ④今年度、短大から人間生活学科に移り成し遂げたことは、被服構成学実習室のリニューアルである。在職した当時から実習室を何とかしたいと学科長に言い続けていたが叶わず4年目にしてやっと被服実習の行える教室にリニューアルできた。学生もアイロン・ミシンに至るまでしっかり完備された状態で授業に望むことができ喜んでいて。教員側もアイロン掛けで行列ができることもなくスムーズに授業運営できストレスもなくなった。何よりも広報活動で、教室及び教科紹介や模擬授業で使用できる教室となったことが広報活動におおいに貢献できたとと言える。

## 研究領域

1. もう一つの洋裁文化、手仕事文化の伝承
2. 職人の暗黙知の継承
3. レプリカ制作におけるシルエットの再現手法
4. デザインにおける素材の適合性の検証

### 令和3年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書  
執筆活動中、令和4年度出版予定(単著)「もう一つの洋裁文化 ～紡ぐ～」  
(手仕事文化)
2. 学会発表  
なし
3. 知的財産権の出願・取得状況  
なし
4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
なし
5. 自己評価

執筆中の「もう一つの洋裁文化」で、洋服が工場で作られていなかった時代を論じ語り継がれる「洋裁文化と日本のファッション」を振り返ると、これまで何十年も生きてきて、世の中というのは昨日と今日ではたいして動きがないように見えて案外すごい勢いで変化しているものだという確信に至った。流行の色やデザインは勿論のこと、例えばユニクロのフリース製品、少しさかのぼればインポートのあこがれの的になったDCブランドなど、もっとさかのぼれば「洋服を布から仕立てること」が庶民の生活の一部として必要不可欠な作業だった時代へと行きついた。これをかわきりに、明治から昭和に至る手仕事文化・職人の技を何も感じない、少しは感じているであろう、若者に伝承することが、洋裁経験約50年を経た私の役目だと思い立ち執筆活動中である。既製服に対する評価として「感性品質」「サイズ適合」以外の項目については不満足感をもつ頻度が高くなっている。多くの人は既製服しか着用していない。また、若者に至っては、お誂えの服など試着したことがないであろう。体に合った服とはどのような工程で仕立てればよいのかなど、研究としては段々と面白くなってきている。令和4年度秋に向け、今後も続けていく。

## 大学内運営

### 活動報告

教務委員会(学科長)、自己点検・評価委員会(認証評価委員会)、広報担当委員会教員養成対策委員会、中期目標策定委員会、災害時初期対応者、1～4年生チューター

## 社会貢献

1. 学会等への貢献  
日本家政学会四国支部会  
ファッションビジネス学会  
FMC(ファッション素材センター) 副理事  
京都工芸繊維大学伝統みらい教員研究センター組紐・組物学会  
沖縄県名護市明星保育園 理事
2. 教育機関への貢献  
神戸女子大学家政学部家政学科非常勤講師 担当科目:ファッションビジネス論
3. 審議会等委員:なし



## 個人情報

1. 氏名：藤田 義彦
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：医学系、薬学系、衛生学、食品学、公衆衛生学
2. 学部授業担当科目  
前期：公衆衛生学（予防医学を含む）、食品の安全性、食品衛生学、食品学実験、専門ゼミナールⅠ、衛生学特論（専攻科）、生活文化特論Ⅰ（大学院）  
後期：衛生学、公衆衛生学実習、食品学各論実験、食品衛生学実験、食品学実験、専門ゼミナールⅡ、公衆衛生学特論（社会福祉を含む）（専攻科）、生活文化特論Ⅱ（大学院）
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 0名
4. 自己評価：授業内容をプリントにまとめて、分かりやすい授業の説明に心掛けた。予習で学んだことをグループで共有し、学生に発表してもらい自発的学習のモチベーションを高めた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：医学・薬学・分子生物学・法科学
2. 研究課題及び概要
  - ①DNAによる徳島県特産物、薬用植物の新・鑑定法：徳島県特産物、薬用植物は、日本人の健康志向を反映して広く用いられている。しかしながら、それらを摂取、服用するときは、加工や抽出をするため原形をとどめず植物形態学的検査による品種識別は困難となる。また、偽造や異物混入も考えられ、安全と安心の健康生活を目指してDNAによる徳島県特産物、薬用植物の新・鑑定法を開発する。
  - ②法科学におけるDNA鑑定の問題点を指摘し、冤罪絶無のための解決策を示し、社会正義の実現を目指す。
  - ③世界的な法科学鑑定の標準化の確立を目指す。

### 令和3年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書
  - ①平岡義博，藤田義彦，稲葉光行，千原國宏，木村祐子：日本の法科学が科学であるために―改革に向けた提言、現代人文社(東京)、2021。
2. 学会発表
  - ①藤田義彦：元科学捜査官による「DNA鑑定」の検証（その6）～邸宅侵入，強制わいせつ事件～、第58回日本犯罪学会総会、東京、2021。
  - ②藤田義彦：徳島県特産物の新・鑑定法～第8報～食品偽装のない安全と安心の食生活を目指して～、日本DNA多型学会第30回学術集会、広島市、2021。
3. 知的財産権の出願・取得状況  
なし
4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

なし

## 5. 自己評価

著書「日本の法科学が科学であるために－改革に向けた提言、現代人文社(東京)」を  
発刊し、法学者と科学者が協力して日米の法科学の現状を分析し、進めるべき改革の  
方向を提言した。

「DNAによる徳島県特産物の新・鑑定法～第8報～食品偽装のない安全と安心の食  
生活を目指して～」を日本DNA多型学会第30回学術集会で発表し、DNAによる徳島  
県特産物の識別法を開発した。

「元科学捜査官による「DNA鑑定」の検証(その6)～邸宅侵入,強制わいせつ事件～」  
を第58回日本犯罪学会総会において発表し、法科学鑑定の正確性、客観性、適正化を  
提言した。

以上、著書発刊、学会発表を行い、前年度以上の成果を上げることができた。さらに  
研究を進め、世界的に法科学鑑定の標準化を確立し、冤罪の絶無を目指す。また、その  
成果として本の出版ができた。

## 大学内運営

### 活動報告

倫理審査委員会副委員長、教育研究委員会委員、新入生セミナー運営委員会委員、3年  
生担任、1～4年生チューター

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

- ①日本法科学技術学会評議員
- ②日本犯罪学会評議員
- ③日本薬学会会員
- ④日本法医学会会員
- ⑤日本DNA多型学会会員
- ⑥日本法中毒学会会員

### 2. 地域社会への貢献

- ①学校薬剤師(徳島文理大学附属幼稚園、徳島文理小・中・高等学校)
- ②徳島文理大学同窓会・アカンサス会顧問
- ③社会福祉法人ひまわり福社会評議員
- ④えん罪救済センター運営委員

## 個人情報

1. 氏名：寺奥 敦子
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：家庭科教育、食物学、教育実践
2. 学部授業担当科目  
前期：家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ、調理学、食品学、調理学演習、食品加工貯蔵学実習、  
専門ゼミナールⅠ、文理学  
後期：家庭科教育法Ⅲ・Ⅳ、事前・事後指導、調理学実習、専門ゼミナールⅡ
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（0）名
4. 自己評価
  - ①授業アンケート（回答率93.5%）から「家庭科教育法」や実習・演習系の科目は満足度が高かった。「調理学実習」は45名と受講者が多く密になりやすい環境であったが、健康観察や衛生管理に留意し、コロナ禍でも計画どおり実施できた。講義中心の専門教育科目は、内容が難しくても学生がわかりやすいと感じる授業ができるよう授業設計を行っていきたい。
  - ②民法改正に伴う成年年齢の引き下げにより若年層の消費者教育の一層の推進が求められている。「家庭科教育法」において全国消費生活相談員協会関西支部長によるオンラインの講義を取り入れた。また、消費者庁が主催する「とくしま国際消費者フォーラム2021」や「海外大学等とのオンライン交流」への参加や各種WEB研修の受講により、新学習指導要領で家庭科教育が重視している指導内容の充実を図った。
  - ③SPODフォーラム2021やFD研修会で、遠隔授業の基礎やルーブリック入門等の講座を受講し、遠隔配信授業の進め方や評価の充実に努めた。指導と評価の一体化を図り、学生の学習意欲を高める授業設計や評価方法について見直しを行った。
  - ④「専門ゼミナールⅡ」では5名の学生を担当した。全員が個々に課題意識を持って文献検索、調査研究、レポート作成、プレゼンテーションソフトを使つての発表を行うことで、卒業研究に向かう素地を育むことができた。研究手法やレポート作成についての学生指導において、自分自身の指導力の向上に努めたい。
  - ⑤「調理学実習」は他学科の学生も多く受講し活気のある授業ができた。授業開始20分前からの実習準備にも多くの学生が主体的に参加し、実習終了後のレポート提出率もほぼ100%だった。供卓時の状況を撮影させ実習の振り返りを行う指導により達成感を育んだ。また、学生の提出物に毎時間コメントを記入し、次回実習時にフィードバックすることにより双方向的な授業となるよう心がけた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：家庭科教育 教育実践
2. 研究テーマ：新学習指導要領を踏まえた中・高の実践的な家庭科教育の在り方  
令和3年度分 研究業績一覧
  1. 論文  
なし
  2. 学会発表  
なし
  3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

なし

5. 自己評価

令和3年度から中学校、令和4年から高校で新学習指導要領が実施となる。家庭科において育成を目指す資質・能力を育む指導の在り方や指導と評価の一体化、小中高の指導内容の系統性を踏まえた実践的な指導方法について研究した。生涯を見通す時間軸の視点や家族や地域の人々とのつながりのみならず、SDGsをはじめ持続可能な社会の構築までも含めて考える空間軸の視点を踏まえた指導の在り方、民法改正、消費者教育、伝統文化の継承など、幅広い内容に対して課題意識を持ち、家庭科教育を通して、自分事として考え行動することの大切さを身につけた家庭科教員養成の在り方を追究したい。

## 大学内運営

### 活動報告

人間生活学科1年担任 チューター生（4年5名 3年5名 2年6名）、  
教職課程委員会委員、教員養成推進委員会委員、学生指導委員会委員、全学共通教育センター学習支援アドバイザー、新入生セミナー運営委員会委員、高校巡回広報担当、フードスペシャリスト資格担当

- ① 中高の家庭科教員を目指す学生に対し、教員養成対策講座に加え、個別に学生の受験対策を支援した。本年度は採用試験受験者が少なく、教育実習2週間前の帰省、教育実習校の臨時休校による教育実習期間の延期など、コロナ禍の影響が色濃く、十分な指導期間がとれなかった。県立学校への現役合格はなく、山口県内の私立高校に1名家庭科教諭として採用された。
- ② フードスペシャリスト資格取得者は6名だった。11月から週1回の対策講座を実施したが内容が多岐にわたるので時間不足だと感じた。次年度は開始時期を早め取得者を増やすとともに、3年次受験を推進し在学中の受験機会の拡充を図る。
- ③ 1年生の担任として、30名全員が目的意識を持って学生生活を送れるよう、対面での個人面談3回、記述による実態把握1回、クラスレター発行による情報提供4回を実施した。個別相談は随時実施している。学生の自立と自律を促しつつ、充実した学生生活を送れるようサポート体制を構築した。
- ④ 消費者庁が主催した「海外大学とのオンライン交流事業」（10/13）に家庭科教員免許取得予定の人間生活学科学生5名と参加し、マレーシアとタイの大学に対して人間生活学科が取り組んでいる消費者教育を紹介した。

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

日本家政学会 日本家政学会中国・四国支部研究発表会実行委員  
日本家庭科教育学会

### 2. 地域社会への貢献

- ① 全国高等学校長協会家庭部会「産業・情報技術等指導者養成研修」講師
- ② (一財)徳島アグリクリエイティブ育英会奨学生選考委員
- ③ 第69回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会徳島大会への協力
- ④ (公財)日本いけばな芸術協会特別会員、徳島県華道連盟委員

## 個人情報

1. 氏名：池添 純子
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 地域居住学、住居学
2. 授業担当科目  
前期：文理科学、生活と環境、コミュニティ・デザインⅠ、生活空間論、総合科目B（学生災害ボランティア入門）、専門ゼミナールⅠ、卒業研究  
後期：生活文化論、コミュニティ・デザインⅡ、家族関係学、専門ゼミナールⅡ、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（5）名、大学院生：修士（0）名
4. 自己評価
  - ①「生活と環境」、「生活文化論」、「コミュニティ・デザインⅠ」「コミュニティ・デザインⅡ」の各授業では、個々に調べたことをプレゼンテーションにまとめ発表する機会、自分の考えを自分の言葉でレポートにまとめる機会、学外のフィールドワークや他の人と意見交換を行うワークショップなど体験する機会を設け、学生の主体的な学びを促した。
  - ②「専門ゼミナールⅡ」では9名の学生、「卒業研究」では5名の学生を担当し、地域活動を通して地域課題の解決策を検討する力を身に付けられるよう、実践的な研究活動を行った。特に卒業研究で取り組んだ「防災と福祉」に着目した研究テーマでは、社会的な注目度も高く、NHKのニュースや徳島新聞に取り上げられたため、学生自身が研究の社会的意義を体得することができた。
  - ③地域連携センターと協力し、地域学アドバンストコースの企画を行ったが、コロナ禍によりすべて中止となり残念であった。次年度、今年度計画した企画を実施したい。
  - ④人間生活学科の新カリキュラムに適合するカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの検討を行い、令和4年度より変更することができた。

## 研究領域

1. 専門研究領域： 地域計画 農村計画
2. 研究テーマ： ・誰もが最期まで住み続けることができる地域環境の整備  
・事前復興まちづくりにおける環境移行

### 令和3年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書  
なし
2. 学会発表  
池添純子：地域包括ケアシステムにおける日常生活圏域の設定状況－第7期介護保険事業計画を対象とした全国調査から－、第67回日本家政学会中国・四国支部研究発表会、徳島、2021
3. 知的財産権の出願・取得状況  
なし
4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
  - ①科学研究費補助金：若手研究(B) 課題番号：17K12877 「超高齢社会における地域包括ケアシステムに適した日常生活圏域の在り方に関する研究」研究代表者

- ②科学研究費補助金：基盤研究(B) 課題番号：20H02318 「大災害・気候変動等によるコミュニティ移転の環境移行特性と持続的再定住の計画論」研究分担者

#### 5. 自己評価

- ①地域包括ケアシステムに関する全国調査を取りまとめ、昨年度実施できなかった学会発表を行うことができた。次年度は、国際家政学会（IFHE）第24回世界大会及び日本家政学会全国大会において、今年度の研究成果を発表する予定である。
- ②コロナ禍の状況においてフィールド調査が困難を極め、研究の進捗状況が遅れている。移動可能であった県内地域で新たなフィールドを持ち、調査を進めることはできた。また、共同研究者とはオンラインミーティングの環境が整い、出張頻度が減少したことで一定のワークライフバランスが保たれた。
- ③研究テーマに関連するオンライン講演会が多く開催され、複数の講演会で最新の情報を収集することができた。
- ④超高齢社会における社会的課題や自然災害が頻発する我が国の生活環境等、担当授業の内容と研究テーマがリンクする場面が多く、研究で得られた最新の知見を学生に教授することができた。
- ⑤高齢者の生活支援を目的とする住民団体の顧問を継続し、共同研究として新たに調査を行ったり、月1度のミーティングに参加してこれまでの研究で得られた知見からアドバイスをしたり、研究成果を地域に還元できた。

### 大学内運営

#### 活動報告

2年クラス担任、広報担当委員会、新入生セミナー運営委員会、遍路ウォーク委員、1～4年生チューター、二級建築士受験資格関連事務担当、学科のinstagram更新・ホームページトピックス更新・学科だより発行等広報担当

### 社会貢献

#### 1. 学会等への貢献

日本建築学会 常議員

日本建築学会四国支部 研究発表会運営委員会委員

日本建築学会四国支部徳島支所 幹事

第67回 日本家政学会中国・四国支部大会実行委員会 庶務

#### 2. 地域社会への貢献

- ① 国有財産四国地方審議会委員
- ② 環境省四国環境パートナーシップオフィス運営委員会委員
- ③ 徳島県屋外広告物審議会委員
- ④ 徳島県地方港湾審議会委員
- ⑤ 徳島県都市計画審議会委員
- ⑥ 徳島県耐震改修促進計画検討委員会委員
- ⑦ 徳島県入札監視委員会委員
- ⑧ 阿南駅周辺まちづくりビジョン検討会議委員
- ⑨ 徳島市景観審議会委員
- ⑩ 徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員
- ⑪ 徳島市地域密着型サービス運営委員会委員
- ⑫ 美波のSORA 顧問

## 個人情報

1. 氏名：竹内 理恵
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：看護学 学校保健学 養護実践学 健康教育学
2. 学部授業担当科目  
前期：基礎看護学 看護技術（人間生活学科・心理学科） 保健科教育法Ⅰ 事前・事後指導（養護） 専門ゼミナールⅠ 卒業研究 学校ボランティア実践  
後期：臨床看護学 基礎看護技術（人間生活学科・心理学科） 臨床看護実習 小児保健 教職実践演習 養護実践演習 養護学特講 専門ゼミナールⅡ 臨床看護実習の事務手続き全般
3. 直接に研究指導した学部学生：卒論研究（7）名
4. 自己評価

学生が主体的に授業に取り組めるように、ルーブリック評価を取り入れ、グループ活動や個人の発表等に対する他者評価並びに自己評価を実施した。また、予習のチェックや小テスト等を実施し、学生の自主的学習を促した。さらに、授業をきっかけに学生の学ぶ意欲を育てるために小論文を課題とし、学びへの関心を高め論理的思考力が身に付くようにした。今年度は、遠隔配信授業のため、グループ活動での他者評価や自己評価を実施する機会が減った。また、臨床看護実習が大学における代替実習となった。このような学生の貴重な経験の場が減ったことが残念であった。

## 研究領域

1. 専門研究領域：学校保健学 養護実践学 看護学 健康教育学
2. 研究課題及び概要  
養護教諭には、多様化・複雑化した健康課題を解決する実践的能力が求められる。そこで、養護教諭養成における実践的能力の育成に関する研究と、現場の養護教諭と連携した健康課題を解決するための養護実践活動のあり方の研究をさらに進めていきたい。
3. 令和3年度分 研究業績一覧
  - ・論文
    - 1) 竹内理恵、貴志知恵子、長濱泰造：子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方の検討－SCATを用いた質的分析を通して－、日本養護教諭教育学会誌（査読有）、Vol25, No. 1, 67-74, 2021
    - 2) 竹内理恵、貴志知恵子、長濱泰造：保健室ボランティア活動における養護教諭志望学生の意識の経年変化、日本養護教諭教育学会誌（査読有）、Vol25, No. 2, 37-47, 2022
  - ・著書  
「新版 学校看護」東山書房（分担執筆）、「学校における救急処置の実際・顔部の外傷」、161-167, 2021
  - ・学会発表
    - 1) 児玉睦、竹内理恵、貴志知恵子：中学生の健康診断に対する意識の向上、日本養護教諭教育学会第29回学術集会、徳島文理大学、2021
    - 2) 西ひかり、竹内理恵：中学生の野菜摂取不足改善に関する取組、日本養護教諭教育学会第29回学術集会、徳島文理大学、2021
4. 知的財産権の出願・取得状況

なし

5. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

なし

6. 自己評価

これまで大学の業務が非常に多く、研究に携わる時間を十分取ることができなかつたが、その中で昨年度は、養護実践のあり方と学生の養護実践力向上に関する2題の論文を投稿した。今年度両方が掲載されたことは成果であった。次に、日本養護教諭教育学会第29回学術集会が、11月に徳島文理大学で開催され、副学会長として企画・運営に携わり、徳島県の養護教諭や本学の学生の学ぶ機会となったことは大きな成果であった。

## 大学内運営

1. 活動報告：入学試験委員、自己点検・自己評価委員、就職支援委員、教員養成対策委員、4年生担任、1～4年生チューター、全学共通教育センター学習支援アドバイザー、養護教諭免許取得のための臨床看護実習の運営及び事務手続き全般、保健室ボランティアの企画運営、養護教諭採用試験対策指導
2. 保健室ボランティア活動の企画・運営  
平成28年度より保健室ボランティア活動の企画・運営をしている。この3年間では令和元年度162回延べ287人、令和2年度56回延べ89人、令和3年度60回延べ115人の学生が、各学校の活動に参加した。この体験により、学生は自分の養護教諭像を確かなものにし、今後の養護実習や採用試験に向けて意欲をもって学ぶ原動力となった。
3. 養護教諭採用試験対策指導  
教員養成対策講座における指導と個別の対策指導を実施した。また、1～3年生の意識の向上を図るために4年生から体験を伝える発表会を開催した。今年度は3名が現役合格を果たし、平成28年度から6年連続で現役合格の学生を輩出している。
4. 臨床看護実習の大学での代替実習について  
昨年度に引き続き、臨床看護実習の代替実習を終日の日程で6日間実施した。1、2月の限られた期間に、主に一人で行う業務としては過剰で非常に負担となった。これまでも臨床看護実習の事務手続き全般（各病院との事前打合せ・依頼状等の作成・発送等）と学生への事前指導を主に一人で行っているが、17科目を担当した上で実施しているため非常に負担である。他の研究領域などの業務に支障が生じている状況であり、担当科目を減らすなどの改善を強く希望する。

## 社会貢献

1. 学会等への貢献  
日本養護教諭教育学会会員、日本学校保健学会会員、日本教育保健学会会員、日本健康相談活動学会会員
2. 地域社会への貢献
  - 1) 令和3年度教員免許状更新講習講師  
令和3年8月17日「ヘルシースクールを目指す教育実践の進め方」
  - 2) 徳島市小学校養護教諭部会研修会講師  
令和3年8月25日「新学習指導要領による健康教育の進め方について」
  - 3) 日本養護教諭教育学会第29回学術集会 副学会長として企画・運営全般を担当  
令和3年11月27日、28日 徳島文理大学（オンライン開催）



## 第2節 食物栄養学科

### 個人情報

1. 氏名：石堂 一巳
2. 職位：教授

### 教育領域

1. 教育の担当専門領域：医学
2. 学部授業担当科目  
人間生活学部  
前期：健康管理概論・生化学Ⅱ・生化学実験・公衆栄養学演習  
後期：応用生物学A・生化学Ⅰ・臨床栄養学Ⅰ・病理学・食品衛生学演習  
大学院（博士前期課程）  
前期：栄養生理学特論Ⅰ・食品分子生理学特論Ⅰ・食物学特別実習・特別研究  
後期：栄養生理学特論Ⅱ・食品分子生理学特論Ⅱ・食物学特別演習・特別研究  
大学院（博士後期課程）  
通年：生活習慣病領域
3. 直接に研究指導した学部学生等  
卒業論文（9）名、大学院生：修士（2）名、大学院：博士（1）名
4. 自己評価

食物栄養学科1年生が最初に受ける講義として「健康管理概論」を担当している。新入生が「管理栄養士になりたい」というモチベーションを鼓舞する目的で、管理栄養士の活躍を放映したYouTubeを使った遠隔授業や対面授業でDVDを視聴したあと、意見を交換した。また、新入生に本を読む習慣をつける目的で教科書として光文社新書（「がんでは死なないがん患者」（東口隆志著、光文社新書）を採用している。

全ての学年の授業で、対面授業の内容や確認テスト及びその解答をGoogle ClassroomにUpすることにより学生の復習を促している。

令和3年度は懸案であった医療系6学科による「多学科連携講義」を文理学の中で実施することができた。医療系学科の新入生同士が知り合うことができ、交友の幅が広がると同時に、管理栄養士が医療職であることを認識する良い機会になった。

### 研究領域：医科学一般

#### 研究テーマ

1. カスパーゼ特異的阻害剤及び合成基質の開発
2. 海藻抽出成分からの抗炎症作用物質の同定
3. QPRT 結合物質によるアポトーシスの誘導：新規抗がん剤の探索

#### 令和3年度分 研究業績一覧

##### 1. 論文・著書

A comparison of cell death mechanisms of antioxidants, butylated hydroxyanisole and butylated hydroxytoluene.

Mizobuchi M, Ishidoh K, Kamemura N. Drug Chem Toxicol. 2021 May 20:1-8. doi: 10.1080/01480545.2021.1894701.

2. 発表

なし

3. 的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

ビタミンB委員会研究奨学金 74,000 円

5. 自己評価

学科長として学科運営（四年生の国家試験対策および各学年の退学防止、新入生の獲得）及び各種委員として大学運営（徳島文理大学研究倫理審査委員長、全学研究委員会委員、全学輸出入管理委員会、自己点検自己評価委員会委員、人間生活学部実験動物員会委員長、人間生活学部組み換え実験安全主任）を行っている。そのため、研究活動に使える時間が著しく減少している。少しでも研究活動に使える時間を捻出する必要があると感じている。

**大学内運営：**

健康科学研究所・所長

食物栄養学科長

人間生活学研究科・食物学専攻主任

研究倫理審査委員会委員長

全学研究委員会委員

自己点検自己評価委員会委員

全学輸出入管理委員会委員

発明審査委員会委員

人間生活学部組換え実験委員会委員長

人間生活学部動物実験委員会委員長

**社会貢献：**

日本生化学会評議員

日本病態プロテアーゼ学会役員

American Society of Biochemistry and Molecular Biology 会員

日本分子生物学会会員

日本人類遺伝学会会員

日本ビタミン学会会員

ビタミンB研究委員会委員

## 個人情報

1. 氏名： 犬伏 知子
2. 職位： 教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：食品衛生学
2. 学部授業担当科目
  - ・ 人間生活学部  
前期：食品衛生学、文理学、公衆栄養学演習、公衆栄養学実習(2 クラス)  
後期：食品衛生学特論、文理学、食品衛生学演習、食品衛生学実習(2 クラス)
  - ・ 短期大学部  
後期：食品衛生学 I
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文 (1) 名
4. 自己評価：

前期の公衆栄養学演習と後期の食品衛生学演習は国家試験科目であり、問題数もかなりあるので、集中してわかりやすく印象に残るように教育する必要がある。

国試の結果、公衆栄養学はなんとか7割の正解率であったが、食品衛生学は、食品学分野で正解率は6割を切っていた。もう少し、2年生から集中して記憶に残る授業を心がける必要がある。

## 研究領域

### 研究テーマ

1. 栄養成分表示の適正化状況の調査
2. 足指筋力と身体組成、栄養素摂取量および食品群別摂取量の関連

### 令和3年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書
  - 1) 「最新 食品衛生学」編著者 矢野俊博，著者 犬伏知子他 7 名、学文社 2021 年 9 月
  - 2) 小川直子, 犬伏知子: 健常者のヒトエグサ継続摂取による体格指標, 臨床検査値に及ぼす影響～ランダム化比較試験～, 日本食生活学会誌, 第 32 巻, 第 4 号 197-205, (2022)
2. 学会発表
  1. 発色剤の調理操作による残存量の変化：犬伏知子. 第 68 回日本栄養改善学会学術総会誌上発表, 2021 年 10 月
  2. 加工食品表示新基準適用状況の動態把握調査：木内花梨、犬伏知子.  
第 67 回日本家政学会 中国・四国支部大会 (於：徳島) 2021 年 10 月  
オンライン
3. 知的財産権の出願・取得状況  
なし
4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

なし

#### 5. 自己評価：

今年度は1年生の担任であったが、入学式から体調が悪く、大学に来ることが難しい学生の対応、また途中から本学科は、自分に向いていないと感じる学生の対応等に追われた。

また臨地実習も、コロナ禍が続き、中止や延期、オンライン対応のための調整等、でも大変であった。

論文は、3年前の学生の卒論をまだ何らかの形に残せていないので、早くまとめて論文として残す。残された日々を、教育と研究にしっかりと力を注ぐ。

### 大学内運営

#### 1. 活動報告

- ① アカンサス会徳島県支部の副支部長を担当
- ② 学生指導委員会の委員担当
- ③ 入試問題作成委員（化学基礎）の主任担当
- ④ 臨地・校外実習の実習先開拓および実習計画担当
- ⑤ 1年生の担任
- ⑥ 1年から4年生24名のチューター担当
- ⑦ オープンキャンパス模擬授業
- ⑧ 進路相談

### 社会貢献

#### 1. 学会等への貢献

第67回日本家政学会 中国・四国支部大会 オンライン開催（於：徳島）  
会計を担当

#### 2. 地域社会への貢献

- ① 徳島県食の安全安心審議会委員を担当
- ② 徳島県危機管理部消費者くらし安全局安全衛生課の講師指導のもと、食物栄養学科2年生を食品表示ウォッチャーとして、市場の食品表示のチェックを行なってもらった。
- ③ アカンサス会徳島県支部の行事（夏休みの宿題を親子で完成させよう（絵画教室）、生活習慣病に効果的な有酸素運動を体験しよう！）の講師依頼と日程調整、総会後の研修会の予定を準備していた。  
コロナ禍のため、生活習慣病に効果的な有酸素運動を体験しよう！の行事以外は中止とした。
- ④ 出張講義（徳島北高校）：食品添加物の種類と用途、安全性、表示等について話す。

## 個人情報

1. 氏名：坂井 堅太郎
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：基礎栄養学・応用栄養学
2. 学部授業担当科目  
前期：基礎栄養学、応用栄養学Ⅱ、食品加工学、調理学演習  
後期：基礎栄養学実習、応用栄養学Ⅰ、食品加工学特論、応用栄養学実習、給食経営管理演習
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文3年（6名）・4年（5名）
4. 自己評価：  
担当した授業について、授業中に学生自らが授業の内容をまとめるプリントを配布し、学生が習得しなければならない知識について、体系的に身に付くよう工夫した。また、パワーポイントによる授業展開を複数科目で取り入れ、受講学生の理解度を高める工夫をした。  
今年度は、特に遠隔授業が多く行われ、グーグルクラスによるテキスト配信、資料添付、ミーティングによるパワーポイントによる音声授業を取り入れた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：栄養生化学
2. 研究課題及び概要：  
①食物アレルギーの発症機構に関する栄養化学的研究  
アレルギーを引き起こしているヒスタミンが必須アミノ酸の一つであるヒスチジンから合成されていることに注目し、栄養生化学的な視点から栄養管理につなげていく研究を行っている。

### 令和3年度分 研究業績一覧

1. 論文  
なし
2. 学会発表  
1) 食物アレルギーに対する地域社会の認識と患者家族のニーズの把握：妻木陽子、坂井堅太郎、第68回日本栄養改善学会学術総会、2021年10月
3. 知的財産権の出願・取得状況：なし
4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
5. 自己評価：  
本年度も、新型コロナウイルス感染拡大による遠隔授業が多く行われ、授業コンテンツの作成に追われた。今後、次世代の授業環境を見据えて、さらに教育・研究の整備を進めていきたい。

## 大学内運営

### 1. 活動報告

- ①人間生活学部広報担当委員会・委員長
- ②災害時初期対応者

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

- ①日本栄養・食糧学会 参与
- ②日本栄養改善学会 会員
- ③日本アミノ酸学会 会員

## 個人情報

1. 氏名：坂井 隆志
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：生理学、免疫学、解剖生理学、栄養学、微生物学
2. 学部授業担当科目  
前期：運動生理学、解剖生理学Ⅰ、食品加工学演習、解剖生理学（短期大学部食物学専攻）、卒業研究  
後期：微生物学、解剖生理学Ⅱ、解剖生理学実験、免疫学、解剖生理学（音楽学部、人間生活学科、心理学科）、卒業研究  
大学院  
なし
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（4）名、大学院生：（0）名
4. 自己評価

例年よりもさらに講義数が増えて、その準備が大変だった。担当した微生物学、解剖生理学、運動生理学はどれも2コマの授業時間の中で教えるには範囲が広く、すべてを細かく教授することは不可能であることから、学生の目標である「管理栄養士国家試験合格」のための講義をすることを第一の目標とした。新型コロナ禍の中で遠隔授業が多く、その影響もあり昨年度に比べて授業準備にかかるエフォートが増えた。また総合選抜入試の取りまとめの仕事が昨年よりもさらに増えるなど、運営業務が忙しく、予定していた研究領域のエフォートを増やすことはできなかった。

台湾からの留学生の博士学位取得の指導を完遂出来た。

## 研究領域

### 専門研究領域

歯薬学分野・基礎医学・病態医化学

### 令和3年度分 研究業績一覧

#### 1. 論文・著作

- 1) Functional kupffer cells migrate to the liver from the intraperitoneal cavity  
Wen-Ling Lin, Mizuki Mizobuchi, Mina Kawahigashi, Otoki Nakahashi, Yuuki Maekawa, Takashi Sakai. Biochem Biophys Rep. 2021 Aug 17;27:101103. doi: 10.1016/j.bbrep.2021.101103.
- 2) Precipitant-Free Crystallization of Lysozyme and Glucose Isomerase by Drying.  
Yoshihisa Suzuki 1, Shiori Fujiwara, Shoko Ueta and Takashi Sakai. Crystals 2022, 12(2), 129; <https://doi.org/10.3390/cryst12020129>.

#### 2. 学会発表

なし

#### 3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- 1) 科学研究費補助金（基盤研究（C））；「炎症性肝疾患の新規治療戦略としてのクッパー細胞叢集団の単離同定」代表（不採択）

5. 自己評価

研究成果をまとめ、論文として発表することが出来た。しかしながら教育領域へのエフォートを取り過ぎ、研究領域が少々疎かになった感がある。

## 大学内運営

1. チーム医療促進委員会委員（医師）、入学試験委員会委員、新入生セミナー運営委員会委員、人間生活学研究科委員会委員
2. 入試問題作成委員（生物基礎）責任者：一般（Ⅰ期A,Ⅱ期）および推薦入試問題の作成、問題チェックおよび採点の実施兼取りまとめ役
3. 総合選抜入試の学科窓口として、受験生の面接段取り手配など（23人分）

## 社会貢献

1. 日本生化学会評議員（平成30年11月より）
2. 毎月0～2回ほど（土日祝日のみ）、徳島県赤十字血液センターなどからの依頼で医療業務に従事
3. 毎月1～2回（日曜日）、香川県高松協同病院からの依頼で病棟管理業務に従事
4. 徳島大学大学院講義（eラーニングによる英語の講義）
5. 徳島大学歯学部非常勤講師として歯学部3年次生に講義（1コマ）
6. 徳島大学医学部講師、徳島大学大学院医科学教育部担当客員教授として研究に参加
7. 徳島大学先端酵素学研究所共同研究委員会委員



## 個人情報

1. 氏名：中川 利津代
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：公衆栄養学、公衆衛生学、公衆栄養臨地実習代替演習、総合演習
2. 学部授業担当科目  
前期：公衆栄養学Ⅰ、公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学演習、公衆衛生学実習、公衆栄養臨地実習代替演習  
後期：公衆栄養学Ⅱ、公衆衛生学Ⅱ、公衆衛生学演習、総合演習Ⅰ  
通年：ゼミ
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（0）名、大学院生：修士（）名
4. 自己評価
  - ・3年生の担任として、個別指導及び面談を多数回実施した。
  - ・学生が授業に興味を持つように加えてわかりやすい授業にすることを目的に配布資料を工夫した。対面授業の時はレポートの提出を求め授業のポイントを整理させた。
  - ・公衆栄養学や公衆衛生学は、教科書を読んだだけではわかりにくい教科である。管理栄養士国家試験問題等を单元ごとに配布し、学習のポイントがどこにあるのかを示した。
  - ・第36回管理栄養士国家試験において社会と健康の分野の正答率がアップした。
  - ・公衆衛生の疫学指標など数学の基礎が必要な分野は、解けるようになるまで繰り返し説明した。加えて個別で相談に来るように促した。その結果総合演習の点数が上がった。
  - ・classroomを配布資料や動画を工夫した。
  - ・公衆衛生実習は、有意差検定や背理法まで統計学の基本を徹底して説明した。
  - ・公衆衛生学、公衆栄養学、公衆衛生学実習の試験は、classroomを使って行った。
  - ・総合演習Ⅰでは、73名の臨地実習先の計画表を作成した。学生が臨地実習を効果的に受けることができるよう流れや注意点を指導した。学生からの相談に丁寧に対応した。
  - ・4年生のゼミ生には、セルフコーチングができるよう月ごとの目標を立て、タイムマネジメントをするように指導した。また、ゼミ室で勉強しやすいように環境を整えた。
  - ・6月もち麦収穫ワークショップ（牟岐町の紹介、もち麦収穫、精麦）、6月大学コンビニでもち麦とむぎゅっと麺もち麦生パスタが発売開始、ポップ作成、6月もち麦とむぎゅっと麺もち麦生パスタの広報のため四国放送ゴジカルに出演、7月むぎゅっと麺もち麦生パスタ麺打ち体験、もち麦パスタに合うレシピ開発、9月チラシづくりのグループショップ（ZOOM開催）、10月もち麦についての勉強会、10月徳島ビジネスチャレンジメッセ参加、11月もち麦食堂フェア 三角ポップづくり、学食と県庁でキャンペーン、11月牟岐町訪問（もち麦播き体験、地元スーパーマーケットで

のもち麦の購買行動の聞き取り)、11月第2回牟岐町にぎわい産業祭で活動を報告ともち麦とむぎゅっと麺もち麦生パスタともち麦スープの販売、3月卒業式とオープンキャンパスで啓発活動。

これらの活動で、学生は学校で経験できない体験をした。地域貢献にやりがいを見出したり、コミュニケーション能力がアップしたりとキャリアアップにつながった。

活動内容についてマスコミから数多く取材を受けた。徳島新聞3回、朝日新聞1回、読売新聞1回、徳島新聞折込み広報誌SALALA1回、徳島のタウン誌あわわに掲載された。また、NHK、四国放送で徳島文理大学内コンビニで学生が商品開発したもち麦とむぎゅっと麺もち麦生パスタが販売されたことが放映された。また、四国放送ラジカル、FM眉山に出演した。

## 研究領域：

研究テーマ：地域貢献を主体とした研究

1. 食品表示法での栄養成分表示の全面施行に向け、食品製造業者へのサポート法
  - ・販売業者であるスーパーマーケットを対象に栄養成分を表示済みの加工食品の販売に向けた取組状況及び食品製造業者への影響の把握
2. 牟岐町における「もち麦」を使つての地域おこし事業への協力

令和3年度分 研究業績一覧

1. 論文
2. 学会発表
  - ・「栄養成分表示の義務化がスーパーマーケットにおける商品数及び売上高に与えた影響」【第68回日本栄養改善学会学術総会】○中川利津代
  - ・一般加工食品への栄養成分表示の義務化において大学が果たす業者支援（地域貢献）についての一考察【第54回日本栄養・食糧学会 中国・四国支部大会、第7回日本栄養改善学会四国支部学術総会合同大会】
  - ・食品販売業者において栄養成分表示の義務化が加工食品の仕入れや販売等に与えた影響 【第80回日本公衆衛生学会総会】
3. 知的財産権の出願・取得状況 1) なし
4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

1) 補助金の名称：令和3年度県南地域づくりキャンパス事業 委託元「四国の右下」若者創生協議会（事務局徳島県南部地域創生防災部＜美波＞ 地域振興担当）

自己評価：

1. 徳島県の約2割の業者は、栄養成分表示の義務化後に取り扱う食品数が減少しており、栄養成分表示の義務化による影響を受けている可能性がある一方で、売上高の増加の理由は栄養成分表示の義務化ではなくコロナの影響を受けている可能性が示唆された。
2. 大学にパソコン室があり、研修会をサポートする学生がおり、大学の大きな強みである。栄養成分表示や食品表示全般に関する研修会は、食品関連業者に役立つ内容であった。
3. 徳島県内の業者において栄養成分表示の義務化前後で業者の加工食品の仕入れや

販売に変化をもたらす可能性が示唆された。

4. 新聞社、放送局、タウン誌、折込み広報誌、FM局等マスコミから取材があり、広報をすることができ、もち麦とむぎゅっと麺もち麦生パスタの売り上げがアップした。

阿波良場、ビジネスチャレンジメッセ等で企業や来場者に周知することができた。販売店舗数、作付面積、栽培農家が増加した。

5. 徳島文理大学の名前を回数多く広報した。

## 大学内運営

- ・多職種連携推進委員会委員、・防災対策検討委員会委員、・OA入試、推薦入試の面接
- ・大学入学共通テストの監督、・オープンキャンパスで模擬授業、相談コーナーを担当
- ・保護者会において保護者との面談（徳島、香川）
- ・管理栄養士国家試験受験のサポート

## 社会貢献

- ・牟岐町における「もち麦」を使つての地域おこし事業への協力
- ・牟岐の農業を守る会・亀井製麺所・牟岐町・徳島県南部県民局と連携してもち麦とむぎゅっと麺もち麦生パスタの販路拡大
- ・徳島青年会議所主催事業「阿波良場」に出展。  
食物繊維足りていますか？牟岐町産もち麦の特徴(食物繊維豊富)を啓発
- ・徳島ビジネスチャレンジメッセ  
食物繊維足りていますか？、牟岐町、牟岐町産もち麦の特徴(食物繊維豊富)を啓発  
もち麦とむぎゅっと麺もち麦生パスタの販売
- ・とくしまSDGsシンポジウム2021、とくしま国際消費者フォーラム2021  
食物繊維足りていますか？、牟岐町産もち麦の特徴(食物繊維豊富)を啓発
- ・もち麦食堂フェア 徳島文理大学学食で もち麦ごはんを提供  
徳島県庁、徳島県立中央病院、(株)大塚製薬工場社員食堂で、もち麦ごはんを提供  
食物繊維足りていますか？牟岐町産もち麦の栄養面での特徴(食物繊維豊富)を啓発
- ・徳島大学医学部医科栄養学科 非常勤講師



## 個人情報

1. 氏名：近藤 美樹
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：調理学
2. 学部授業担当科目  
前期：調理学実習 I (2 クラス)、食生活論、調理学演習、総合演習 I  
後期：調理学、調理学実験 (2 クラス)、調理学実習 II (2 クラス)、総合演習 II  
大学院  
通年：食品機能化学特別講義、食品機能化学特別研究
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 (15) 名、大学院生：博士 (1) 名
4. 自己評価：  
昨年度に引き続き、新入生に対する実習をオンラインと対面を並行して行う必要があり、各クラスおよび各班の平等性を考慮しながら、授業内容や方法の試行錯誤に加えて、安全面の確保にも神経を使った。今年は調理学実験の対象学年の人数が多く、感染症予防と教育効果の兼ね合いにかなり苦勞した。また、実験は講義と連携した教育内容であることから綿密な計画をしていたが、急な遠隔授業で前後したため柔軟な対応が必要であった。その調整の甲斐もあり、学生にとっては関連付けて学習できたようだ。ゼミ生の国家試験対策では、当初より成績が心配された学生について、目標を達成させることができず成績向上の指導の難しさを感じた。大学院生については、職務との兼ね合いから研究が停滞しているが、特別研究の一環として邦文の論文をほぼ完成させるに至った。次年度は、欧文論文の作成に取り掛からせることを目標にしている。

## 研究領域

1. 専門研究領域：調理学、食品機能学、栄養学
2. 研究課題及び概要；
  - 1) 食品成分の機能性の評価：フキノトウ抽出液に含まれる血糖値上昇抑制成分の同定を目的に、成分分画と動物実験において追跡し、質量分析により同定した。さらに、エンドウの莢抽出物由来の抗酸化成分の同定ならびにその生体抗酸化性を検討した。
  - 2) 食品に含まれる機能性成分の定量と調理の影響：フキに含まれる血糖値上昇抑制成分ならびに天然毒の部位別含有量の測定および調理による挙動を解析した。
3. 令和3年度分 研究業績一覧
  1. 論文・著書
    - 1) Hiemori-Kondo M, Maekawa Y, Uehara H. Identification of the antioxidant compounds in *Pisum sativum* L. with purple pods and the effect of various cooking methods on their activities. *ACS Food Science & Technology*, 1, 2041-2052 (2021).
    - 2) Hiemori-Kondo M, Shinya D, Ueta R. Development of a quantitative method for analyzing three imidazole dipeptides using high-performance liquid chromatography and its application for meat and fish. *Journal of Food Composition and Analysis*, 106, 1-8 (2022).
    - 3) 別冊うかたま、伝え継ぐ日本の家庭料理四季の行事食、(一社) 日本調理

科学会編、(一社)農産漁村文化協会、遊山箱(徳島県)、24-25、2021年9月1日。

## 2. 学会発表

- 1) 近藤(比江森)美樹、新家大輔:シカ肉のイミダゾールジペプチド含量に及ぼす加熱調理の影響. 第75回大会日本栄養・食糧学会、2021年7月3-4日、文京区(オンライン開催)
- 2) 高橋啓子、三木章江、宇野美和子、川端紗也花、後藤月江、長尾久美子、松下純子、近藤美樹、坂井真奈美、金丸芳:徳島県の家料理 行事食の特徴ーひな祭りの楽しい思い出ー遊山箱ー。日本調理科学会 2021年度大会、2021年9月7-8日、日野市(オンライン開催)
- 3) 近藤(比江森)美樹、新居美香:徳島県特産フキの血糖値上昇抑制成分の同定および糖尿病対策への活用に向けた基盤研究. 徳島文理大学・短期大学部 令和3年度「特色ある教育・研究」研究発表、2021年9月17日
- 4) 近藤(比江森)美樹、山口真帆、春木優菜、新居美香:フキノトウの抽出物に含まれる血糖値上昇抑制成分の同定および定量. 日本農芸化学会 2022年度大会、2022年3月15-18日、京都市(オンライン開催)

## 3. 知的財産権の出願・取得状況: なし

## 4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況:

- 1) フキの新機能である血糖値上昇抑制作用の解析及び糖尿病対策への活用に向けた基礎研究:科学研究費補助金(基盤研究C)、代表、交付
- 2) 令和3年度 徳島文理大学 特色ある教育・研究助成:「徳島県特産品由来の未利用資源による糖尿病予防効果とその活用に向けた基礎研究」、申請、不採択

## 5. 自己評価

これまでの研究成果を国際学術雑誌に掲載することができた。しかし、1報は改訂に時間を要し、年度内の受理に至らなかった。また、後期は教育に対するエフォートが高く、当初の計画通りに実験や執筆が進まずに投稿が遅延している原稿があるため次年度の優先課題とする。新規研究課題については、研究の遂行と並行して論文執筆を進め、早期掲載を目標とする。さらに、これまでにデータを収集しているが論文作成に至っていないものがあることから順番に完成させていきたいと考えている。

## 大学内運営

### 1. 活動報告:

教育研究委員会委員、3年生担任、1~4年生チューター、臨地・校外実習担当、オープンキャンパス模擬授業、保護者面談、特別選抜入試用動画作成、学科説明会・施設見学会、総合選抜試験面接、推薦入試出題、I期A入試出題、大学共通試験監督、大学院入学試験・面接等

## 社会貢献

### 1. 学会等での社会貢献:

日本栄養・食糧学会代議員・参与、日本農芸化学会参与、日本栄養改善学会代議員、日本フードファクター学会評議員、第10回日本調理科学会中国・四国支部大会実行委員、徳島県栄養士会研究教育栄養士協議会世話役

### 2. 地域社会への貢献:

徳島大学医学部非常勤講師、ノヴィルホールディングス株式会社担当者へのシカ肉の熟成に関する助言

## 個人情報

1. 氏名：小川 直子
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：栄養教育論
2. 学部授業担当科目  
前期：食物栄養学科 3 年：栄養教育論Ⅱ、栄養教育論実習Ⅰ（2 クラス）、  
食物栄養学科 4 年：給食運営臨地実習代替演習  
保健福祉学部口腔保健学科 3 年：食生活指導論  
後期：食物栄養学科 2 年：栄養教育論Ⅰ、  
食物栄養学科 3 年：栄養教育論Ⅲ、栄養教育論実習Ⅱ（2 クラス）、  
食物栄養学科 4 年：栄養教育論演習
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 3 名（4 年生 1 名、3 年生 2 名）
4. 自己評価

今期は対面授業と遠隔授業の良さをうまく使い分けて授業ができたと思う。実習についても、これまでの経験をプラスにして、よりわかりやすいものにできたと思う。そのため学生の成果もこれまで以上に良いものになっていた。4 年生の国試対策では、これまでの過去問題だけでなく、先を見越した新たな問題を予想し、見事それが国試に出題された。今後も注意深く管理栄養士としての需要が何かを探り、学生の国試対策や授業にも充てられるようにしたいと思う。

また 1 名の卒論を仕上げることができた。3 年生の卒論についても、コロナ禍で人を対象とした研究は難しい面が多かったが何とか進めることができた。来年はさらに新 3 年生の 5 名が卒論生として入ってくるので、学生と共に研究にも励みたいと思う。

## 研究領域

1. 専門研究領域：栄養学および健康科学関連、栄養教育・栄養指導
2. 研究課題及び概要
  - 1) 小・中学生及び高校生のスポーツ栄養に関する研究
  - 2) ヒトエグサの摂取が体格指標、臨床検査値に与える影響について
  - 3) 咀嚼が食行動や体格指標に及ぼす影響について
3. 令和 3 年度分 研究業績一覧

### 【論文】

- 1) 小川直子、犬伏知子：健常者のヒトエグサ摂取による体格指標・臨床検査値に及ぼす影響～ランダム化比較試験～，日本食生活学会，第 32 号，第 4 号，197-205，(2022)

### 【学会発表】

- 1) 小川直子：オペラント条件付けの正の強化子を含めたプログラム実施が高齢者の身体活動量増加や食意識に及ぼす影響，第 68 回日本栄養改善学会学術総会誌上

発表, 2021年10月

4. 知的財産権の出願・取得予定： なし
5. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
  - ・科学研究費補助金：基盤研究Cで申請
6. 自己評価

今年は、ヒトエグサに関する研究の成果を学会誌に掲載することができた。その後はスポーツ栄養に関する研究を主に行い、小中学生のスポーツ選手に対する栄養教育効果について論文をまとめ投稿した。その他高校生アスリートを対象とした栄養教育効果についての研究に取り組んでいる。また今年度卒論生3名を指導し、来年度は7名の卒論生を指導する事になるため、学生と共に研究を楽しみつつ、一つでも多くの論文投稿につなげたいと思う。

## 大学内運営

1. 活動報告：(委員) 自己点検・自己評価委員、
  - 自己点検・自己評価実施委員 (認証評価委員会)
  - (クラス担任) 食物栄養学科4年生担任 (45名)
  - 1~4年学生のチューター (21名)
  - (その他)・入試面接
    - ・オープンキャンパス模擬授業
    - ・進路相談
    - ・高校生による大学見学の案内及び模擬授業 (10月：香川琴平高校7名, 11月：池田高校1名)
- ・受験検討者対象「学科説明・施設見学会」での案内・説明 (12月)
  - ・徳島県保護者会面談
  - ・アカンサス会本部役員
  - ・アカンサス会徳島県支部役員
  - ・アカンサス会沖縄県支部事務担当 等

## 社会貢献

1. 地域社会への貢献：日本栄養改善学会会員, 日本栄養食糧学会会員 日本食育学会会員, 日本食生活学会会員 日本健康教育学会会員, 日本病態栄養学会会員 日本スポーツ栄養学会会員, 日本小児栄養研究会会員
- (その他)・スポーツをする小中学生とその保護者及び高校生とその保護者に対する栄養教育を実施。
  - ・地域連携センターと連携し、「徳島サルトFC」選手の食事調査及び食育を実施。



## 個人情報

1. 氏名： 栗飯原 乙起 (旧姓：中橋)
2. 職位： 講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 臨床栄養学
2. 学部授業担当科目  
前期：分子栄養学、食品機能学、応用栄養学Ⅱ<sup>\*</sup>、臨床栄養学Ⅱ、  
臨床栄養学実習Ⅰ、臨床栄養学臨地実習代替演習、  
総合演習Ⅰ (2Q)  
後期：応用栄養学Ⅰ<sup>\*</sup>、応用栄養学Ⅲ<sup>\*</sup>、応用栄養学実習<sup>\*</sup>、臨床栄養学演習  
総合演習Ⅱ

<sup>\*</sup>坂井堅太郎先生と共同開講

大学院 前期：食品学特論Ⅰ

後期：食品学特論Ⅱ

3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文 2名 (4年生1名、3年生1名)  
去年度から研究指導をしてきた学生が4年生となり、「1, 25(OH)<sub>2</sub>D<sub>3</sub>投与がラット肝臓のCYP24A1タンパク質発現に及ぼす影響の検討」というタイトルで卒業論文を作成することができた。現3年生の学生にも、引き続き研究指導を行っていく。
4. 自己評価

昨年度に引き続き、遠隔授業を併用しながらの授業となった。前期の臨床栄養学実習においては各種交換表を使うことができるかを評価の主軸とし実習の達成目標を明確にした。講義においては国家試験を意識し、頻出の内容に関しては特に重点的に説明した。後期の応用栄養学実習では学生自身で体重・体組成の管理、食事内容の栄養価計算ができることを達成目標とした。各講義・実習において、ほぼすべての学生が達成目標に到達したと評価している。

## 研究領域

### 1. 専門研究領域

ビタミン、ミネラル

### 令和3年度分 研究業績一覧

#### 1. 論文・著書

- 1) Lin WL, Mizobuchi M, Kawahigashi M, Nakahashi O, Maekawa Y, Sakai T. Functional kupffer cells migrate to the liver from the intraperitoneal cavity. *Biochem Biophys Rep.* (2021)

#### 2. 学会発表

なし

#### 3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

#### 4. 令和3年年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

科研費 2022年度 基盤研究 (C) 不採択

## 5. 自己評価

今後も卒論生と研究をすすめ、研究成果を学会で発表し、論文の作成をしていく。

### 大学内運営

人間生活学部就職支援委員、入試問題作成（化学基礎）、4年生担任、1～4年生チューター

### 社会貢献

なし

## 個人情報

1. 氏名：森川 咲子
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床栄養学
2. 学部授業担当科目  
前期（第1クォーター）：臨床栄養活動論, 栄養学
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（0）名
4. 自己評価

今年度は5月中旬から出産育児休暇を取得していたため、第1クォーターのみ勤務にあたった。休業に伴い、学科長の石堂先生をはじめ本学の教職員の皆様方に多大なご配慮をいただいたお陰で、限られた時間ではあったが一定の役割を果たすことが出来たと感じている。

第1クォーター期間内で各教科の全講義を行ったため、補講を含めて週に3~4コマ講義を行った。この期間は新型コロナウイルスの対応のため、遠隔授業での講義が中心となり、対面授業では遠隔授業で分かりにくい内容を扱うよう留意した。臨床栄養活動論では、昨年作成した遠隔授業用の教材を改良して用いたため、授業形態の変更に柔軟に対応できた。一方で、昨年に比べ受講生と直接関わる機会に乏しく、学生の個性に応じて十分な配慮が出来なかった点は次年度以降の改善点としたい。また、理学療法学科の2年生を対象とした栄養学も新たに担当させていただいた。理学療法士の業務と関連するトピックスとしてリハビリテーション栄養学に関する知見を学び直す良い機会となった。今後、講義内容を更にブラッシュアップし、より臨床的な視点も加えた内容も追加し、少しでも学生にとって有意義なものになるようにしたい。

来年度からの職場復帰においては、育児との兼ね合いもあり、より効率的に教材研究ならびに授業等の準備ができるよう精進して参りたい。

## 研究領域

1. 専門研究テーマ  
小児生活習慣病の早期発見・早期予防に関する臨床疫学的研究
2. 2型糖尿病患者の生活習慣療法に関する臨床疫学的研究

令和3年度分 研究業績一覧

### 1. 論文

- 1) Yasunaga Takeda, Kazuya Fujihara, Rina Nedachi, Izumi Ikeda, Sakiko Yoshizawa Morikawa, Mariko Hatta, Chika Horikawa, Mitsutoshi Kato, Noriko Kato, Hiroki Yokoyama, Yoshio Kurihara, Kazuhiro Miyazawa, Hiroshi Maegawa, Hirohito Sone. Comparing Associations of Dietary Energy Density and Energy Intake, Macronutrients with Obesity in Patients with Type 2 Diabetes (JDDM 63). *Nutrients*. 2021 Sep 11;13(9):3167.
- 2) Mizuki Takeuchi, Chika Horikawa, Mariko Hatta, Yasunaga Takeda, Rina

Nedachi, Izumi Ikeda, Sakiko Morikawa, Noriko Kato, Hiroki Yokoyama, Rei Aida, Shiro Tanaka, Chiemi Kamada, Yukio Yoshimura, Toshiko Saito, Kazuya Fujihara, Atsushi Araki, Hirohito Sone. Secular Trends in Dietary Intake over a 20-Year Period in People with Type 2 Diabetes in Japan: A Comparative Study of Two Nationwide Registries; Japan Diabetes Complications Study (JDCCS) and Japan Diabetes Clinical Data Management Study (JDDM). *Nutrients*. 2021 Sep 28;13(10):3428.

2. 学会発表

なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

なし

5. 自己評価

共著者として関わってきた多施設共同研究から2報成果報告することができた。自身が筆頭著者として執筆している論文については、現在投稿準備を進めているところであるが、勤務期間においては極力教育業務にあたったことや、休業中においては新型コロナウイルスの流行に伴い一時保育の利用が難しくなってしまったことから、計画通りに研究を進めることが困難であった。

### 大学内運営

食物栄養学科2年生担任およびチューターとして進路指導等を行った。

### 社会貢献

所属学会は下記の通りである。

日本臨床栄養学会、日本臨床運動療法学会、日本疫学会、日本病態栄養学会、日本栄養食糧学会、日本栄養改善学会、日本糖尿病療養指導学会

## 個人情報

1. 氏名：吉村 英悟
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：食品学
2. 学部授業担当科目  
前期：食品加工学演習、食品学、食品学実験、文理学  
後期：食品加工学実習、食品学実験Ⅱ、食品学特論
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（0）名、大学院生：修士（0）名
4. 自己評価

今期はじめての科目もあり授業準備等に費やすことが多かった。また遠隔での授業も挟み資料作りも再度行い対応した。授業における学生の理解度の確認は小テストやレポートなどの課題で行ったが、不十分であったと感じた。また家庭の通信環境によっては視聴しづらいところもあり、事前に資料配布や配慮をもうすこしすれば良いかとじた。次年度にはもう少し資料作りや学生の理解度の確認など授業運営の改善をしていきたいと考えている。

また座学や実験はなるべく管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラムや管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）に準じるように工夫はしたつもりであるが、もう少し改善が必要と感じた。特に実験は、日本標準食品成分表につながるような実験内容とリンクするように改善をしていきたい。

## 研究領域：食品学

### 研究テーマ

ごぼうに含まれるイヌリンおよびイヌリン分解物の分析による検討  
令和3年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書  
なし
2. 学会発表  
なし
3. 知的財産権の出願・取得状況  
なし
4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
なし

### 自己評価

本学に入ってから初年度であると言いついでないが、今後学会発表や論文作成等できるように研究を進めていきたい。

## 大学内運営：

食物栄養学科1年生担任、各学年チューター、オープンキャンパス模擬授業、ライブ配信による「模擬授業」、保護者面談、総合選抜入試面接等、新入生セミナー、

**社会貢献：**

徳島県の連携事業

- 食品加工関連講座の開催に係る支援
- 「六次産業化研究施設」の活用

## 個人情報

1. 氏名：松本 萬寿美
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：給食経営管理、栄養教諭
2. 学部授業担当科目  
前期：給食経営管理実習（3年2クラス）、給食経営管理Ⅱ（3年2クラス）  
事前・事後指導（栄養教諭）（4年、短期大学部食物専攻2年）  
後期：学校栄養指導論（3年、短期大学部食物専攻1年）、  
教職実践演習（栄養教諭）（4年、短期大学部食物専攻2年）  
給食経営管理Ⅰ（2年） 給食経営管理演習（臨地実習代替）（4年）、
3. 直接に研究指導した学部学生  
栄養教諭セミナー 2名（4年1名、科目等履修生1名）
4. 自己評価：
  - ・大量調理の『給食経営管理実習』を実施する前に、献立作成や大量調理施設衛生管理マニュアルなど基本論理的な『給食経営管理Ⅰ』を理解する必要がある。
  - ・2年の後期に授業を前倒ししていただくことができ、次年前期の『給食経営管理実習』での理解力をよりスムーズになるよう指導することができた。
  - ・『給食経営管理実習』では、大量調理給食施設に携わる経験を実施するための時間が必要であったが、遠隔授業の中で大学の給食提供施設紹介動画や、HACCP 対応施設画像等を使用し、密集を避け検温や消毒を毎回実施しながら給食実習を実施することができた。
  - ・『学校栄養指導論』では、栄養教諭という職種の意義や心構えについて、できるだけ詳しく解説し、意識の向上を図った。

## 研究領域

1. 専門研究領域： 栄養教諭
2. 研究課題及び概要：将来を担う子どもたちの食育を推進する栄養教諭の育成

### 令和3年度分 研究業績一覧

1. 論文  
なし
2. 学会発表  
なし
3. 知的財産権の出願・取得予定  
なし
4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
なし
5. 自己評価

遠隔授業や対面授業の対応で苦勞した。対面授業では、パーテーションを設置し、検温・消毒・マスク着用等確認しながら、出来るかぎりの授業となった。来年度は、平常に授業が進むことを望む。

## 大学内運営

### 1. 活動報告

- ①（委員） 人間生活学部教員養成推進委員会委員長  
徳島キャンパス教員養成対策委員会委員
- ②（クラス担任） 食物栄養学科1年生担任（49名）  
1～3年学生のチューター（1年4名、2年5名、3年6名）
- ③（その他） 推薦入試面接、AO入試面接等  
バレーボールサークル顧問

## 社会貢献

### 1. 地域社会への貢献

那賀町新学校給食センター解説委員会 役員



## 個人情報

1. 氏名：河野 友晴
2. 職位：助教

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 栄養学
2. 学部授業担当科目  
前期：栄養学実験、栄養学Ⅱ  
後期：栄養学Ⅰ、栄養教育論演習
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（1）名、大学院生：修士（0）名
4. 自己評価  
新型コロナウイルスの影響により、遠隔授業となった。急遽自宅でも可能な授業内容への変更を行った。学生への理解度の聴き取りや確認方法が手探りであったため、数名状況が把握できていないと感じた。

## 研究領域

1. 研究分野  
栄養学・運動栄養学
2. 研究課題及び概要  
超高感度免疫測定法を使用した研究  
尿や濾紙血中のバイオマーカー（生理活性物質）を測定し、運動や食生活がどのような影響を与えているか検討する。

### 令和3年度分 研究業績一覧

1. 論文  
1) Analysis of the molecular composition of adiponectin in urine and its usefulness as an early biomarker for diabetic kidney disease(申請中)
2. 学会発表  
なし
3. 知的財産権の出願・取得状況  
なし
4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：  
1) 科学研究費（基盤研究 C） 食事や行動が睡眠の質やホルモンに与える影響についての検討 申請中

### 自己評価

今期は、大学へ研究協力のために人を集め、検体を集めることが難しかった。そのため、私が主体となる研究があまり進まなかった。

## 大学内運営

オープンキャンパスの公開授業、設営、補助、相談係

社会貢献  
なし

## 個人情報

1. 氏名：前川 優樹
2. 職位：助教

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：調理学、栄養学
2. 学部授業担当科目：なし
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（0）名、大学院生：修士（0）名
4. 自己評価：前期は栄養教育論実習Ⅰ、公衆衛生学実習、調理学実習Ⅰの助手を担当し、後期は、調理学実習Ⅱおよび調理学実験の助手を務め、補助・個別指導が必要な学生に対応できた。また、担当の先生方と連携を取ることで、円滑な授業運営に貢献できた。遠隔授業においては、対面授業に比べて学生の理解度を把握しにくいと感じたが、meet やチャット機能を活用することで指導が必要な学生に対して、迅速に指導・補助することができた。

## 研究領域：食品機能学

### 1. 研究テーマ

ツタンカーメンエンドウの莢由来アントシアニンの生体抗酸化性の解明

### 令和3年度分 研究業績一覧

#### 1. 論文・著書

- 1) Hiemori-Kondo M, Morikawa E, Fujikura M, Nagayasu A, Maekawa Y. Inhibitory effects of cyanidin-3-O-glucoside in black soybean hull extract on RBL-2H3 cells degranulation and passive cutaneous anaphylaxis reaction in mice. *Int Immunopharmacol*, 94, 107394 (2021).
- 2) Lin WL, Mizobuchi M, Kawahigashi M, Nakahashi O, Maekawa Y, Sakai T. Functional kupffer cells migrate to the liver from the intraperitoneal cavity. *Biochem Biophys Rep*, 27, 101103 (2021).
- 3) Hiemori-Kondo M, Maekawa Y, Uehara H. Identification of the antioxidant compounds in *Pisum sativum* L. with purple pods and the effect of various cooking methods on their activities. *ACS Food Sci Technol*, 1, 2041-2052 (2021)

#### 2. 学会発表

なし

#### 3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

#### 4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- 1) 科学研究費補助金（研究活動スタート支援）；紫エンドウ莢の未利用資源の有効活用に向けた生体抗酸化性の解明、代表（不採択）
- 2) 科学研究費補助金（挑戦的研究 萌芽）；未利用資源である紫エンドウ莢の有効活用への展開に向けた生体抗酸化性の解析、代表（申請中）

## 自己評価

今期は、論文掲載における研究成果を収めて投稿に貢献することができた。しかし、遅延している研究もあり、課題が残る結果となったことから、学会発表で成果を公表することができなかった。次年度はより綿密に実験計画を立て、研究を実施する。また、研究成果を学会で発表し、論文作成を進める予定である。

#### **大学内運営**

オープンキャンパス模擬授業、設営、補助

#### **社会貢献**

なし

## 第3節 児童学科

### 個人情報

1. 氏名：河口 雅子
2. 職位：教授

### 教育領域

1. 教育の担当専門領域：音楽科、音楽科教育法
2. 学部授業担当科目  
前期：音楽A、音楽②、器楽、卒業研究  
後期：音楽科教育法Ⅰ、音楽①、児童音楽演習、専門ゼミナール、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生：15名（卒業論文、卒業演奏、実技指導等）
4. 自己評価（工夫、反省）

学生自らが音楽科の特性や独自性を理解し、音楽の楽しさ、喜びや一体感を体感できるよう授業改善・実践に取り組んだ。毎時間終了後には、「フィードバックシート」で自己の振り返りと学びを確認させ、その内容を次時の授業に活かした。

① 授業では「基礎理論」「演習」「実技」の3構成に組み立て、「基礎理論」では音楽の基礎理論の理解するための手立てや、授業後半の確認活動で定着を図った。

また、「演習」「実技」では、音楽の感性を磨くという視点からアクティブラーニング及びグループワークを中核として、楽曲の分析から曲想表現に結びつける等の内容構成を実施し、感性を高める授業の展開を図った。このことから、表現方法を体感でき、一体感を持った授業の展開が図れるようになった。子どもたちの発する声や表情、心が見える教師になってほしいという視点で授業を実践したが、自分を表現する楽しさや喜びを体感できる学生が増え、表現の真の意味の理解が図れるようになってきた。

本年度は、前期・後期共に数回遠隔授業となったが、互いの意見や思いが共有でき、意見交換ができるなど対面授業ではできなかった面での効果があった。

② 採用試験に向けては、公立保育士、小学校教諭、地方公務員、幼稚園教諭、認定こども園に就職が決定し、学生の夢を叶えさせることができた。1次対策の勉強、面接指導、論文指導、実技指導等の対面指導の他にズームでの指導も効果大であった。

③ 7回目となるゼミの企画運営によるコンサートは、本年度も昨年を引き続き、コロナ禍のために中止となった。3年生「音楽劇・合唱」、4年生「ソロ演奏・合唱」さらに3・4年合同の合唱やダンスもできなかったのは非常に残念である。しかしコンサートに向けての練習や準備は個々に成果を残せたと感じている。

### 研究領域

1. 専門研究領域  
「言葉・音を音楽にする感性へのアプローチ」「自己表現力の創造」
2. 研究課題及び概要

音楽にまつわる人の認識、思考や感情のメカニズムやプロセスから、旋律、リズム

ム、響き、聴取という要素がいかに音楽と関わる中で普遍的認知過程を持ち、感情に繋がっていくかを一つひとつの領域で研究している。言葉や音が人の心の中で豊かな音楽に至るためには、感性を磨くことが重要と考える。こうした研究を基盤とし、幼児期から児童期に係る発達段階でどう感性を磨くか、子どもたちの学びをどう創造し、表現活動に結び付けていくか、こうした点について、様々な教材を収集・選択し、研究を深めてきた。合唱指導においては、合唱曲「百年後—ラビンドラナート・タゴールの三つの詩—」における歌詞・楽曲の分析から表現の創造等を研究し、表現による人間力の創造をテーマとした演奏を目指している。

3. 令和3年度分 研究業績一覧

4. 知的財産権の出願・取得状況：特になし

5. 令和3年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：特になし

6. 自己評価

「言葉・音を音楽にする感性へのアプローチ」「自己表現力の創造」をテーマとして、研究を続けているが、今までに実践・研究してきたものを纏めさらにテーマに結びつけていきたいと考えている。

## 大学内運営

1. 活動報告（委員会、担任等）

- ①児童学科長 ②教務委員会 ③教員養成対策委員会 ④中期目標策定委員会  
⑤3年チューター(8名) ⑥4年チューター(6名)

## 社会貢献

1. 学会への貢献

中四国教育学会会員

2. 地域社会への貢献

徳島県教育委員会教育長職務代理者

四国4県教育委員総会教育長会

徳島県・市町村教育委員会教育委員等研修会

徳島県総合教育会議

定例教育委員会 臨時教育委員会等

県内学事視察（勝浦中学校）

全国都道府県教育委員会連合会理事

令和3年度全国都道府県教育委員会理事会

芸術文化・文化遺産に関する事業（徳島県教育委員会）講師

徳島県女性管理職協議会会長

第88回全国学校音楽コンクール徳島県大会審査員

女声合唱団「Vivac みやび」指導者

## 個人情報

1. 氏名：三橋 謙一郎
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育方法論、生徒指導、保育方法論
2. 学部授業担当科目  
前期：初等教育方法論、生徒指導（進路指導を含む）、保育援助論、保育方法演習  
後期：教育方法論、教職概論、保育・教職実践演習（幼・小）、保育方法演習、専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（5）名、その他（5）名
4. 自己評価  
\*授業では具体的な実践例を取り上げながら、理論的な内容をわかりやすく説明するように心掛けた。  
\*授業での私語対策として、学生の反応に応じて説明の仕方を変える等の工夫に努めた。  
\*教職科目の授業に関しては、教員採用試験との関連を考慮し、教材の精選に工夫を凝らした。

## 研究領域

1. 専門研究領域：教育学、教育方法学、幼児教育方法学、臨床教育学
2. 研究課題及び概要  
・教育的タクトのあり方に関する実証的研究：理論に支えられた教育的タクトのあり方を、現場の授業実践の参観＝分析に基づき、具体的・実践的に追求していく。
3. 令和3年度分 研究業績一覧  
【著書】『教育学辞典』・共・あいり出版・2022年3月
4. 自己評価  
広島県内、高知県内、徳島県内の現場の授業実践を中心に、授業等の分析＝検討を行い、上述の研究課題を達成するために、研究成果を発刊することで一定の成果が得られたように思う。

## 大学内運営

1. 活動報告
  - ① 人間生活学専攻科長
  - ② 大学院人間生活学研究科児童学専攻主任
  - ③ 全学教職課程委員会委員長
  - ④ 全学教員養成対策委員会委員
  - ⑤ 全学紀要編集委員会委員
  - ⑥ 人間生活学部教員養成推進委員会委員
  - ⑦ 児童学科3年クラス担任

⑧ 児童学科1・2・3・4年チューター等(22名)

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

- ① 日本教育方法学会常任理事・紀要編集委員会委員
- ② 日本教育方法学会研究奨励賞審査委員会委員長
- ③ 日本特別活動学会理事・紀要編集委員会委員
- ④ 日本特別活動学会実践支援研究委員会委員
- ⑤ 現代学習集団授業研究会副会長
- ⑥ 中・四国保育士養成協議会幹事

### 2. 地域社会への貢献

- ① 徳島市子ども・子育て会議委員
- ② 教員免許状更新講習講師
- ③ 県・大学等連携による教職員研修講座講師



## 個人情報

1. 氏名：岡 直樹
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：学校心理学
2. 学部授業担当科目

前期：心理学 A, 教育原理, 子どもの学び支援実習 I, II, III, IV

後期：子ども家庭支援の心理学, 教育原理, 社会心理学, 道德教育,  
専門ゼミナール, 子どもの学び支援実習 I, II, III, IV

3. 直接に指導した学生

子どもの学び支援センターでの指導 27 名,  
チューター担当 26 名 (専門ゼミナールおよび卒論指導担当学生を含む)。

4. 自己評価

授業においては、特にオンライン授業においては、わかりやすくなるよう説明文の工夫や、提示する資料の精選を行った。また、オンライン授業では一方通行になりがちであったが、課題や課題の出し方を工夫することにより、受け身の学習にならないよう配慮した。

学生の実践的指導力の育成、教育の質の保証の観点から、子どもの学び支援センター(きらきらルーム)において、学習相談の実習を学生に行わせ、その実習に対するケース検討会なども開きながら、学生の心理教育的支援の実践力を育成した。この学習相談の実施についても今年度はオンラインでの学習支援も行った。また、今年度から、小学生に加え、幼児への支援も試行的に行い、幼稚園教諭もしくは保育士を目指す学生の実践的指導力の育成を図った。

## 研究領域

1. 専門研究領域：認知心理学, 学校心理学
2. 研究課題及び概要

- ① 記憶や学習についてのメカニズムに関する基礎的研究
- ② 基礎的研究から得られた知見に基づく学習指導法や学習方法についての応用的研究
- ③ 学習面の心理教育支援、特に認知カウンセリングに関する実践的研究

3. 令和3年度分研究業績一覧

### 【学会発表】

金子紗枝子・岡直樹 教職を目指す大学生の力量形成のための取り組み —2020 年度の活動への参加児童とその保護者への調査結果からの考察— 日本学校心理学会第 23 回福岡大会 2021 年 9 月 オンライン開催 (ポスター発表)

4. 知的財産権の出願・取得状況

なし

5. 令和3年度分科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況

なし

## 6. 自己評価

研究課題については、特に応用的研究と実践研究にウエイトをおいて研究を継続し、論文投稿や学会発表を行ってきた。また、本学内において実施している学び支援活動（きらきらルーム）を基盤にして、事例研究に取り組むとともに、参加児童、保護者および大学生に実施したアンケート等を分析し、この取り組みについて検証し、支援方法の改善策について検討してきた。さらに、発達障害のある児童については、支援を授業期間後も継続的に行い、事例研究を進めてきている。

## 大学内運営

- ① 教育研究委員会委員長
- ② FD 研究部会委員
- ③ 自己点検・自己評価委員会委員
- ④ 自己点検・評価実施委員会委員
- ⑤ 児童学科 1 年生担任, 1, 2, 3 年生チューター

## 社会貢献

- ① 一般社団法人 学校心理士認定運営機構 学校心理士資格認定委員会委員長
- ② 一般社団法人 学校心理士認定運営機構 理事
- ③ 日本学校心理士会副会長
- ④ 学校心理学研究 査読者
- ⑤ 日本学校心理士会年報 査読者
- ⑥ 日本学校心理学会 理事
- ⑦ 日本学校心理士会 2021 年度大会（10 月 30 日～11 月 7 日実施） 大会準備委員

## 個人情報

1. 氏名：松本 有貴
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育心理学、児童心理学、臨床学校心理学
2. 学部授業担当科目  
前期：教育心理学、保育の心理学Ⅰ、保育者論、児童教育相談演習Ⅰ・Ⅱ、児童実践教育学特論Ⅰ、家族関係学特別研究、特別研究、卒業研究  
後期：児童心理学、教育相談（カウンセリングを含む）、専門ゼミナール、児童実践教育学特論Ⅱ、児童教育相談演習Ⅱ、家族関係学特別講義、特別研究、卒業研究
3. 直接に指導した学生  
学部学生：4年生ゼミナール3名 ・3年生ゼミナール5名  
直接指導した大学院学生：修士2名・博士2名（大阪大学大学院連合小児発達学研究所1名含む）
4. 自己評価  
一斉講義とともにグループ討論・課題やロールプレイを用いた演習を行い、学生の主体的学修を促進した。ゲスト講師として小学校教諭を招待し学生の実践への意欲を高めた。文献研究を取り入れた授業、論作文やパワーポイントを使った発表の取り組みを行った。評価は多視点による基準を設置して行った。

## 研究領域

1. 専門研究領域：ユニバーサル予防教育、ウェルビーイング教育、社会性と情動の学習（SEL）、子どもの認知行動療法、神経生理心理学
2. 研究課題
  - ① 認知行動療法（CBT）に基づく学校予防教育の効果比較研究
  - ② マインドフルネス子育て支援による保護者のメンタルヘルスの向上の研究
  - ③ 教員・指導員による発達障害の不安への CBT を用いた支援の研究
  - ④ ウェルビーイング教育の研究
  - ⑤ 発達障害に対応する保護者プログラムの研究
3. 令和3年度分 研究業績一覧
  1. 論文・著書
    - ① ちばエコチル調査つうしん 2021 9月号 キット先生の豊かな心をはぐくむ子育て「ネガティブ感情に対応する力」千葉大学予防センター
    - ② ちばエコチル調査つうしん 2022 3月号 キット先生の豊かな心をはぐくむ子育て「ありがとうをさがす」千葉大学予防センター
    - ③ Takizawa, Y., Murray, J., Bambling, M., Matsumoto, Y., Ishimoto, Y., Yamane, T., & Edirippulige, S. (2021). Online training for psychotherapists in Asian contexts: Advantages, challenges, and effective features. *Asia Pacific Journal of Contemporary Education and Communication Technology*

査読有

- ④Takizawa, Y., Murray, J., Bambling, M., Matsumoto, Y., Ishimoto, Y., Yamane, T., & Edirippulige, S. (2022). Integrating neuroscientific knowledge into psychotherapy amongst Japanese psychotherapists: Presence, benefits, needs and cultural barriers. *Asia Pacific Journal of Counselling and Psychotherapy*. DOI: 10.1080/21507686.2022.2035783
- ⑤Ishimoto, Y., Yamane, T., Matsumoto, Y., Takizawa, Y., & Kobayashi, K. The impact of gender differences, school adjustment, social interactions, and social activities on emotional and behavioral reactions to the COVID-19 pandemic among Japanese school children. *SSM - Mental Health*. DOI: 10.1016/j.ssmmh.2022.100077
- ⑥瀧澤悠・Judith Murray・Matthew Bambling・松本有貴・石本雄真・山根隆宏・小林勝年・片山泰一・西田千寿子・Sisira・Edirippulige (2021). 今日から始める子どもの心の支援- 心理学と神経科学の融合から得られる理解 - 今井出版
- ⑦松本有貴・石本雄真・瀧澤悠 (2021) WE ダイアリー 原田印刷出版

## 2. 学会・研究会

- ①石本・松本・渡辺・宮崎 (2021) 子どもたちのポジティブな側面を伸ばす心理教育実践—現代をよりよく生きる力を育む SEL— シンポジウム 日本教育心理学会第 63 回総会 Web 開催
- ②小林・渡辺・松本・長谷川・兒島・澤海 (2021) デジタル社会における感情の発達と教育 学会企画シンポジウム 7 日本教育心理学会第 63 回総会 Web 開催
- ③宮崎・石隈・渡辺・小泉・松本 (2022) 日本の教育に SEL を定着させるには シンポジウム 第 12 回 SEL 研究大会 Web 開催
- ④瀧澤・石本・松本 (2022) 子どもを対象として実施されたユニバーサル SEL プログラムのメタ分析 第 12 回 SEL 研究大会 Web 開催

## 3. 知的財産権の出願・取得状況

特になし

## 4. 令和 3 年度分 科学研究費補助金・各種助成金

科研基盤 (C) 18K02440 (H30・R1・R2) 研究代表者 石本雄真

科研基盤 (C) 20K03406 (R2・3・4) 研究代表者 松本有貴

科研基盤 (C) 21K03104 (R3・4・5) 研究代表者 南谷則子

日本生命財団 (2021) 2021 年度児童・少年の健全育成実践的研究助成

(1 年助成) 研究代表者 野上慶子

公益財団法人 明治安田こころの健康財団 研究助成事業 (2022) 研究代表者

野上慶子

## 5. 自己評価

科研基盤 (C) (20K03406) の 2 年目の課題である子ども対象の介入研究を小学校 8 校で実施できた。データ分析を終え論文を執筆した (投稿予定)。

理化学研究所脳神経科学研究センター親和性社会行動研究チームの「RISTEX プロジェクト」に参加した。

研究分担者として、研究代表者と連携して研究を進めた。  
大学院博士課程学生の指導において学位取得に向けた指導ができた。  
卒業論文の指導において、学生の意欲を高め、研究論文の作成を指導できた。  
論文投稿、学会発表に積極的に取り組むことができた。

### 大学内運営

- ① 人間生活学部学生指導・支援委員会
- ② 全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- ③ 徳島文理小学校スクールアドバイザー
- ④ 児童学科：1年生担任、チューター（19名）、学生指導・支援担当
- ⑤ 教員免許状更新の講座担当

### 社会貢献

- ① 日本SEL研究会副代表理事
- ② クイーンズランド大学認定トリプルPプログラムトレーナー
- ③ Sage Open 査読者
- ④ BMS Psychiatry 査読者
- ⑤ 一般社団法人日本レジリエンス教育研修センター理事
- ⑥ 理化学研究所脳神経科学研究センター親和性社会行動研究チーム研究協力者



## 個人情報

1. 氏名：岡山 千賀子
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：児童学・子育て支援・レクリエーション
2. 学部授業担当科目  
前期：児童学原論、レクリエーション活動援助法Ⅰ、レクリエーション論、家庭科  
教育法Ⅰ、レクリエーション概論、レクリエーション実技①、レクリエーション  
実技②  
後期：家庭、レクリエーション活動援助法Ⅱ、レクリエーション実技・レクリエー  
ション概論、専門ゼミナール、卒業研究、スポーツ・レクリエーション特講（集  
中）  
大学院：児童教育相談演習Ⅱ
3. 直接に研究指導した学部学生： その他（1）名
4. 自己評価  
\*学生指導：1年生学年主任として教育に尽力した。  
\*就職対策：4年生5名に就職指導を行った。  
\*採用試験対策：過去の試験問題や実技について適宜授業内で紹介し、教科では、  
実際の試験問題に取り組む時間を設定した。保育・教育対策講座（3・4年生対象）  
を担当した。  
\*授業実践：実践力を身に付けるために、積極的にボランティア活動を推進した。  
事例解釈や実技を授業に取り入れたり、保育現場への見学・実践等を取り入れた  
りした。\*最新の情報と資料を準備し、適宜ビデオやメディアを取り入れた。  
\*アクティブ・ラーニング：自著した「講義ノート」を活用し、その中で古文や新聞  
記事などを取り入れ、学生に自ら取り組み、考える力を付けるよう努力した。  
\*児童研究「with children」担当。  
\*レクリエーション公認資格課程認定校講座担当として、資格取得申請に関する指  
導をした。「スポーツ・レクリエーション指導者」資格課程の指導を行った。  
（令和3年度は、35名の学生が受講した。）

## 研究領域

1. 専門研究領域：社会科学分野・児童学・家族領域
2. 研究課題及び概要；  
「子育て支援員の保育者効力感に関する研究」継続。子育て支援員の保育者効力感  
を上げるための課題に取り組む。  
レクリエーション・インストラクター資格・スポーツ・レクリエーション指導者資格  
者に必要な技術と知識に関する研究。
3. 令和3年度分 研究業績一覧  
【論文】

- ①「保育管理職員の子育て支援員に対する認識と子育て支援員の保育者効力感に関する研究」日本児童学会「児童研究」Vol. 100. p12-18. 研究論文

4. 自己評価（成果、反省）

日本レクリエーション協会理事。日本レクリエーション協会からの依頼で講習会および全国公認資格認定委員の活動に取り組んだ。NPO 法人徳島県レクリエーション協会会長として、第77回全国レクリエーション大会 in 徳島 2023 の準備をした。

人間生活研究科人間生活専攻博士後期課程修了した。特別研究に関しては、学会論文投稿及び博士論文作成に意欲的に取り組むことが出来た。

5. 学位取得：博士（学術）甲11号

## 大学内運営

1. 活動報告

- ①県内外高校への出張講義・遠隔授業
- ②保護者会担当・ボランティア推進係（学科内）
- ③児童学科1年生学年主任・担任62名、児童学科1年チューター6名・2年チューター7名・3年チューター4名・4年チューター5名
- ④学内ボランティア担当

## 社会貢献

1. 学会等への貢献：

- ①日本レクリエーション協会理事・同協会公認指導者資格課程認定校連絡協議会 監事・同協会全国公認資格認定委員
- ②徳島県レクリエーション協会会長、（レクリエーション・コーディネーター）
- ③日本消費者教育学会会員（中・四国支部役員）
- ④日本家政学会中国・四国支部機関幹事 第67回日本家政学会中国・四国支部研究発表会実行委員長及び優秀研究発表表彰選定委員長

2. 地域社会への貢献：

- ①徳島県教育委員会生涯学習政策課、「学校を核とした地域の教育力強化推進委員会」、委員長
- ②徳島県教育委員会生涯学習政策課、「放課後児童健全育成委員会」、委員長
- ③徳島県県民環境部「徳島県放課後子ども総合プラン推進委員会」委員長
- ④徳島県県民環境部人権教育啓発推進委員
- ⑤徳島県県民環境部「子どもの事故防止委員会」委員
- ⑥徳島県立近代美術館協議会 委員長
- ⑦徳島県スポーツコミッション推進委員
- ⑧徳島県スポーツ王国とくしま推進会議委員
- ⑨徳島県あいらんど推進協議会理事
- ⑩徳島県スポーツ協会理事
- ⑪徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議委員
- ⑫徳島市都市計画マスタープラン策定市民会議委員



- ⑬徳島市総合計画・総合戦略推進委員会委員
  - ⑭徳島市中心市街地活性化協議会委員
  - ⑮徳島市身体障害者連合会理事
  - ⑯徳島市パラスポーツ講習会コーディネーター
  - ⑰徳島県あすたむらんど徳島外部有識者委員会委員
  - ⑱NPO 法人徳島県レクリエーション協会、公認指導者（徳島県シルバー大学院講座講師）
  - ⑲徳島県立総合大学校まなびーあ登録講師
  - ⑳徳島県保健福祉部長寿こども政策局、「子育て応援の匠」
  - ㉑徳島県ウーケラー実行委員会委員
  - ㉒社会福祉法人 ハート福祉会評議員
  - ㉓社会福祉法人 悠林舎 福祉サービス評価機関評価委員
- \* その他、県・市町村における子育て支援、放課後児童健全育成指導等に関する講演会活動など



## 個人情報

1. 氏名： 津守 美鈴
2. 職位： 准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：国語科、国語科教育法
2. 学部授業担当科目  
前期：国語科教育法Ⅰ、文学・文学A、児童文学、保育内容（言葉）A  
後期：国語（書写を含む）、保育・教職実践演習、専門ゼミナール、保育内容（言葉）B、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生： 専門ゼミナール（6名）、卒業論文（4名）
4. 自己評価

I C T機器も有効に活用できる方途を探りながら、学修者参加型を意識した授業づくりに努めたが、その分教材研究や授業準備に追われた感があった。また、本年度は引き続き、新型コロナウイルスの拡大により遠隔授業になることが多かったため、参加型授業の実践が困難な面があった。「With コロナ」下にあっても、I C T機器などを効果的に用いながら、より参加型で主体的な学修ができる授業づくりをしていく必要性を感じた。

教員採用試験の講座については、ゼミ生だけでなく、小学校教員や他学科の養護教諭をめざす学生等に対し、できる限りの時間を使って面接練習や論文指導、模擬授業練習をするなどの指導・支援をしたことが、多くの合格者を出すことにつながったと考える。来年度も、学生の夢の実現に向けて、方法改善に努め全力で支援をしていきたい。

卒業論文指導については、例年は3年生からテーマの確定と章立てをさせたり、卒業研究に関してしっかりとイメージや意欲を持たせたりするため、4年生が3年生を対象として卒論中間及び最終発表会を実施してきたが、本年度は状況を踏まえて実施を見送った。本企画は意義があると考えられるので、次年度こそ環境を整えるなどの工夫をしながら、実施できるように努めたい。

## 研究領域

1. 専門研究領域：教育方法、国語科教育
2. 研究課題及び概要

「主体的で対話的な深い学修のできる大学授業の可能性」

本学のいくつかの授業において、グループワークをできる限り導入し、協働・参加型の学修形態を試行してみるなど、実践的に可能性をさぐってきた。また、「知識構成型ジグソー法」を用いて、その効果の実践的な検証も行えるように試みてきた。しかし、本年度は、残念ながらなかなかうまくいかず、これと言った結果が得られなかった。今後は、「深い学び」につながる「対話（話す・聞く）」において、「能動的に聴く」ことの研究のために、全国的な理論・実践研究会に参加させていただき、知見を深めてきたい。

3. 令和3年度分 研究業績一覧
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
6. 自己評価

教育領域の自己評価にも記述したとおり、どうしても正課の授業や正課外の講座等、また、担任・チューター生への学生指導に費やす時間と労力が非常に大きいため、じっくりと研究に取り組むことが困難な状況があると感じる。特に、本年度は、新型コロナウイルスの被害を一番受けている2年生を担当し、なかなか大学生活も軌道に乗らず、また、友だちづくりもうまくいかなかったため休みがちになっていった学生の指導等にも時間と労力を費やした感がある。

## 大学内運営

### 1. 活動報告

- ① 児童学科2年主任75名、1年チューター6名、2年チューター5名、3年チューター6名、4年チューター5名
- ② 人間生活学部大学共通テスト委員
- ③ 入試作問委員
- ④ 全学教員養成対策委員会委員
- ⑤ 書道部顧問

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

国語教育実践理論研究会（KZR）会員

### 2. 地域社会への貢献

- ① 徳島県子どもの読書活動推進協議会委員長
- ② 徳島県令和3年度教科用図書選定審議会副委員長
- ③ 令和3年度用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画・標語コンクール審査員
- ④ 徳島県図書館サポーター養成講座講師
- ⑤ 国立大学法人徳島大学総合科学部非常勤講師
- ⑥ 香川県中学校教育研究会国語部会研修会講師（新型コロナ拡大のため中止）

## 個人情報

1. 氏名：仁宇暁子
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：図画工作科教育法、図画工作、美術A
2. 学部授業担当科目：

前期：図画工作科教育法2年、保育内容〈表現B2年、図画工作①1年、卒業研究

後期：図画工作②1年、専門ゼミナール3年、美術A1年2年、卒業研究4年

3. 直接に研究指導した学部学生：6名（卒業制作、卒業論文指導）、その他9名
4. 自己評価

保育内容（表現B）、図画工作科教育法の今年度の授業は、三分の二が遠隔配信授業であった。子ども一人ひとりを生かす模擬授業や、保育内容〈表現B〉では、子どもの思いを汲み上げる模擬保育までの実践指導を遠隔配信で行ったため、パワーポイントを一科目につきスライド400枚以上作成した。対面での模擬授業や模擬保育は、学生が主体的に活動し、感性を揺さぶる授業を行うことができるように個別指導に時間をかけて対応したが、十分とはいえなかった。また、図画工作①②では、小学校・幼稚園教諭や保育士の採用試験に必要な写実的な鉛筆デッサンをはじめとした基礎基本の技能や知識を身に付けさせた。また、美術Aは、五感を働かせて感性を豊かにする感性トレーニングを駆使し制作に生かした。その結果、殆どの学生が美術に対する苦手意識が軽減し、自信をもって自己表現できるようになった。また、今年度もクラスルームで授業の振り返りを客観的に行うことができ、アドバイスや返答を個別に行い、学生の意欲を引き出す菊花絵になったように思う。

## 研究領域

1. 専門研究領域：

- ・感性トレーニングによる心と形の関係性について(子どもから大人まで)
- ・絵画（桜の花びらをモチーフにテンペラ溶剤を使用した抽象絵画の研究、インスタレーション）。
- ・石膏デッサンと感性トレーニングによる創造性の開発

2. 研究課題及び概要：

- ・図画工作科における、「感性トレーニング」が子どもの心と表現に及ぼす効果
- ・創造の一過程としての石膏デッサンの可能性
- ・桜の花びら、藍染、キャンバス作品による「命の尊さ」の平面表現、インスタレーションによる空間表現

3. 令和3年度分研究業績一覧

### 【論文・個展】：

第68回形象派美術協会展出品

第40回個展開催

### 【著書】：

「形象」に石膏デッサンと絵画展批評の原稿を執筆掲載

#### 4. 自己評価

「感性トレーニングによる子どもの心の変化と表現の効果」について著書の執筆を始めることができた。今年度は残念ながら、サクライノチシリーズの展覧会は諸事情により延期になった。

### 大学内運営

#### 1 活動報告（委員会委員、担任等）

- ・就職支援委員会
- ・児童学科広報担当
- ・児童学科オープンキャンパス担当
- ・児童学科4年生担任50名、チューター生20名（1年生6名、2年生2名、3年生6名、4年生6名）
- ・教員採用試験対策講座担当（絵画、鉛筆デッサン）
- ・令和3年度教員免許更新講座:令和3年8月19日（様々な場材による表現と鑑賞方法）・8月21日（現場で活かされる水彩画の基礎講座、表現と鑑賞の方法）

### 社会貢献

1. 学会への貢献：学会への貢献には該当には当たらないが、美術団体としての貢献は日本形象派美術協会 審査委員長並びに研修委員長を務めた。
2. 学校への貢献：
  - ・国立台北教育大学と児童学科の交流締結4年目
  - ・香川県立三本松高校で出張講義を行う。
  - ・徳島市教育委員会主催の2つの展覧会の審査を務めた。
  - ・全国教育美術展 地方審査委員を務めた。
3. 地域への貢献：
  - ・全国公募展「AWA 現代アート展」の審査員を務めた。
  - ・三好市の病院で2歳から100歳までに「元気になる絵画ワークショップ」を年に2回行った。
  - ・徳島市の公民館で市民や不登校の児童生徒を対象に絵画ワークショップを毎月3回開催した。
  - ・とくしま動物園の写生大会などの展覧会審査員を務めた。

## 個人情報

1. 氏名： 川端恵子
2. 職位： 准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 幼児教育
2. 学部授業担当科目  
前期：保育内容（環境）A、保育内容（人間関係）A、事前・事後指導①  
保育内容（環境）（保育科）事前・事後指導（保育科）  
後期：保育内容（環境）B、保育内容（人間関係）B、専門ゼミナール、事前・事後指導②、保育・教職実践演習、保育内容（人間関係）A（保育科）
3. 直接に研究指導した学部学生：6名
4. 自己評価
  - ・保育内容の指導において「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記載内容がしっかりと理解できるように留意するとともに、幼児期の特性や小学校以降の学び方との違いについての理解や認識が深まるように努力した。
  - ・学生の理解度を考慮したり応答的に授業を進めたりすることに配慮した。
  - ・ビデオ・スライドなどを活用し視覚を通して学ぶことや、グループで学習し発表する機会を設けることで、楽しい授業を目指した。
  - ・幼稚園の現場での経験を生かし、実際の幼児の姿や事例を多く取り入れ理論と関連付けた授業を展開することに努めた。学生が実習で経験したことを事例に仕上げ、考察を基にディスカッションした経験は有意義であったと考えている。
  - ・特に、4年生の授業では実践的な内容を中心とし、保育現場で応用できるよう配慮するとともに、保育の現場で求められる保育者としての資質を高めることに意識をおいて授業内容や演習内容に留意した。模擬保育の後、現場で行われているような協議会の形式を模擬的に取り入れて学んだこともリアルで好評だった。
  - ・理論面においては新たに学ぶことや研究すべき事項も多々あった。教材研究は私自身の向上につながっており、次年度にもより良い授業を目指して取り組んでいきたい。

## 研究領域

1. 専門研究領域：保育内容
2. 研究課題及び概要
  - ①「幼児期における道徳性・規範意識の芽生えについて」

近年の生活環境の変化が、子どもの成長・発達においてどのように影響を及ぼしているかについて研究を深めていきたい。とりわけ、道徳性・規範意識等が培われることについては、担当科目の保育内容（人間関係）と重なり興味深く感じている部分であり、今後研究を深めたいと考えている。
  - ②「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等について理解を深め、各幼児教育施設

での教育・保育の在り方について引き続き研究していきたい。

3. 令和3年度分 研究業績一覧
4. 知的財産権の出願・取得状況： なし
5. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況： なし
6. 自己評価

幼児期における道徳性・規範意識の芽生えについて、著名な研究者の考えを参考にしながら私自身の実践を基にした理論を深め、学生への指導に生かしていきたい。「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が定着しつつある中、質の高い保育ができる保育者を育成すること特に力を入れて授業に臨み、成果があげられたと感じている。

## 大学内運営

1. 活動報告
  - ① オープンキャンパス担当
  - ② 児童学科4年Aクラス担任
  - ③ 1年チューター6名、2年チューター2名、3年チューター7名、4年チューター6名
  - ④ 幼・保採用試験対策へのサポート

## 社会貢献

1. 学会等への貢献  
日本保育学会会員
2. 地域社会への貢献
  - ① 徳島県幼児教育推進体制構築事業調査研究実行委員
  - ② 徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー
  - ③ 徳島県幼稚園等新規採用教諭研修会委員
  - ④ 令和3年度徳島県幼稚園教育課程研究協議会助言者（8/2）
  - ⑤ 令和3年度徳島県幼稚園ミドルリーダー研修講師（8/6）
  - ⑥ 令和3年度幼稚園教諭免許法認定講座講師（11/13）
  - ⑦ 保育士試験（言語）審査員



## 個人情報

1. 氏名：林 向達
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：情報教育、教育学
2. 学部授業担当  
前期：教育方法・技術論、情報処理、保育原理  
後期：教育方法・技術論、情報科学、情報ネットワーク論、保育原理、専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学部学生：  
学部：3年生3名（専門ゼミ）、4年生2名（卒業研究／チューター指導）
4. 自己評価：

昨年度に引き続き、遠隔授業と対面授業を組み合わせ授業した。視覚的な情報が好まれる事情を考慮し、遠隔授業は動画によって行なうこととした。遠隔授業の実績で蓄積した多様な教材や提示技法を対面授業にもフィードバックをしつつ、遠隔と対面とが切り替わったとしても一貫して受講できるルーチンを構築するなど、状況に応じた教育活動を行なうことができた。

専門ゼミナールでは、3年生と文献講読を行なうことができた。全員が卒業研究への意欲を示したこともあり、テーマ探しを平行させながら、アウトプットする重要性について分担発表しながら学びを進めた。

卒業研究は、一名がフィンランドの教育に関するテーマで論文執筆を行なった。論文の構成などについて議論を交わすなどの指導を行ない完成させることができた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：教育工学、教育情報化史、教育課程論
2. 研究課題及び概要：デジタル教材開発、教育と情報の歴史資料収集と整理
3. 令和3年度分、研究業績一覧

### 小論執筆

林向達「中・長期的に起こる問題（「GIGA スクール」を失敗させない）」『教職研修』2021年7月号

林向達「コロナにより加速した教育のオンライン化、デジタル化と未来の学校教育について」機関誌『自治体国際化フォーラム』2021年7月

林向達「情報活用能力のミライ（特集「情報活用能力のこれから）」『学習情報研究』2021年9月号

学会発表

林向達「電子マネー決済シミュレーション教材の開発」日本教育工学会 2022 年春季全国大会（2022 年 3 月 19 日）

#### 4. 自己評価

当該年度は、プログラミングとデジタル関連の学習教材の開発を継続して行なった。ネットワーク基盤を利用するツールを利用した電子マネーシミュレーション教材の開発は進展した。この成果は学会で発表した。これを実際に教育活動に利用したいと、東京学芸大学附属小金井小学校 ICT 部会の小池翔太教諭から協力依頼があり、小学 5 年生学級で学級内通貨実践が行なわれた。この実践に関しては、小金井小学校 ICT 部会・小池教諭名義等でいくつかの報告がされている。

### 大学内運営

#### 1. 活動報告

- ①児童学科 2 年生学年担任
- ②入学前教育担当

### 社会貢献

#### 1. 学会等への貢献

- ・文部科学省 ICT 活用教育アドバイザー（2021 年 4 月 - 2022 年 3 月）
- ・経済産業省 先端的教育用ソフトウェア（EdTech）導入実証事業費補助金事業 外部審査委員
- ・学習ソフトウェア情報研究センター「学習デジタル教材コンクール」審査委員
- ・日本教育工学会 2022 年春季全国大会（鳴門教育大学）実行委員
- ・日本家政学会中国・四国支部 第 67 回研究発表会 オンライン開催支援（技術支援）
- ・その他、外部委託業務あり

#### 2. 地域社会への貢献

- ①高知県教育委員会「高知県 ICT 支援員等資質向上事業」スーパーバイザー
- ②徳島新聞社「小学生プログラミングコンテスト」審査委員
- ③徳島新聞社「小学生プログラミング教室」（2022 年 2 月 20 日開催）講師

## 個人情報

1. 氏名：土岡 大介
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：健康・スポーツ，スポーツ科学，幼・児童体育
2. 学部授業担当科目  
前期：体育②（児童 3ABC）健康スポーツ A（建築 1，総合政策 1A，人間生活 1，短大音楽 1，商科 1，口腔保健 1），児童保健学特論Ⅱ，児童保健学演習  
後期：健康スポーツ B（看護 1A，看護 1B，食物栄養 1B，総合政策 1B，心理 1A），児童保健学特論Ⅰ

3. 直接に研究指導した学部学生

4. 自己評価

学生を取り巻く社会情勢を鑑み、例年よりも実技スポーツ実施前のコンディショニングに時間をかけ、感染対策に加えて、運動不足な学生の生活状況を想定し、ケガや体調不良者が出ないように強く配慮すると共に、運動強度や活動時間を調整しつつ、時間をかけて到達目標へと導くように内容を工夫・調整した。また、授業の目的に沿って、運動・スポーツ活動の重要性と、その継続的な実施に関連した健康、体力の維持増進方法について、授業時間外での自室や屋外で安全に実施できるストレッチや簡単なトレーニングの内容を紹介し、継続的にコンディショニングに取り組んでもらうことによって、徐々に運動不足の解消にも繋がったようである。運動・スポーツの実施や、それらの関連活動への関わりについても強調し、また学内施設の利用方法、運動時間の確保等、具体的な実施方法についても習熟度に合わせて説明し、今後の自身の健康増進に向けた継続的な取り組みとなるよう、継続して学科の特性に合わせ授業内容を工夫していきたいと考える。

## 研究領域

1. 専門研究領域

健康・スポーツ科学，運動方法学(バレーボール)，指導者養成

2. 研究課題及び概要：

- ・ 幼児を対象とした体力・運動能力の向上に関する研究（継続）
- ・ バレーボール競技力向上・公的資格を持つ指導者育成に関する研究（継続）
- ・ バレーボール競技人口の拡大・普及発展に関する研究（継続）

3. 令和 3 年度分 研究業績一覧

- ・ 「フォーメーション（基礎）」令和 3 年度公益財団法人日本スポーツ協会，公認バレーボールコーチ 1 養成講習会，徳島市海洋 B&G センター研修室，2021.9
- ・ Kinematic analysis of the instep kick of elementary school students in soccer -Focus on ball velocity and rebound ratio-, Tago T, Kaneko K, Tsuchioka D, T.Wada, The 39th International Conference on Biomechanics in Sports, pp. 324-327, 2021.9
- ・ 「フォーメーション（基礎）」令和 3 年度公益財団法人日本スポーツ協会，全国大学生対象公認バレーボールコーチ 1 養成講習会，受講者数 201 名，Online，2022.2
- ・ 令和 3 年度公益財団法人日本バレーボール協会公認講師認定講習会講師・審査員として 8 名の研究発表審査担当，2022.3

4. 知的財産権の出願・取得状況

5. 自己評価

未だに新型コロナウイルス感染症の影響によって、全国のスポーツ活動や大会，研

修・講習会を含め、実施・開催様式を模索しながら段階的な再開に向けての努力が続いている。これまで毎年開催してきたスポーツ分野に関連した講演・講習会なども、昨年を引き続いて遠隔配信での開催が多く、対面でしか実施出来ない内容についてのみ、集合研修としているのが現状である。遠隔配信形式による講習会などを企画・運営する体制も徐々にまとまった体制となり、例年より少ない人数ではあるが、公的なスポーツ指導者資格を認定することができた。しかし、遠隔での講習会などにおける実技などの取り扱いについては、まだまだ不完全な要素が多く、JSP0 日本スポーツ協会とも連携し、その質的保証について議論を継続している。他の中央競技団体とも連携を深めながら、遠隔・対面の両輪での講習会内容の充実を図っていきたい。また、今後も継続して専門的な知識・指導方法を身につけた指導者の育成と養成者数を停滞させることなく、各競技団体の目指す公認講師資格取得者の増員を進めていきたいと考える。

## 大学内運営

### 1. 活動報告

- ・ 教員採用試験対策講座担当(体育実技)
- ・ 全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- ・ 防火・防災管理委員会委員 7号館責任者, 6号館 AED 管理責任者
- ・ 大学院人間生活学研究科入試問題作成
- ・ スポーツ推薦入試(バレーボール窓口)・高校訪問担当, 入試面接担当
- ・ 附属幼稚園特設保育体育あそび教室講師(平成15年より毎年約35回実施)
- ・ 男女バレーボール部部长, 女子バレーボール部監督, クラブ総会指導
- ・ 女子バレーボール部の公式戦・遠征合宿引率, 女子I部昇格
- ・ 高校生のバレーボール強化練習会・合宿の受入, スポーツOCの実施
- ・ 6号館体育館の使用申請責任者・管理業務
- ・ 8号館トレーニングセンターでのトレーニング指導, トレーニングマシン管理
- ・ 体育科カリキュラム作成に関わる業務・用品申請管理
- ・ 学内体育設備管理 等

## 社会貢献

### 1. 地域社会への貢献

- ・ 徳島県国際スポーツ局スポーツ振興課 競技力向上プロジェクト推進委員
- ・ 公益財団法人 日本バレーボール協会 国内事業本部指導普及委員会副主事
- ・ 公益財団法人 日本バレーボール協会 公認講師認定審査員
- ・ JSP0 日本スポーツ協会 公認コーチ認定審査員(バレーボール専門科目)
- ・ 日本ヤングクラブバレーボール連盟理事, 事務局
- ・ 全日本大学バレーボール連盟女子強化委員
- ・ 西日本大学バレーボール連盟学識理事
- ・ 四国大学バレーボール連盟副会長
- ・ 四国大学総合体育大会実施委員会委員
- ・ 徳島県バレーボール協会参与, 一貫指導体制推進委員
- ・ 徳島県大学バレーボール連盟会長
- ・ 国立大学法人 徳島大学教養教育院(非常勤)

## 個人情報

1. 氏名：金子 紗枝子
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育心理学，認知心理学，学校心理学，保育心理学
2. 授業担当科目  
前期 【短期大学部】 保育内容（言葉）A，保育の心理学 I，教育心理学，教育相談（カウンセリングを含む）  
後期 【学部】 幼児理解，保育の心理学 II，教育心理学  
【短期大学部】 保育の心理学 II，幼児理解
3. 直接に指導した学生：専門ゼミナール 3 名，卒業論文指導 1 名，チューター担当 22 名（専門ゼミナールおよび卒論指導担当学生を含む），子どもの学び支援センターでの指導 27 名。
4. 自己評価  
今年是对面と遠隔配信を切り替えて授業を実施することが多かったが，いずれの方法でも学修しやすいよう，今まで以上に対面授業でも Google Classroom を活用したり，遠隔配信時にも対面とほぼ同様の講義を動画で配信したりするなど，授業方法を工夫した。授業評価アンケートの結果はおおむね好意的であった。今後も遠隔配信授業の機会は少なくないと思われるので，より良い方法・内容を検討していきたい。

## 研究領域

1. 専門研究領域：認知心理学，教育心理学，学校心理学。  
特に認知心理学の知見を踏まえた学習方法について研究している。また学習に困難を抱える子どもへの支援活動の実施や，その活動が支援実施者へ及ぼす影響についても検討している。
2. 研究課題及び概要  
① 「テストに取り組むこと」が学習を促進するという現象について，学習者の能動的な情報処理（検索）の観点から，そのメカニズムの解明と教育活動への利用について研究している。  
② 認知カウンセリング（認知心理学の知見をふまえた学習支援活動）について，より良い支援方法，および支援者として参加する大学生の教職意識や力量の形成に及ぼす影響について検討している。
3. 令和 3 年度分研究業績一覧  
【学会発表】  
金子紗枝子 手がかりから連想される情報量が誤検索効果に及ぼす影響 日本心理学会第 85 回大会 2021 年 9 月 1 日～10 月 15 日 オンライン開催（ポスター発表）  
金子紗枝子・岡直樹 教職を目指す大学生の力量形成のための取り組み -2020

年度の活動への参加児童とその保護者への調査結果からの考察― 日本学校  
心理学会第23回福岡大会 2021年9月 オンライン開催（ポスター発表）

4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和3年度分科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況  
 科研費（若手研究）「主体的な学習はなぜ効果的なのか―誤検索効果を用いた検討」  
 研究代表者  
 科研費（基盤研究（C））「学習におけるエラーの記憶の役割」研究分担者
6. 自己評価

研究課題①について、本年度は昨年度実施した実験の結果を学会で報告することができた。しかし、新たな実験の実施は、本年度も新型コロナウイルスの影響により困難であり、十分実施することができなかった。来年度こそ、実験実施と研究成果の発表を積極的に行っていきたいと考える。

研究課題②については、大学の休校などもあり予定通りとはいかなかったが、年間を通じてきらきらルームの活動を実施することができた。このような状況下で会っても対面での学習支援を希望する保護者・子どもは多く、コロナ禍でのより良い支援方法を検討する必要があると考える。加えて、本年度は研究成果を発表することもできた。オンライン開催であったため活発な意見交換をすることは難しかったが、今後も成果を発信していきたい。

## 大学内運営

- 児童学科2年生担任
- 1-4年生チューター
- 学科内子どもの学び支援センター「きらきらルーム」支援員

## 社会貢献

1. 学会への貢献  
 日本学校心理士会 2021年度大会（10月30日～11月7日実施） 準備委員
2. 地域社会への貢献  
 徳島県社会福祉審議会 委員（児童福祉専門分科会）

## 個人情報

1. 氏名：那住 公子
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：英語科・英語科教育法・小学校英語教育
2. 学部授業担当科目  
前期：英語A①(薬学1年、児童1年)、外国語科教育法  
後期：英語A②(薬学1年、児童1年)、児童英語活動指導法、小学校英語、  
専門ゼミナール、
3. 直接に研究指導した学部学生：5名(専門ゼミナール)
4. 自己評価

昨年度より授業の「振り返り」は、毎時間、遠隔授業、対面授業にかかわらず classroom で行っている。紙媒体よりも classroom で行う方が利便性も高く、学生の質問にも丁寧に答えられるので、これからもこの方法を続けたい。

一般教養科目の英語Aに関しては、児童学科と薬学部では、今後必要となる英語により深くふれるために、児童学科は、小学校や幼稚園など児童を接する時に使用できる英語を多く取り入れているテキストを採用し、薬学部においては理系の英語を扱っているテキストに変更した。

「コミュニケーションのための英語」の重要性を学生にも理解してもらうため、授業では、ペア活動やグループ活動を取り入れている。遠隔授業においても、classroom で学生がやりとりできるように時間をとることをこころがけた。また、また多くの英語科目(英語A、小学校英語、外国語科教育法)において、実技テストを実施する予定であった。英語Aにおいては実施できたが、それ以外はできなかった。来年度はぜひ実施したい。

それぞれの学部や学科に必要な英語は何かを考えて授業を計画するため、教材研究や授業準備に膨大な時間がかかるが、大切なことなので今後も続けていきたい。

## 研究領域

1. 専門研究領域：英語教育、フォニックス、リフレクティブ・プラクティス
2. 研究課題及び概要

- ①「リフレクティブ・プラクティス」

大学の授業で実践してる「振り返り」や全学授業アンケートを活用して、授業がよりよいものとなるように研究をしていきたいと考えている。

- ②「小学校教員のための英語」

小学校教員を養成する児童学科の英語科担当者として、どのようなことが必要か研究していきたい。本年度も研究大会への参加は、COVID-19の関係で、かなわなかった。今後とも書物等を読んで研修・研究していきたい。

3. 令和3年度分 研究業績一覧
  1. 論文・著書：特になし

2. 学会発表：特になし
3. 知的財産権の出願・取得状況：特になし
4. 令和3年度分科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：特になし
5. 自己評価

留学生が今年1年間、来日できなかったため、対面授業をしながら、同時に遠隔授業も行った。海外で授業を受けている学生が不利にならないように授業準備には時間をかけた。また、中学校英語の免許取得をめざす学生対象に、週に2コマ、授業とは別に勉強会を開くなど、例年以上に、研究以外のことにかかる時間数が多くなった。本年度から、中学校で新学習指導要領が実施され、小学校で英語を教科として学んだ児童が中学校に入学している。研究の時間を確保し、小中の接続等についても研修や研究に励み、形あるものを創りあげていきたいと考えている。

## 大学内運営

### 1. 活動報告

- ① 児童学科3年Bクラス担任
- ② 1年チューター生8名 2年チューター生4名 3年ゼミ生5名  
4年ゼミ生2名、
- ③ 児童学科オープンキャンパス主担当
- ④ 児童学科新入生セミナー担当
- ⑤ 全学共通教育センターの学習支援アドバイザー
- ⑥ 児童学科小学校採用試験対策へのサポート
- ⑦ 児童学科中学校免許取得希望者対象、英語検定対策

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

徳島大学英語英文学会会員  
鳴門教育大学英語教育学会会員  
四国英語教育学会会員  
全国英語教育学会会員

### 2. 地域社会への貢献

令和3年9月21日阿南市中学校英語弁論大会審査員



## 個人情報

1. 氏名：定國 雅洋
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：算数科，算数科教育法，生活科，生活科教育法，道德教育
2. 学部授業担当科目  
前期： 算数科教育法（児童3年），生活科教育法（児童2年）  
教育方法・技術論（食物栄養・心理 他），教育方法・技術論（人間生活 他）  
後期： 算数科（児童2年），生活科（児童1年），道德教育（児童3年）  
教育学特講Ⅰ（児童3年），専門ゼミナール（児童3年）  
教育方法・技術論（保育科），卒業研究
3. 直接研究指導した学部学生：7名（専門ゼミナール） 5名（卒業研究）
4. 自己評価
  - ・ 遠隔配信・対面いずれも情報通信技術を用い，教師と学生，学生同士の双方向型の授業を指向した。特に教科教育法では小学校で利用されているリアルタイム授業支援アプリ「MetaMojiclassroom」を用いるなどし，学生自身が GIGA スクール時代の学校教育に対応できる力を育てよう努めた。今後，インターネット活用型学習支援システムを導入するなどし，一層の向上を図りたい。
  - ・ 専門ゼミナールでは，地域の小学校と連携し，継続的に小学校プログラミング教育の実践サポートを行うなかで，学生の一人一台端末環境における情報活用能力向上を図った。
  - ・ 教員養成課程で求められている「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の準備として，タブレット型 PC 導入の道筋をつけることができた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：教科教育（算数科），情報教育
2. 研究課題及び概要  
「一人一台端末環境時代の情報活用能力の育成」  
学習指導要領や中教審答申「令和の日本型学校教育」等の主旨を踏まえつつ，地域の小学校と連携しながら，主にプログラミング教育をはじめとする小学生の情報活用能力の育成について，研究をすすめてきた。今年度は特に，総合的な学習の時間における IoT を用いたプログラミング授業実践について，単元設定や授業デザイン，具体的なプログラミング的思考の育成等についての支援をするなかで，そのあり方や具体的手法等に関する知見を蓄えることができた。
3. 令和3年度分 研究業績一覧：なし
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
6. 自己評価

小学校段階で求められる情報活用能力の育成について、学校現場と連携しながら、よりよい実践につながる研究を心がけている。そのために、現場で必要とされている ICT 環境整備や教員研修等についても、実情を踏まえながら引き続き研究を深めていきたい。

今後、研究課題についての取組を論文にまとめることができるよう努めたい。

## 大学内運営

### 1. 活動報告（委員会委員，担任等）

- ① 広報委員会委員
- ② 児童学科 4 年担任（51 名）
- ③ チューター（24 名）1 年（0）名，2 年（10）名，3 年（7）名，4 年（7）名
- ④ 小学校教員採用審査対策支援

## 社会貢献

### 1. 学会への貢献

コンピュータ利用教育学会（CIEC）会員

### 2. 学校への貢献

小松島市南小松島小学校校内研修講師

小松島市坂野小学校校内研修講師

### 3. 地域への貢献

令和 3 年度徳島県放送教育夏季研究大会講演

第 51 回徳島県小学校放送・情報教育研究大会指導助言

徳島新聞社「小学生プログラミングコンテスト」審査委員

## 第4節 メディアデザイン学科

### 個人情報

1. 氏名：篠原 靖典
2. 職位：教授

### 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 総合領域 情報学 知能情報処理
2. 学部授業担当科目  
前期：メディアデザイン通論、専門ゼミナールⅠ、Webプログラミング入門  
情報システム演習Ⅰ、プログラミング入門、卒業研究  
後期：情報セキュリティ論、専門ゼミナールⅡ、Webプログラミング応用  
情報システム演習Ⅱ、プログラミング応用、応用データベース、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生： 卒業論文 (3) 名
4. 自己評価：
  - ・ Web教材やパワーポイント等の資料や教材を用意し、内容の理解度を伸ばすように工夫した点が評価される。
  - ・ 学外の企業や徳島県内の行政機関行政などと連携し、地域貢献事業に積極的に参加し課題発見型授業を実践することができた。さらに、その実績は高く評価された。

### 研究領域

1. 専門研究領域：  
総合領域 情報学 知能情報処理
2. 研究課題及び概要  
「ニューラルネットワークを用いた画像の領域分割に関する研究」  
「電子書籍開発」 「インターネットを利用したインタラクティブ学習」
3. 令和3年度分 研究業績一覧  
論文・学会発表
4. 令和3年度分科学研究費補助金各種助成金等の申請交付状況
5. 自己評価
  - ・ 専門的知識を用いて学内の共同研究をサポートした。
  - ・ 行政との連携による地域再生・活性化事業において、役割を果たすことができた。

### 大学内運営

1. 活動報告：
  - ・ メディアデザイン学科長
  - ・ 大学院生活環境情報学専攻 専攻主任
  - ・ 自己点検・評価委員会（認証評価委員会）
  - ・ 教務委員会委員
  - ・ 教員養成対策委員会委員

- ・情報センター副所長
- ・防火・防災管理委員
- ・中期目標策定委員
- ・災害時初期対応者
- ・履修ガイド編集委員
- ・保護者会とりまとめ
- ・1年生～4年生チューター
- ・本学入試監督・面接
- ・大学入学共通テスト監督

## 社会貢献

### 1. 地域社会への貢献

- ・e-とくしま推進財団 評議員
- ・徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会 副部会長
- ・徳島県立工業技術センター試験研究評価委員会委員
- ・とくしまOSS普及協議会 幹事
- ・徳島県警察との連携事業「ネットウォッチャー」事業実施
- ・徳島県警察との連携事業「情報発信ウォッチャー」事業実施
- ・徳島県個人情報保護審査会委員
- ・人権啓発映像コンテンツ審査委員

## 個人情報

1. 氏名：古本 奈奈代
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：社会調査・統計解析 プレゼンテーション論
2. 学部授業担当科目：  
前期：メディアデザイン通論，プレゼンテーション技法，社会調査論，社会調査研究Ⅰ，専門ゼミナールⅠ，卒業研究  
後期：生活と情報B，社会調査研究Ⅱ，プレゼンテーション演習，プレゼンテーション論，専門ゼミナールⅡ，卒業研究，看護研究Ⅱ（看護学研究科）
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（2）名
4. 自己評価：
  - ① 講義全般においてスライド教材作成、補助教材プリントの作成により学生の理解を助けるように努め、授業評価アンケートにおいて成果が確認された。
  - ② 社会調査士資格認定校として社会調査関係の認定科目を指導し、特に「社会調査研究Ⅱ」においては少人数グループによるフィールドワークを実施し、報告書をまとめることにより資格取得希望者全員が資格を取得することができた。
  - ③ 学外の企業や徳島県内の行政機関行政などと連携し、地域貢献事業に積極的に参加した。課題発見型授業を実践することができたと同時に、その実績は高い評価を得た。
  - ④ 人間生活各研究科後期課程において研究指導を行い、論文博士（学術）1名を輩出した。
  - ⑤ 遠隔講義において最大限教育の質を担保する工夫を行い、一定の成果を得ることが出来た。

## 研究領域

1. 専門研究領域：数学 数学一般（確率論・統計数学）
2. 研究課題及び概要：
  - ① ランダムデータの統計的処理とその応用に関する研究
  - ② 教育従事者における自己評価とその再教育に関する研究
3. 令和3年度分 研究業績一覧：  
論文  
学会発表
4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
5. 自己評価：
  - ① 調査分析の専門家を認定する社会調査士資格取得者を輩出することができた。
  - ② 調査分析に関する専門的知識を用いて他学部他学科の研究をサポートした。
  - ③ 徳島県が推進する地域再生事業に対する大学の役割を遂行することができた。

## 大学内運営

### 1. 活動報告:

- ① 人間生活学部広報委員会委員
- ② 本学入学試験
- ③ オープンキャンパス
- ④ 担任・チューター

## 社会貢献

### 1. 地域社会への貢献:

- ① e-とくしま推進会議委員
- ② 徳島県総合計画審議会委員
- ③ 徳島県環境審議会委員
- ④ 徳島県科学技術県民会議委員
- ⑤ 徳島県新事業分野開拓者認定審査委員
- ⑥ 徳島県地域情報化表彰審査会委員
- ⑦ とくしま障がい者雇用促進県民会議委員
- ⑧ 徳島県地域情報化表彰審査会委員

## 個人情報

1. 氏名：加治 芳雄
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：情報学基礎、ソフトウェア、情報ネットワーク、データベース、知能情報学
2. 学部授業担当科目  
前期：情報通信ネットワーク論、情報データベース、情報処理Ⅰ、メディアデザイン通論、情報システム論A、オペレーションズリサーチ、プログラミング論B、専門ゼミナールⅠ  
後期：プログラミング論A、情報数学、コンピュータネットワーク論、コンピュータネットワーク演習、情報システム論B、専門ゼミナールⅡ
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 2名
4. 自己評価：  
今年度は赴任2年目で昨年度の反省を活かして取り組んだ。昨年度同様、授業で説明した内容等の振り返りができるよう、遠隔配信授業での説明はGoogle Classroomのストリームに全て記載するとともに、講義資料としてパワーポイントによる資料を作成した。また、プログラミング系の演習科目等も遠隔で演習できるよう工夫した。

## 研究領域

1. 専門研究領域：生体医工学、生体情報工学、認知科学、知能情報学
2. 研究課題及び概要
  - 1) 脳波を利用した脳機能解析
  - 2) 医用福祉分野への応用に関する研究
3. 令和3年度分 研究業績一覧
  1. 論文
    - 1) Junji Kawata, Jiro Morimoto, Yoshio Kaji, Mineo Higuchi, Kajiro Matsumoto, Masayuki Booka, and Shoichiro Fujisawa : Development of a Care Robot Based on Needs Survey, Journal of Robotics and Mechatronics Vol.33 No. 4, pp. 739-746. 2021
    - 2) Shoichiro Fujisawa, Katsuya Sato, Shin-ichi Ito, Jyunji Kawata, Jiro Morimoto, Mineo Higuchi, Yoshio Kaji, and Masayuki Booka : Manual Wheelchair Tire Pressure and Ride Comfort When Pushed by a Caregiver, Advances in Usability, User Experience, Wearable and Assistive Technology, Springer, pp. 1144-1151. 2021
    - 3) Shoichiro Fujisawa, Kenji Sakami, Tomoya Sakaguchi, Takatoshi Aoki, Masaki Okegawa, Jiro Morimoto, Jyunji Kawata, Yoshio Kaji, Mineo Higuchi, and Shin-ichi Ito : Visual Guidance by Blinking Light of LED Block for

Individuals Affected with Low Vision, Advances in Usability, User Experience, Wearable and Assistive Technology, Springer, pp.423-433. 2021

## 2. 学会発表

- 1) 藤田浩基, 村川昂弘, 森本滋郎, 河田淳治, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : マスク着用時の表情の識別とコミュニケーションの支援, 電気学会 制御研究会「人間中心型システムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-22-067, 2022年3月.
- 2) 加治芳雄, 山本由和, 河田淳治, 森本滋郎, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 認知機能計測時の年齢による脳波変化の比較, 電気学会 制御研究会「人間中心型システムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-22-066, 2022年3月.
- 3) 河田淳治, 森本滋郎, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 視線入力電動車いすの開発, 電気学会 制御研究会「人間中心型システムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-22-065, 2022年3月.
- 4) 藤澤正一郎, 十鳥峻輔, 河田淳治, 森本滋郎, 加治芳雄, 樋口峰夫, 坊岡正之 : 手動車いすのタイヤ空気圧の違いによる乗り心地の検証, 電気学会 制御研究会「人間中心型システムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-22-063, 2022年3月.
- 5) 近藤 紀文, 堀尾 誠, 中川 えんじゅ, 森本 滋郎, 加治 芳雄 : 前後音量バランサの開発, 2021 電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会, 2021年9月
- 6) 村川 昂弘, 藤田 浩基, 森本 滋郎, 河田 淳治, 加治 芳雄, 樋口 峰夫, 藤澤正一郎 : 脈拍情報に基づく快状態の判定, 2021 電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会, 2021年9月
- 7) 藤田 浩基, 村川 昂弘, 森本 滋郎, 河田 淳治, 加治 芳雄, 樋口 峰夫, 藤澤正一郎 : 困惑の表出の識別に関する一考察, 2021 電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会, 2021年9月
- 8) 藤澤正一郎, 河田淳治, 森本滋郎, 加治芳雄, 樋口峰夫, 坊岡正之 : 凹凸地面走行時の車いすの乗り心地について, 2021年電気学会 電子・情報・システム部門大会, 2021年9月
- 9) 森本滋郎, 藤田浩基, 村川昂弘, 河田淳治, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 介護ロボットのコミュニケーションシステムの開発事例, 2021年電気学会 電子・情報・システム部門大会, 2021年9月
- 10) 河田淳治, 森本滋郎, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 視線入力による電動車いすの制御, 2021年電気学会 電子・情報・システム部門大会, 2021年9月
- 11) 加治芳雄, 山本由和, 河田淳治, 森本滋郎, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 認知機能計測時における脳波変化の調査, 2021年電気学会 電子・情報・システム部門大会, 2021年9月



- 12) 藤澤正一郎, 桶川誠貴, 坂見健二, 森本滋郎, 河田淳治, 加治芳雄, 樋口峰夫, 伊藤伸一: 弱視者のための発光ブロックの提示に関する検証, 2021年電気学会 電子・情報・システム部門大会, 2021年9月
  - 13) 藤澤 正一郎, 佐々木 晶浩, 桶川 誠貴, 坂見 健二, 森本 滋郎, 河田 淳治, 加治 芳雄, 樋口 峰夫, 伊藤 伸一: 点滅する視覚障害者誘導用発光ブロックの視認性の検証—第2報—, No. 21-2 Proceedings of the 2021 JSME Conference on Robotics and Mechatronics, online, June 6-8, 2021
  - 14) 藤澤 正一郎, 赤堀 晃哉, 森本 滋郎, 河田 淳治, 加治 芳雄, 樋口 峰夫, 坊岡 正之: 凹凸面を走行する車いすの乗り心地について, No. 21-2 Proceedings of the 2021 JSME Conference on Robotics and Mechatronics, online, June 6-8, 2021
3. 知的財産権の出願・取得状況  
記載事項なし
  4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
記載事項なし
  5. 自己評価  
今年度は、学会発表で成果を発表できた。今後も継続して努力したい。

## 大学内運営

1. 活動報告
  - 1) 3年生学年担任、チューター担当(1年5名、2年8名、4年4名)
  - 2) 教育研究委員会副委員長、自己点検・自己評価委員会委員、人権教育推進委員会委員
  - 3) オープンキャンパス：模擬授業担当(1回)

## 社会貢献

1. 学会等への貢献
  - 1) 電子情報通信学会四国支部学生会顧問(2015年4月～)
2. 地域社会への貢献
  - 1) 出前授業 阿南光高等学校(1年生30名)
  - 2) SMART 運営委員 (2007年4月～)



## 個人情報

1. 氏名：山城 新吾
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域  
総合領域 科学教育・教育工学 教育工学  
総合領域 情報学 情報学基礎 メディア情報学
2. 学部授業担当科目  
前期：インストラクショナルデザイン インストラクショナルデザイン演習 コンピュータグラフィックス論Ⅰ コンピュータグラフィックスⅠ メディア基礎論 メディア制作論 専門ゼミナールⅠ メディアデザイン通論 卒業研究 文理学科  
後期：メディア基礎演習 メディア教育演習 メディア教育論 専門ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールB 情報科学 卒業研究 文理学科
3. 直接に研究指導した学部学生  
卒業論文（2）名、大学院修士（0）名
4. 自己評価  
全授業で視聴覚教材の提供や学生による課題遂行・レポート提出・プレゼンテーションを推進した。その他、「メディア基礎演習」でティームティーチング実施、「インストラクショナルデザイン演習」で学生によるeラーニング教材制作と実践を行った。

## 研究領域

1. 専門研究領域  
総合領域 科学教育・教育工学 教育工学  
複合領域・社会・安全システム科学・社会システム工学・安全システム
2. 研究課題及び概要  
「課題」防災教育・啓発プログラム・教材の開発  
学校等における災害対応・教育再開における課題  
「概要」新型コロナウイルスの感染拡大により、予定通りの調査・研究が進まなかった。  
現在、研究全体の方向性を見直している。
3. 令和3年度分 研究業績一覧  
論文・著書  
(なし)  
学会発表  
(なし)
4. 知的財産権の出願・取得状況  
(なし)
5. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：  
(なし)

## 6. 自己評価

防災教育関係について全体を見直し中。また、社会情報関係などの研究を始めるため、現在準備を進めている。

## 大学内運営

### 1. 活動報告

- ・人間生活学部 入試委員会 委員
- ・人間生活学部 広報委員会 委員
- ・人間生活学部メディアデザイン学科 1年生担任・2～4年生チューター

## 社会貢献

### 1. 活動報告

- ・教員免許状更新講習「マルチメディアに関する講習」講習担当 2021年8月4日
- ・エフエムびざん「夏期講習特番」2021年8月25日ライブ出演  
同「B-STEP TALKING」2021年9月16日ライブ出演  
集中講義「情報メディア論」受講学生3名とともに紹介
- ・2021年10月15日徳島新聞朝刊「第74回新聞週間(15～21日)SNS時代、報道の役割は 識者インタビュー 「有益活用の事例も」 徳島文理大・山城新吾講師(教育メディア)」

## 個人情報

1. 氏名：長濱 太造
2. 職位：助教

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：統計科学，マルチメディア
2. 学部授業担当科目  
前期：メディアデザイン通論，コンピュータ概論，情報処理論，生活と情報A，情報処理  
後期：応用統計学，社会調査法，コンピュータ基礎演習，コンピュータグラフィックス演習 I，CGアニメーション，応用情報処理
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（0）名、大学院修士（0）名
4. 自己評価：
  - ・全ての授業において、Google Classroom でPower Point やExcel、テキストファイル等の指導案を配布し、受講者の理解がより深まるように工夫している。
  - ・学習内容が定着するよう、授業のひとまとまり毎にレポート提出や小テストを実施している。
  - ・コンピュータグラフィックス系の授業では、コンテストを開催して受講者のモチベーションが向上するよう工夫している。
  - ・社会調査法で反転授業を導入・改良し、教育効果に手応えを感じている。

## 研究領域

1. 専門研究領域：統計科学，教育工学，マルチメディア
2. 研究課題及び概要：
  1. アクティブラーニングと学生の講義への取り組み方が基礎的・汎用的能力に及ぼす影響
  2. コンテンツ工学を活用した地域コンテンツに関する研究
3. 令和3年度分 研究業績一覧：

### 学術論文

1. 「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方の検討 ―SCAT を用いた質的分析を通じて―」，日本養護教諭教育学会誌 第25巻 第1号，（竹内理恵，貴志知恵子，長濱太造）
2. 「学生と教職員の協同による図書館活用の活性化 ―課題解決型アクティブラーニングの研究―」，徳島文理大研究紀要 第103号，（長濱太造，溝口隆一）

### 学会発表

1. 「学生と教職員の協同による図書館活用の活性化 ―課題解決型アクティブラーニングの研究―」2021.09.16，徳島文理大学 第14回「特色ある教育・研究」全学発表会，（長濱太造，溝口隆一）
2. 「保健室における個別指導充実のために ―心とからだのチェックリストを生かした指導―」2021.11.28，日本養護教諭教育学会 2021年学術集会，オンライン学会，（東條久美子，長濱太造）

3. 「養護教諭が進める集団へのアプローチ ―コグトレの継続的な実践を通して―」  
2021. 11. 28, 日本養護教諭教育学会 2021 年学術集会, オンライン学会, (正木  
敦子, 長濱太造, 貴志知恵子)
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和 3 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
  1. 徳島文理大学令和 3 年度「特色ある教育・研究」事業（採択番号：3 教育 1, 課題  
番号：TBU2021-1-1), 交付, 代表
6. 自己評価
  - ・「アクティブラーニングと学生の講義への取り組み方が基礎的・汎用的能力に及ぼす影響」は、本学図書館で課題解決型アクティブラーニング（AL）を実施し、AL による学習と学生の講義への取り組み方が、学生の「基礎的・汎用的能力」の変化に及ぼす影響を共分散構造分析等で客観的に示すことで、学生が「基礎的・汎用的能力」を獲得するための効果的な AL の活用方法を検討することを目的とする。昨年度の成果を踏まえ、AL のデザインを改良して実施した。副産物的な成果だが、本学図書館を舞台に次のような企画を実行し、成果を上げた。
    - ・図書館 AL 公式 LINE 設立
    - ・ブラインドブックイベント開催
    - ・新しい本との出会いを運ぶイベント開催
    - ・おもしろい動画で、学生があまり知らない図書館の機能を紹介
    - ・昨年度の「アクティブラーニングと学生の講義への取り組み方が基礎的・汎用的能力に及ぼす影響」が評価され、第 10 回（2021 年）Knowledge Navigator 賞（主催：丸善雄松堂株式会社，2021 年 7 月）のクオリティ賞を獲得した。

## 大学内運営

1. アカンサス会本部役員
2. アカンサス会徳島県支部役員
3. アカンサス会高知県支部事務局
4. 学生指導協議会委員
5. 人間生活学部学生指導・支援委員長
6. 人間生活学部教員養成推進委員
7. 新入生セミナー運営委員
8. オープンキャンパス 模擬授業講師 2 回担当
9. 2 年生担任, 1・3・4 年生チューター

## 社会貢献

1. 日本養護教諭教育学会 第 29 回学術集会 運営局長
2. 第 56 回徳島県高校放送コンテスト審査員（徳島県高等学校文化連盟）
3. 徳島県観光サイト「阿波ナビ」情報発信強化事業委託業者選定委員（県庁）
4. 教員免許状更新講習「マルチメディアに関する講習」 講習担当
5. 阿波の狸 奉賛会世話人
6. 出前授業 阿南光高等学校

## 第5節 建築デザイン学科

### 個人情報

1. 氏名：森田 孝夫
2. 職位：教授

### 教育領域

1. 教育の担当専門領域：建築計画学、都市計画学
2. 学部授業担当科目  
前期：建築計画論、都市計画論、住宅政策論、生活施設計画、住宅設計製図Ⅱ、卒業研究  
後期：住居学、景観論、人間工学、インテリアデザイン基礎、専門ゼミナール、卒業研究  
大学院授業担当科目  
博士前期課程：住生活環境学特論Ⅰ・Ⅱ、地域・市場調査演習Ⅱ、住居学特論  
博士後期課程：住生活環境学特別講義、住生活環境学特別研究、生活習慣環境学域
3. 直接に研究指導した学部学生、大学院生：  
卒業設計（2）名 修士論文（0）名
4. 自己評価：

#### <専門科目・基礎分野>

令和元年（2020年）に続き、新型コロナウイルスの影響を受けて、大学内の授業が遠隔配信授業になることが多かった。遠隔授業の方法は、Google クラスルームの利用である。これには多様な機能があり、方法を知っておれば音声や動画を加えることが出来ると思うが使いこなせず、2021年度も単にスライドを表示するだけにおわってしまった。クラスルームの高度な使用法を習得して、文章や図表を解説する音声を流したい。2020、2021年度の教育方法や教育成果を冷静に自己分析し、評価する必要がある。

#### <専門科目・設計分野>

住宅設計製図とインテリアデザイン基礎の製図は、2020年度の遠隔配信授業の失敗を繰り返さないように、感染防止対策をたてて製図室において実習を行った。そして設計力にはどうしても個人差があるので、個人指導ノートをつくり、丁寧に個人指導を行った。後期のインテリアデザイン基礎では、地域公共図書館のインテリア設計を課し、大学図書館を生きた教材として活用した。その次に重要な和室のインテリアの課題がある。和室は日本の室内意匠の基本であるが、自宅に和室がない学生が増え、教え方がひじょうにむずかしい。

### 研究領域

1. 専門研究領域： 建築計画、都市計画
2. 研究課題及び概要  
研究課題：フランスの地方都市の復興とル・コルビュジエの役割  
研究概要：1965年に死去した建築家ル・コルビュジエは、1960年代インド・チャ

ンディガールの計画に没頭していたが、同時期にとりくんだフランス中西部のフィ  
ルミニ市における都市計画と建築設計も忘れてはならない。ル・コルビュジエの建  
物を世界遺産に登録する運動が始まると、ル・コルビュジエの再研究が次々に出版  
され、その中にフィルミニ市に関する出版がある。2021年度も、それらの翻訳作  
業を続けたが、学術論文をまとめるに至らなかった。

3. 令和3年度分 研究業績一覧

なし

4. 知的財産権の出願・取得状況

なし

5. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況

なし

6. 自己評価

大学内運営の業務が増し研究活動や建築学会活動に見るべきものがない。

### 大学内運営

- 1) 副学長
- 2) 人間生活学部長
- 3) 大学院人間生活学研究科長
- 4) 大学院人間生活学研究科人間生活学専攻主任

### 社会貢献

1. 学会等への貢献：

- 1) 日本建築学会会員
- 2) 国画会絵画部会員

2. 社会活動

- 1) 国宝・鳥獣人物戯画狸バージョンコンテスト審査委員長（小松島商工会議所主催、  
令和4年2月）
- 2) 第4回とくしま地域活性化雇用創造プロジェクト推進協議会委員（徳島県、令和  
4年3月～）

3. 文化活動

- 1) 第21回国画13の視点展(ギャラリー向日葵、4月26日-5月2日)
- 2) 第95回国展名古屋展(愛知県美術館ギャラリー、5月25日-5月30日)
- 3) 第56回関西国展(京都市京セラ美術館、8月11日-8月22日)
- 4) 第25回国画会京滋奈作家展(京都府立文化芸術会館、1月18日-1月23日)



## 個人情報

1. 氏名：森岡 英之
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：住宅施工、住宅構造Ⅰ、住宅構造Ⅱ、図学、住宅材料学Ⅰ、住宅材料学Ⅱ、住居安全論、住宅管理、専門ゼミナール
2. 学部教授担当科目  
前期：文理学・・・1年生                      後期：住宅構造学Ⅰ・・・1年生  
          図学    住居安全論・・・3年生  
          住宅構造学Ⅱ・・・2年生                      住宅材料学Ⅰ・・・3年生  
          住宅施工・・・3年生                              専門ゼミナール・・・3年生  
          住宅材料学Ⅱ・・・4年生                              住宅管理・・・4年生
3. 直接に研究指導した学生
  - ・コンペーションに作品制作者1名の指導。
  - ・3年生のうち、建設会社を希望する9人に対し、徳島市内に建設中の分譲マンション新築工事現場へ出向き研修を行った。
4. 自己評価
  - ・「施工」は、特に建築専門用語を理解させることと、工（構）法やモノの組合せ、また仕組みを学ぶために、2回は遠隔授業に伴ったが、座学に於いては、映像や見本（サンプル）による指導などほぼ例年通りの要点に絞った講義内容とミニテストに力を注ぎ、より具体的な学習により理解度を高めた。  
また、3年生全員を対象に「松茂町の住宅展示場」に見学に出向き、まもなく卒業して社会に出ることで、建設産業への魅力や関心をより深める授業の一環として実施した。  
また、2級建築士程度の演習問題を実施した。
  - ・「図学」は、三次元のモノを二次元に表現する作図法に要点をしぼり、実践的な課題を実施することにより理解度を高めた。
  - ・「材料学Ⅰ」は、一部遠隔授業で指導に苦慮したが、例年通り、建物を建てるための仮設、土工、躯体から仕上げに至るまでのすべてに用いる主要な材料の映像や見本（サンプル）など個々の使い方、また重要な点を要点的に指導した。また、実験は、骨材のふるい試験、生コンクリートの混練り圧縮強度試験までを実施した。
  - ・「材料学Ⅱ」は、材料の持つ力学的性質を理解させるための実験は、コロナ禍による密集を避け遠隔配信による資料の提供になった。また、座学（一部は遠隔授業）は、材料力学となる内力（内部に働く応力）と、外力（物体の外に働く力、つまり建築構造物の自重、荷重、土圧、水圧、地震力）などの違いを、図解を用い理解し判断できるように指導した。  
また、2級建築士程度及び建築施工管理技士程度の演習問題も実施した。
  - ・「構造学Ⅰ・Ⅱ」は、2回の遠隔授業になったが、構造部材（骨組）の構成や関連付け（納まり）の理解、各種構造の性能が理解できるような映像、そのほかサンプルな

どを用いて理解度を高めた。また、要点を絞った内容のミニテストや現場作業の動画鑑賞により、より理解度を高めた。

更には、2級建築士程度及び建築施工管理技士程度の演習問題を実施した。

- ・「安全論」は、特に「建物の火災について」を要点に絞って指導をした。
- ・「住宅管理」は、長寿化が進み、且つ高度な文明が発達した現代、住環境も急激に変化して、それに伴う住宅管理も専門的になってきて、一個人では解決できない状況になってきた昨今である。従って授業は一個人で処理・調整などに手が届くメンテナンスや、集合住宅の管理、居住地の管理に重点をおいた内容として理解を求めるようにした。

## 研究領域

- 1 専門研究領域：特になし
- 2 研究課題及び概要：特になし

## 大学内運営

- 1 活動報告
  - ・学科長
  - ・チューター

## 社会貢献

- 1 地域社会への貢献
  - ・コロナ禍により活動が出来なかった。
2. 徳島県建築士会主催の「建築おもしろ」発表会
  - ・コロナ禍により活動が出来なかった。
3. 3年生全員を対象とした、学科独自の「就職セミナー」の開催を3回実施した。なお、計画した4回のうち1回はコロナ禍により中止した。

## 個人情報

1. 氏名：山田 實
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 建築環境学、建築設備
2. 学部授業担当科目  
前期：家庭電気・機械 1年生、食物栄養 1年生、人間生活 2年生  
福祉住環境論 2年生  
住生活環境学Ⅱ 3年生  
住宅設備Ⅰ 1年生  
環境保全論 4年生  
文理学 1年生  
後期：住居環境学 3年生  
住生活環境学Ⅰ 2年生  
住宅設備Ⅱ 3年生  
専門ゼミナール 3年生  
住居衛生学 食物栄養 2年生、
3. 直接に研究指導した学部学生：  
卒業論文 (0) 名
4. 自己評価：
  - ・前期及び後期の一部で遠隔授業となったので、質問を挟んで全員が興味を持てるよう授業を進めたが、家庭電気・機械など受講生の多い科目では全員の質問回答に対応しなくてはならないので苦労した。
  - ・「福祉住環境論」では、今後増加すると考えられる老健施設等の計画を行う時の基本的な事項について、現時点での法規制・実施例を教育した。
  - ・「住生活環境学Ⅰ」と「住生活環境学Ⅱ」では、住居環境の基本的な項目である温熱・空気・光・音・水等について2年生の「住生活環境学Ⅰ」では全般概論を講義し、3年生の「住生活環境学Ⅱ」演習問題を主体に学生が自から考えて学べるような授業とした。
  - ・「住居環境学」では実施例等を紹介し、人間の生理と関連付けた講義を行うことにより学生の理解度をより深めるようにした。
  - ・「住居衛生学」では受講生が少人数であったので対話形式で学生が建築環境の基本的な事項を理解するように講義した。また、建物冷暖房負荷計算、騒音計算等を随時演習として組み入れて学生の理解度を高めるようにした。
  - ・「住宅設備Ⅰ、Ⅱ」では、実務経験での不具合事例を交えて講義することにより、より興味を深めるようにした。特に建築計画をするうえで建築と設備とのかかわりを重点的に講義した。「住宅設備Ⅱ」では冒頭に学生に空調に関する不満を發表させ後の授業で具体的な解決策を考えさせ講義した。
  - ・「環境保全論」ではアクティブ・ラーニングを導入し、学生が環境に関して問題と考

えていることを発表させ、各々の課題の具体的な解決策を考えさせた。環境問題は、今後最も重要な問題の一つになると考えるので学生が自分の問題として考えるよう教育した。

## 研究領域

1. 専門研究領域： 建築環境学、建築設備
2. 研究課題及び概要  
研究課題： 建物における最適エネルギーシステムの研究  
研究概要：  
地球温暖化、省エネルギー、環境問題等、建物のエネルギーシステムをどう組み立てるかは大きな課題である。そこに原子力発電所の問題が起こり、再生可能エネルギーの活用をはじめ、日本のエネルギーを如何にするかは国家的な課題である。実務で経験した、蓄熱システム、コージェネレーションシステム等を有効に組み合わせて最適エネルギーシステムを構築する。
3. 令和3年度分研究業績としての論文等は無。
4. 知的財産権の出願は無。
5. 令和3年度分科学研究費補助金等は無。
6. 自己評価：研究についてはあまり成果を上げられなかった。

## 大学内運営

1. 活動報告
  - ①オープンキャンパスでの学科説明、模擬授業
  - ②人間生活学部入学試験委員会委員
  - ③人間生活学部教育研究委員会委員
  - ④保護者会保護者面談（リモート徳島）
  - ⑤建築デザイン学科4年生担任（45名）

## 社会貢献

1. 学会等への貢献：
  - ①空気調和衛生工学会会員
  - ②建築設備技術者協会会員

## 個人情報

1. 氏名：川村 恭平
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：  
工学： 建築学 建築環境・設備 情報工学  
家政学： 住居学
2. 学部授業担当科目  
前期：CAD演習Ⅰ、住生活論（製図を含む）、住居意匠学  
後期：住生活論（製図を含む）、日本建築史、コンピュータ演習Ⅰ、CAD演習Ⅲ、  
専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学部学生 12 名
4. 自己評価  
授業については紙媒体も含め IT 機器の活用などに努めた、しかしながら授業者として IT の活用（特に PowerPoint）の使用した授業の工夫・改善の必要があると痛感した。  
授業者は多くのデータ（通常の授業の 3 倍程度の情報量）に対して授業を受ける学生側の準備ができていないことがある、結果として流れた授業になった。

## 研究領域

1. 専門研究領域：  
工学 建築学 建築環境・設備  
家政学 住居学
2. 研究課題及び概要：  
日本の住居形式と熱環境（伝統的な住まい方）についての研究  
3Dプリンタの活用による建築模型の製作方法の研究  
ドローン（無人航空機）による建築分野での活用方法の研究
3. 令和3年度分 研究業績一覧
4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
5. 自己評価
  - ・ 研究については、本学 25 号館の東側全面ガラス窓の熱環境、特に日射について実測調査を行い熱環境の分析と対応策の検討をおこなった。また、実施している避難訓練を学生の側からみた自主避難マニュアルを作成し、卒業論文の資料とした。
  - ・ 25 年度徳島県立光慶図書館の 3D 復元（徳島県立文書館）および村崎女子職業校の 3D 復元と卒業論文の指導
  - ・ 26 年度は千秋閣 3D 復元と卒業論文の指導
  - ・ 27 年度はフランクロイドライトの落水荘の再現に関する卒業論文の指導
  - ・ 28 年度は 3D プリンタの建築プレゼンテーションの活用及戦前の徳島市の著名

な建築物の再現に関する卒業論文の指導

- 29年度徳島県ビジネスチャレンジメッセに3Dプリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において旧診療所や小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
- 30年度は3Dプリンタによる建築模型の製作及び間取り作成用のパーツを試作し、住宅会社における試用を開始している。また、高等学校家庭科の住居分野における間取り作成ツールを製作し、実際の高等学校の授業で使用している。また、卒業研究で展示用の大学全景模型（1/300）の2号館を作成した。
- 31年度は特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで、建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作を行った。
- 令和2年度、3Dプリンタの活用において、県内設計事務所、住宅産業等とのコラボによる住宅模型の製作のノウハウが確立できた。また、令和2年トクシマビジネスチャレンジメッセに文理大学としてオンラインによる展示・出品を行った。
- 令和3年度 徳島県建築士事務所協会「建築はおもしろい」において研究発表を指導した

## 大学内運営

### 1. 活動報告

人間生活学部教員養成推進委員

人間生活学部学生指導委員

保護者会保護者面談（徳島&遠隔）

建築デザイン学科1年生担任（45名）

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献:

日本環境学会（大阪市立大学）

### 2. 地域社会への貢献:

19年度徳島県のLOHASな徳島入門講座でe c oな生活、e c oな住まいのテーマで講演

20年度徳島県緑化マイスター講習会で講演

21年度徳島県エコオフィス事業との連携による壁面緑化の効果に関する研究

22年度徳島県エコオフィス事業との連携による壁面緑化の効果に関する研究

23年度Yes21においてボランティアによる住宅間取り相談

24年度とくしまエコみらいハウスの評価助言指導

24年度徳島県立光慶図書館の3D復元作業（徳島県立文書館）

25年度徳島県立光慶図書館の3D復元 徳島県立文書館および村崎女子職業校の3D復元の完了

26年度 千秋閣の3D復元の完了および徳島県との地域連携として高開の石積みの擁

壁の測量を行った。

27年度 徳島県との地域連携の2年目として高開の石積みの擁壁の測量を行った。この際ドローンの積極的な活用を行った。

28年度 3Dプリンタの建築プレゼンテーションの活用及戦前の徳島市の著名な建築物の再現に関する指導、さらにドローンの建築現場における活用を行った。

29年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに3Dプリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において旧診療所や小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施

30年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに3Dプリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において廃校となった種野小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施

31年度 特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作を行った。

令和2年度 特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作し、ノウハウを確立した。

令和2年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに文理大学としてオンラインによる展示・出品を行った。

令和3年度 徳島県建築士事務所協会「建築はおもしろい」において研究発表を指導した。





## 個人情報

1. 氏名：池田 文夫
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：建築関連法律、設計（意匠、構造）全般、コンピュータ（CAD）
2. 学部授業担当科目：  
前期：住宅設計製図Ⅲ、建築法規、西洋建築史、CADⅡ  
後期：住宅設計製図Ⅰ、コンピュータ演習Ⅱ、専門ゼミ
3. 直接に研究指導した学部学生：  
卒業論文（1）名、その他（ ）名  
専攻科（ ）名、大学院修士（ ）名
4. 自己評価

7年目を迎えて授業で使用する資料は、かなり学生のレベルを考えながら自分なりに、充実できたと考える。学生によってかなり学習能力にバラつきがあり、全体的な学習バランスをとるのが難しいと感じている。実務的な、法的、設計的な知識を身に付けさせる授業を行うのが理想であると考えながら、全体的バランスの中で授業方法のあり方を模索している。授業で使用する資料については、電子ファイルとして利用できるように、すべての授業資料をデータ化して、クラウドを経由していつでもパソコン、スマートフォンなどのデジタルデバイスでアクセスできるように環境を整えることができた。コンピュータ演習Ⅱの授業で使用しているソフト等がかなり古くなっており、今後学生が就職後の有益となるようなソフトに切り替えることが必要であると考えている。

コロナの感染ともあり、対面授業、リモート授業と目まぐるしく対応を必要とすることがあったが学生も私自身も2年目ということで慣れてきたと感じる。

## 研究領域

1. 専門研究領域：建築関連法律全般
2. 研究課題及び概要  
保有耐力法等による最新耐震設計技術の動向の研究
3. 令和3年度分 研究業績一覧  
論文  
特に無し  
学会発表  
特に無し
4. 知的財産権の出願・取得状況  
特に無し
5. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：  
特に無し

## 6. 自己評価

建築学会などの関連する講習会に2回出席した。最新の情報を身につけるためにも今後はもって積極的に参加してあたらしい知識、技術を身につけるよう努力したい。

## 大学内運営

### 1. 活動報告

#### ① 国家試験取得に向けての取り組み

1 学年希望者を対象として、宅地建物取引士セミナーを昨年11月から週2回のペースで行い、在学中に試験合格を目指す取り組みを行っていたが、コロナのため後期より中断した。

令和3年1月末現在 参加者数約8名

試験日 平成2021年10月中旬

#### ② 広報担当として、広報活動、学科ホームページの更新等の広報活動を行った。

## 社会貢献

特に無し

## 個人情報

1. 氏名：笠井 敬正
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育担当専門領域：構造力学、建築計画、測量、インテリアデザイン
2. 学部授業担当科目

前期：構造力学Ⅱ、測量学、インテリア計画、

後期：構造力学Ⅰ、住宅設計論、インテリアデザイン論、インテリアデザイン応用、住宅設計製図Ⅳ、専門ゼミナール

3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（2）名、その他（2）名
4. 自己評価

### (1) 授業について

「構造力学」については毎時間前回の復習をしながら進めていった。基本に重点を置き、課題を増やしフィードバックすることによって少しでも学生の理解度が高まるよう心掛けた。頻繁に図や計算式を書く授業なのでコロナ禍によるオンライン授業ではやりにくい面もあった。学生から見ても理解しにくい点があっただろうと思う。

「測量学」は、座学・外業・内業という一連の流れを通して知識としてだけでなく経験として身につく授業である。対面での授業、特に測量実習では学生たちは興味を持って取り組んでいた。しかし、コロナ禍のため、いつものような十分な実習が一部行えなかったのが残念である。

「インテリアデザイン応用」では、本年度前期に自分が設計した木造住宅のパース作成およびインテリアを含めた模型製作、そして自分が興味を持った有名なデザイナーの椅子と自分が考案した新作椅子 2 脚の模型製作、以上 4 テーマを課題とした。特に木造住宅や椅子の模型製作では、学生たちは興味を持っていろいろ考えながら楽しく取り組んでくれた。

「住宅設計製図Ⅳ」では最後の設計製図として将来受験する建築士試験を見越しての課題を設定し、図面そしてパースの提出を課した。学生たちにはその建築物についてしっかり調べさせることから始めた。例年と同じく、構造、法規、設備上の問題等わからないところもたくさんあり当初なかなか考えがまとまらなかったようだが最後にはきちんと完成させることができた。

その他の科目に関しては、映像で理解度を深め、透視図等の描画実践を含めた課題のレポート提出で復習の機会を設けた。

学生にとって授業第一と考え、いろいろな方法を模索しながら進めている。しかし本年度もコロナ禍で遠隔配信授業が増え、対面授業と同じようにはいかなかった。しかし昨年度よりはわかりやすい授業ができたのではないかと思っている。今後の状況はわからないが、遠隔配信授業での学生の理解度をいかに対面授業の理解度に近づけていくか、今年度の反省の上に立ち、次年度もその方法等をしっかり考えていきたい。

(2) 授業外について

3年生2人が「リノベーション」の勉強がしたいということで指導を行った。リノベーションについて勉強したのち「住宅のリノベーション」を皮切りに「廃校になった小学校のリノベーション」について研究しまとめさせた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：建築計画

2. 研究課題及び概要

研究課題：地域の状況から見える古民家の特徴についての調査に関する研究

研究概要：家の様相は過去から現在そして未来へと大きく変化していく。その変化の様子はかつてその地域に根ざした人々の生活の上にとって起こりうるものと考えられる。私達のまわりの地域の歴史や特徴、そしてそこに住む人々の生活の状況並びにそこに現存するまたは過去に存在した古民家の特徴を調査・研究していく。

3. 令和3年度分 研究業績一覧（なし）

4. 知的財産権の出願・取得状況：（なし）

5. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：（なし）

6. 自己評価：研究についてはあまり成果を上げられなかった。

## 大学内運営

1. 活動報告

- ・ 建築デザイン学科3年担任
- ・ 学部選挙管理委員会委員

## 社会貢献

1. 学会等への貢献（なし）

2. 地域社会への貢献（なし）

## 第6節 心理学科

### 個人情報

1. 氏名：青木 宏
2. 職位：教授

### 教育領域

1. 教育の担当専門領域：心理学（臨床心理学、犯罪心理学等）
2. 学部授業担当科目  
前期：心理学概論、臨床心理学概論、学習・言語心理学、異常心理学  
後期：神経・生理心理学、教育相談、ジェンダー論、ライフサイクル論、専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文1名、修士論文1名
4. 自己評価

学生の興味を引き、知的好奇心を刺激するために、映像や動画をふんだんに盛り込んだ自作のプレゼンテーションを使用した。また、テーマによっては、グループディスカッションや模擬面接、PGR 測定器を用いた実習なども実施し、主体的な取り組みを促した。ゲストスピーカーを招いての講義も実施した。

新たな取組としては、対面授業のほとんどを同時配信し、体調不良等の理由で受講できない学生のニーズに対応した。

### 研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学
2. 研究課題及び概要  
「若者のストーカー被害実態調査」  
徳島県警察本部との共同研究が終了し、授業において県警本部のゲストスピーカーを招き、概要を伝えた。
3. 令和3年度分 研究業績一覧
  1. 論文  
該当なし。
  2. 学会発表  
該当なし
3. 知的財産権の出願・取得状況  
該当なし
4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
該当なし
5. 自己評価  
「若者のストーカー被害実態調査」が終了し、結果の整理と伝達を行った。

## 大学内運営

- 1) 心理学科長
- 2) チューターとして学生の個別指導に当たった他、チューターでない学生からの相談事にも応じた。
- 3) オープンキャンパスにおいて学科説明、模擬授業を実施した。
- 4) 高校生のための公開セミナーでロールプレイングの授業を実施した。

## 社会貢献

- 1) 教員免許状更新講習 (2021. 8)
- 2) 県・大学等連携による教職員研修 (2021. 8)
- 3) 伊島への出張講義
- 4) 日本犯罪心理学会地方区理事(2021. 12～)

## 個人情報

1. 氏名：伊藤 泰彦
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床心理学、障害者心理学、健康心理学
2. 授業担当科目

学部

前期：発達障害論、心理実習Ⅰ

後期：コミュニティ心理学、健康・医療心理学、障害者・障害児心理学、  
心理実習Ⅱ、専門ゼミナール

大学院(研究科 心理)

前期：心理療法特論Ⅰ、心理実践実習Ⅱ

後期：心理実践実習Ⅱ

3. 直接に研究指導した学部学生等：該当なし
4. 自己評価

①講義全般においてスライド教材を作成するとともに、補助的に映像教材を活用し、学生の理解を助け、飽きさせない、分かりやすい授業の説明に心掛けた。

②授業内容の定着をより図るため、毎回、授業終了時に感想・質問等を記入させ、次回講義時にその内容について集約もしくは抜粋して共有し、大事なポイントを復習した。

③心理実習の事務手続き全般（施設との事前打合せ・依頼状等の作成発送）を担当した。実習先との調整が必要なため、コロナウィルスの感染状況の影響を受けて、受け入れ先を変更し、代替施設を検討したり、実習要領を変更したりするなど時間と労力を要したが、心理学科教員の指導・協力もあって年間を通して、学生にとって有意義な実習を実施することができた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学

2. 研究課題及び概要

- ・描画法、特に樹木画テストのアセスメントとしての解釈枠組や妥当性、教授方法についての研究
- ・心理療法における短期療法に位置付けられる解決指向アプローチを取り入れることによる相談活動の充実

3. 令和3年度分 研究業績一覧

1. 論文

該当なし

2. 学会発表

該当なし

4. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

5. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

6. 自己評価

大学教員初年度であり、また初めてのオンライン授業も時折挟まったため、授業の準備に追われた状況であったため、研究については思うように進められていない。その中で、心理臨床学会の大会や解決志向アプローチ研修の参加等により、自己の専門性の向上を図ることができた。

## 大学内運営

大学入学共通テストにかかる業務

総合選抜型入試、推薦入試にかかわる業務

オープンキャンパスにおける模擬授業

ライブ配信によるオープンキャンパスにおける学科説明・模擬授業

保護者会における保護者との面談

公務員試験の個別指導

心理学科1～4年生チューター（38名）

1年チューター(17名)、2年チューター(4名)、3年チューター（8名）、4年チューター(9名)

## 社会貢献

1. 学会等への貢献

日本心理臨床学会会員

日本描画テスト・描画療法学会会員

日本犯罪心理学会会員

2. 地域社会への貢献

徳島少年鑑別所の地域援助業務における事例検討会のコメンテーター

神戸少年鑑別所の地域援助業務に関するアドバイザー



## 個人情報

1. 氏名： 岡林 春雄
2. 職位： 教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 認知心理学 学校心理学 認知—感情インタラクション
2. 学部授業担当科目

### 学部

前期： 児童心理学、福祉心理学、心理統計学演習

後期： 専門ゼミナール、知覚・認知心理学、学校心理学、卒業研究

### 大学院

前期： 特別研究（院1）、特別研究（院2）、臨床心理実習Ⅰ、学校臨床心理学、心理統計法特論、研究法特論、臨床心理学研究法特論、臨床心理実習Ⅱ

後期： 臨床心理実習Ⅱ、特別研究（院1）、心の健康教育に関する理論と実践、心理学特別演習、特別研究（院2）

3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（4）名、大学院生：修士（2）名
4. 自己評価：

大学院の授業では、プレゼンテーションからディスカッションという院生主体の考える授業を目指しており、その成果は見えだしている。学部の授業でも、心理学実験ではディスカッションを取り入れ、学校心理学の授業ではアクティブ・ラーニングを導入した。これまで、受け身的で、座っているだけという授業に慣れていた学生にとっては脅威であったようである。しかし、やる気のある学生にとっては、アクティブな関りをもとめる授業は好評であった。大学に入ったばかりの1年生に対する知覚・認知心理学の授業では、プレゼンテーションを導入し、“アサイメント—プレゼンテーション—ディスカッション”のシークエンスから徹底して、論理展開に気を配った文章作成、ならびに、ポイントを他者に伝えることができるアサーションスキルを身につけることができたと思われる。今後とも、学生自ら思考する学生主体（Student Centered）の教育への意識改革を行っていきたい。

## 研究領域

1. 専門研究領域： 認知心理学 認知科学 ダイナミカルシステム 生体信号リズム

2. 研究課題及び概要

- ・ 会話における意思疎通性を生体信号のリズムから解析
- ・ リアルタイムでの認知—感情インタラクションからマクロタイムのパーソナリティ形成への自己組織化作用
- ・ 「わかる」という心理作用は、般化によるものなのかカオス現象なのか

3. 令和3年度分 研究業績一覧

1. 論文

岡林春雄（単著）コミュニケーション能力向上を目指した心理教育の実践 徳島文理大学研究紀要第102号, 93-100.

岡林春雄（単著）関わりを回避する若者たち：1997年調査と2019年調査を比較しながら 徳島文理大学研究紀要第103号，27-36.

岡林春雄（単著）COVID-19から学ぶ人の心の動き：非線形非平衡システムの視点から 徳島文理大学心理相談室紀要 21号，1-14.

2. 学会発表

なし

4. 知的財産権の出願・取得状況

なし

5. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

なし

6. 自己評価：

大学ならびに学会を通して、若手の研究者を育成している。

## 大学内運営

1. 活動報告

①大学院心理学専攻主任

②大学院修士論文主査3件，副査2件

③教育研究委員会委員

④全学研究者倫理教育委員会委員

## 社会貢献

①帝京福祉専門学校 こころのしくみ 非常勤講師

②桜美林大学博士後期課程博士論文審査委員

③香川三本松高等学校 出前講義（8月3日）

## 個人情報

1. 氏名： 貴志 知恵子
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：教科教育学・保健
2. 学部授業担当科目  
前期：事前・事後指導、養護概説、救急処置及び看護法Ⅰ、養護学特講、卒業研究、  
学校ボランティア  
後期：救急処置及び看護法Ⅱ、養護実践演習、教職実践演習、専門ゼミナール、健  
康相談活動、学校保健、卒業研究、学校ボランティア
3. 直接に研究指導した学部学生： 8名、その他5名
4. 自己評価

卒業論文については将来、教職志望学生であり教育現場での研究活動に繋がる課題、または心理学関連の知見を教育に生かした題目などを選んだ学生が多かった。また、養護実習やボランティア活動等での子ども達との関わりや社会体験から幅広い学修を含めた内容となったが、全員が書き上げたことで、今後の教職生活に生かすことができるのではないかと考える。

## 研究領域

1. 専門研究領域：性教育、健康相談、アクティブ・ラーニング
2. 研究課題及び概要
  - 1) 性教育と人権の問題について、将来、養護教諭を目指す学生への指導において、学校教育の中で、性の多様性を学ぶことで自己を見つめることや他者理解を進め、心情に配慮したきめ細かい教育がおこなえるような方策について検討している。
  - 2) 養護教諭のおこなう健康相談活動において、これまでのカウンセリング的対応に加えて、思考パターン、言語パターン、反応パターン等に気づきやり方や行動を変えるコーチングのアプローチを取り入れることで生きる力の具現化をはかる方策を志向する。
  - 3) 授業ではアクティブ・ラーニングを重視した展開にし、学修の一部を予習として行い本時では、think-pair-share を参考に個人活動—グループ活動—全体活動の展開とし、学生の主体性を大事にしている。
3. 令和3年度分 研究業績一覧

### 1. 論文

- ・子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方の検討—SCAT を用いた質的分析を通して、日本養護教諭教育学会誌（査読有）竹内 理恵，貴志知恵子，長濱太蔵，Vol. 125, No. 1, 67-74, 2021
- ・保健室ボランティア活動における養護雇用由志望学生の意識の経年変化，日本養護教諭教育学会誌（査読有）竹内理恵，貴志知恵子，長濱太蔵，Vol. 125, No. 2, 2021（投稿中）

## 2. 学会発表

- ・「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のこれまでとこれから考える事」, 日本養護教諭教育学会第 29 回学術集会抄録集 18-20 2021. 11
- ・中学生の健康診断に対する意識の向上—健康診断時の指導を通して—, 児玉睦, 竹内理恵, 貴志知恵子, 日本養護教諭教育学会第 29 回学術集会抄録集 70-71 2021. 11
- ・養護教諭が進める集団へのアプローチ—コグトレの継続的な実施を通して—, 正木敦子, 長濱太蔵, 貴志知恵子, 日本養護教諭教育学会第 29 回学術集会抄録集 76-77 2021. 11

## 3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

## 4. 令和 3 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

## 5. 自己評価

研究では、性教育関連や健康相談、さらにアクティブ・ラーニングについて検討した。今後は、科学研究費補助獲得に向けて、研究をすすめたい。

## 大学内運営

- 1) 教職課程委員会委員
- 2) 教員養成推進委員会委員
- 3) 教員養成対策委員会委員
- 4) 人権教育推進委員会委員
- 5) 全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- 6) 教員免許更新講習 講師
- 7) 学部：1・2・3・4 年生チューター (36 名)

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

- 1) 日本養護教諭養成大学協議会代表評議員
- 2) 日本養護実践学会理事
- 3) 日本学校保健学会代議員

### 2. 地域社会への貢献

- 1) 救急救命指導員として救急救命講習活動に参加
- 2) 徳島県養護教諭初任者研修として学校での救急救命講習を実施
- 3) 徳島県養護教諭 5 年次研修として学校での授業力向上研修を実施
- 4) 徳島大学医学部栄養学科 3 年次に対して「健康教育の進め方」授業を実施

## 個人情報

1. 氏名：中嶋 英治
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：心理学（発達，臨床，犯罪），関係行政論（心理職）
2. 学部授業担当科目  
(学部)  
前期：心理アセスメントⅡ（心理検査法Ⅱ），心理学実験，公認心理師の職責  
後期：心理学特論，専門ゼミナール，発達心理学，関係行政論，心理学統計法（心理統計学），心理学（A）  
(大学院)  
前期：心理療法特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践Ⅰ），心理実践実習Ⅱ，特別研究  
後期：発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開），心理実践実習Ⅱ，臨床心理実習Ⅱ，特別研究
3. 直接に研究指導した学生  
該当者なし
4. 自己評価

オンライン，対面と授業形態が度々変化する中，より分かりやすいプレゼンテーション資料の作成と丁寧な説明に尽力しつつ講義を進めた。詳細は以下のとおり。

- ・心理学特講では，公務員試験，教員採用試験，企業の一般常識試験に向けて実践的な授業となるように工夫した。
- ・心理学統計法では，（不得意とする者が多い）統計法への関心を高めるため，より身近な事例を取り上げて説明するなど，講義内容を工夫した。
- ・心理学（A）では，心理学を専攻科目としない学生が心理学の基本的な知識を習得できるよう，映像資料を活用するなど，印象に残る授業になるように工夫した。
- ・関係行政論では，既存の参考図書を活用しつつ，政府のHPにおいて最新の施策の運用状況を確認した上で講義を行った。

## 研究領域

1. 専門研究領域  
心理学（発達，臨床，犯罪）
2. 研究課題及び概要  
発達過程を踏まえた非行少年の心理アセスメントについて
3. 令和3年度分 研究業績一覧
  1. 論文  
該当なし
  2. 学会発表  
該当なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

5. 自己評価

本年度採用であり，講義の準備等に時間を取られ研究活動には着手できていないが，関連資料の収集等は継続した。

### 大学内運営

- 1) 退学者防止対策委員会委員
- 2) 学生指導委員会委員
- 3) 心理学科3年担任
- 4) 心理学科1～4年計39名のチューター
- 5) 心理学科入学試験にかかる業務
- 6) 専攻科入学試験にかかる業務
- 7) オープンキャンパスにおける模擬授業
- 8) 保護者会での保護者との面談

### 社会貢献

- 1) 徳島県再犯防止推進協議会委員長
- 2) 教員免許更新講習選択必修科目「非行の理解と指導」担当

## 個人情報

1. 氏名：中津 達雄
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床心理学 人格心理学
2. 授業担当科目  
前期：社会・集団・家族心理学（家族心理学）（学部3）、感情・人格心理学（学部1）、  
人格心理学特論（院1）、臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）（院2）  
後期：人格・感情心理学（学部1）、専門ゼミナール（学部）、投映法特論（院1）、心理  
実践実習Ⅱ（院2）、臨床心理基礎実習Ⅱ（院2）、特別研究（院1、院2）
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（4）名、その他（ ）名、  
専攻科（ ）名、大学院修士（1）名
4. 自己評価

各教科の準備時間には1コマにつき平均3時間程度をかけ、すべての科目においてレジメを作成し、理解度を高めることに配慮した。また授業については終了時に小レポートを実施し、学生の理解度を確認した。しかし、本年度も臨床心理士、公認心理師養成のための実習調整に追われ、学生指導に十分な時間がとれなかった。そのため、学生からの評価はやや低く、反省するところである。

ただ、本年度は学部において平成30年度入学生が3年生となり、公認心理師受験資格取得カリキュラムが本格的実施となり、また大学院生も同カリキュラム2年目入って、受験資格取得のための実習も本格化し、翌年は最初の修了生が同資格受験をする予定である。今後も教科、実習演習科目指導の一層の充実に努めたい。

## 研究領域

1. 専門研究領域：社会科学・心理学・臨床心理学
2. 研究課題及び概要
  - ・心の問題理解、特に社会構成主義的な立場に立つてのナラティブ・アプローチ及びセラピー
  - ・描画法、特に樹木画テストのアセスメントとしての量的研究と、描画の持つ治療的側面検討のための質的研究
3. 令和3年度分 研究業績一覧
  1. 論文  
該当なし
  2. 学会発表  
該当なし
  3. 知的財産権の出願・取得状況  
該当なし
4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
該当なし

## 5. 自己評価

学科、研究科の実習を中心とした運営業務に追われ、殆ど研究活動は行っていない。

### 大学内運営

活動報告（委員会委員，担任等）

- 1) 自己点検・評価委員会（全学）
- 2) チーム医療促進委員会（学部）
- 3) 教員養成対策委員（全学）
- 4) 臨床心理相談室相談員（委嘱）
- 5) 全学共通教育センター支援アドバイザー（委嘱）

### 社会貢献

#### 1. 学会等への貢献

- 1) 県臨床心理士会選挙管理委員（2014. 4. 1～）

#### 2. 地域社会への貢献

- 1) 徳島県保健福祉部 社会福祉審議会委員（2011. 4. 1～）
- 2) 徳島県警察本部 少年サポート・アドバイザー（2011. 4. 1～）
- 3) 徳島県青少年こころの電話相談業務スーパーバイザー（2021. 1. 22～）
- 4) 徳島県発達障がい者総合支援センター家族サポート教室講師（2021. 1. 27）



## 個人情報

1. 氏名：土中 幸宏
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床心理学、犯罪心理学
2. 学部授業担当科目  
前期：司法・犯罪心理学、心理学的支援法、心理演習Ⅱ  
後期：人間発達学、心理演習Ⅰ、心理検査法実習Ⅰ、心理検査法実習Ⅱ、専門ゼミナール、臨床心理学（理学療法学科）、人間発達学（理学療法学科）

### 大学院

- 前期：心理統計法特論、心理実践実習Ⅱ
  - 後期：心理実践実習Ⅱ
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文：4名
  4. 自己評価

オンライン・対面と授業形態が大きく転換する中、工夫を凝らしたプレゼンテーションを使用した講義を实践したほか、対面式・オンライン形式のハイブリッド方式の講義を試み、授業への出席率の向上を図った。また、絵本や絵画、映画を題材に用いることにより、学習への意欲を喚起するように試みた。そのほか、オリジナルフリップボードを用いて学生の授業への参加意欲を引き出し、積極的な意見提出を促すよう工夫した。

## 研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学
2. 研究課題及び概要  
芸術療法・認知行動療法の実践・研究，実務と連動した心理査定のある方、進化心理学の進展を踏まえた人間発達学の展望等について
3. 令和3年度分 研究業績一覧

### 1. 論文

絵画鑑賞のイメージ喚起力に関する心理学的考察：徳島文理大学研究紀要第102号（2021）

### 2. 学会発表

該当なし

### 3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

### 4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

### 5. 自己評価

研究活動として研究紀要に一本論文は投稿したものの、その後はやや停滞気味である。他大学の研究者の協力者として、科研費申請したが、不採択となった事案が

あり、今後も研究を推進していく意向である。

### 大学内運営

- 1) 心理学科 2 年学年担任
- 2) 心理学科 1～4 年計 42 名のチューター
- 3) 心理学科入学試験にかかる業務
- 4) オープンキャンパスでの模擬授業担当
- 5) 全学入学試験委員会
- 6) 専攻科入学試験にかかる業務

### 社会貢献

#### 1. 地域社会への貢献

- 1) 岡山就実大学非常勤講師夏期集中講義（司法・犯罪心理学）担当
- 2) 徳島大学総合科学部非常勤講師（司法・犯罪心理学）担当

#### 2. 学会等への貢献

- 1) 日本犯罪心理学会編集委員

## 個人情報

1. 氏名：原田 耕太郎
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：社会心理学、教育心理学
2. 学部授業担当科目  
前期：青年心理学、学校・教育心理学（教育心理学）、教育心理学、  
社会・集団・家族心理学（社会心理学）、心理学実験、心理学A、  
心理演習Ⅱ、心理実習Ⅰ  
＜以上、徳島キャンパス＞  
医療コミュニケーション学、図書館総合演習  
＜以上、香川キャンパス＞  
後期：専門ゼミナール、産業・組織心理学、心理学研究法、心理実習Ⅰ、  
心理演習Ⅰ、生徒指導（進路指導を含む）  
＜以上、徳島キャンパス＞  
人間関係論、教育心理学、心理学A、教職実践演習、  
医療コミュニケーション学Ⅰ  
＜以上、香川キャンパス＞

### 大学院

- 前期：心理実践実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅰ、特別研究
  - 後期：心理実践実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅰ、特別研究  
産業・労働分野に関する理論と支援の展開
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文2名
  4. 自己評価  
卒業論文の指導については、受講生が本学大学院への進学を希望していたので、修士論文作成の予行練習という位置づけで指導を行った。合わせて、大学院の受験指導も行った。なお、当該学生は、Ⅰ期入試およびⅡ期入試で合格を獲得し、来年度大学院に入学予定である。担当講義においては、指定のテキストをベースにしたオリジナルの資料を用いている。内容としては、基本的な内容を分かりやすく説明するとともに、適宜時事問題や、視聴覚資料、一部高度な内容を盛り込むなど、単調にならないように配慮している。この試みは、おおむね成功していると判断している。

## 研究領域

1. 専門研究領域：社会心理学
  2. 研究課題及び概要  
社会的公正知覚に関する研究。社会的公正とは社会活動を維持させ機能させる上で重要な規範の一つであり、社会的動機の一つだということもできる。しかし、「公正か否か」に関する客観的あるいは絶対的基準はなく、あくまでも知覚者の主観によって決定される。それゆえに、公正をめぐる対立やバイアスの介在といった、心理学上興味深い事象が存在する。つまり、社会的公正知覚の研究は、心理学の観点からの社会活動の理解につながる。
3. 令和3年度分 研究業績一覧

## 1. 論文

原田耕太郎（単著） 「リスクを含んだ意思決定課題における優先手がかりとしての社会的公正さの知覚および適切さの知覚とフレーミング効果」 対人コミュニケーション研究 第8号 pp.15-21. <査読付き>

岡本咲穂・原田耕太郎（共著） 「大学生の愛着における内的作業モデルとレジリエンスとの関連性」 徳島文理大学臨床心理相談室紀要 第21号 pp.53-60.

原田耕太郎（単著） 「大学での学生支援から思うこと ―大学でつまづかないために―」 令和3年度徳島県高等学校生徒生活指導連絡協議会研究大会研究資料 pp.1-5.

## 2. 学会発表

該当なし

## 3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

## 4. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

## 5. 自己評価

査読付き論文1本、共著1本の2本を論文化できたので、一定の成果を得たと判断している。研究活動に関する課題は多いものの、何とか工夫して活発化させたいと考えている。

## 大学内運営

- 1) 自己点検・自己評価委員会委員長
- 2) 教職教養講座 講師
- 3) 公認心理師実習指導員
- 4) 臨床心理相談室相談員
- 5) 教員免許更新講習 講師
- 6) 修士論文副査5件
- 7) 学部4年生担任
- 8) 学部チューター担当（1年～4年計36名）
- 9) オープンキャンパスミニ講義担当
- 10) 大学院受験希望者への面談および進路説明
- 11) 大学学部入学試験業務
- 12) 大学院入試業務

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

該当なし

### 2. 地域社会への貢献

放送大学面接授業「心理学実験1」非常勤講師

教員免許更新講習「必修領域1科目」「選択必修領域2科目」担当

徳島県高等学校生徒生活指導連絡協議会研究大会講師

## 個人情報

1. 氏名：福本浩行
2. 職位：教授

## 教育情報

1. 教育の担当専門領域：心理学（臨床，発達，教育，産業）
2. 学部授業担当科目  
前期：心理療法演習Ⅱ，発達障害論，心理的アセスメントⅠ，臨床心理学  
後期：専門ゼミナール，心理演習Ⅰ，心理検査法実習Ⅰ，心理検査法実習Ⅱ，卒業研究  
大学院授業担当科目  
前期：臨床心理面接特論Ⅰ，心理実践実習Ⅱ，臨床心理査定演習Ⅰ  
後期：心理実践実習Ⅱ，臨床心理学特論Ⅱ，臨床心理実習Ⅱ，心理実践実習Ⅱ
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文1名，その他5名
4. 自己評価  
毎講時，自己制作のプレゼンテーション用スライド及び視聴覚教材を活用したほか，授業の重要事項に関する詳細な解説を盛り込んだ補助教材を配布し，受講生の理解を深めさせた。授業内容とは別に，折に触れ公認心理師資格試験に係る情報を提供したり，過去の試験問題を解説したりするなどし，資格試験に対する動機付けを高める工夫をした。

## 研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学，犯罪心理学，神経心理学
2. 研究課題及び概要  
「犯罪者プロファイリング研究」  
通り魔や迷宮化した事件の捜査に資するため，警察と共同し，犯行現場等から得られる数少ない犯人情報を多変量解析し，過去に蓄積したデータベースとの照合により犯人の特定化を行う方法について考究している。また，ここで得られた知見を活かし，SNSによる人権侵犯事案加害者の心理的分析及び被害防止の広報等を行っている。  
「虐待の連鎖に係る研究」  
慶応大学において作成された日本版 I Feel Pictures テストを用いて，乳児の表情読み取りエラーが生じる資質負因等を研究している。また，表情の読み取りエラーを発生させる資質負因が虐待の加害に及ぼす影響や，虐待の被害から表情の読み取りエラーが起こる要因等を考察している。  
「マイノリティ共感」  
LGBTQ等の性的マイノリティを有した人たちに対して，それを共感して受け入れる人と受け入れがたい人との違いは何かについて，鳴門教育大学において作成された尺度を用いて研究している。
3. 令和3年度分 研究業績一覧

1. 論文

徳島文理大学臨床心理相談室紀要第 21 号「二つの扉技法を取り入れた事例による考察」

臨床ゲシュタルト療法研究第 6 号「エンプティ・チェア技法による心残りのテーマを焦点化する試みについて」

2. 学会発表

国連主催犯罪防止国際会議「京都コンgres」における” Unserious Session” 発表

3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

4. 令和 3 年度分 科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況

該当なし

5. 自己評価

法務省退官後、矯正施設被収容者のデータを収集することには制約が生じているものの、臨床ゲシュタルト療法学会や日本心理臨床学会等各種学会に入会することにより学会誌の論文等に自ら啓発を受けるとともに、学会の新鮮な情報を専門ゼミの学生に還元している。

### 大学内運営

- 1) 心理学科広報委員として、大学案内の作成やオープンキャンパスの実施等を行い、心理学科の広報を行った。また、オープンキャンパスでは、心理学科の学科説明や模擬授業を実施した。
- 2) 心理学科各学年のチューターとして学生の個別指導に当たったほか、チューターでない学生からの相談にも応じた。
- 3) 臨床心理相談室の担当官として、一般外来のクライアントに対するカウンセリングを継続して行った。
- 4) 高校生の大学見学の際にミニ講座を実施した。
- 5) 高校生を対象とした出前授業に出張した。

### 社会貢献

- 1) 児童自立支援施設「徳島学院」の安全委員会の副委員長をつとめた。
- 2) 板野郡中学校生徒指導主事研究会にアドバイザーとして参加した。
- 3) さぬき薔薇会に所属し、市が管理する公共公園内の薔薇園を、年間を通してボランティアで整備した。

## 個人情報

1. 氏名：渡邊 悟
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床心理学、心理査定
2. 授業担当科目  
前期（学部）：心理学実験、老年心理学  
前期（大学院）：臨床心理学特論、臨床心理基礎実習Ⅰ、心理実践実習Ⅰ、特別研究  
後期（学部）：パーソナリティ障害論、心理検査法実習Ⅰ、心理検査法実習Ⅱ、専門ゼミナール、卒業研究  
後期（大学院）：臨床心理査定実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅱ、心理実践実習Ⅱ、特別研究
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 3名、修士論文 2名
4. 自己評価  
対面授業の際には、パワーポイントにより授業を行うとともに、それを印刷して補助教材として活用した。また、遠隔授業の際には、グーグルクラスルームのミーティングやチャットを活用し、それぞれの授業形態において、学生に授業内容の理解を促した。

## 研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学、心理査定
2. 研究課題及び概要  
非行・犯罪臨床における心理査定のあり方
3. 令和3年度分 研究業績一覧
  1. 論文  
1) 渡邊 悟 「ロールシャッハ100年記念大会マップ・プロジェクト中間報告―補遺―」 包括システムによる日本ロールシャッハ学会誌 第25巻第1号 p. 15-18 (2021. 10)
  2. 学会発表  
1) 渡邊 悟 「ロールシャッハ100年記念大会マップ・プロジェクト中間報告―温故知新―」 包括システムによる日本ロールシャッハ学会第26回大会 (2021. 7)
3. 学会等主催研修会出席
  - 1) 一般社団法人 日本臨床心理士会司法矯正領域委員会研修会 (2021. 9)
  - 2) 日本犯罪心理学会第59回大会 (2021. 10)
  - 3) 一般社団法人 日本公認心理師協会司法・犯罪分野委員会研修会 (2021. 10) 司会
  - 4) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会認定資格研修会 (2020. 11) 講師
  - 5) 日本公認心理師学会第1回学術集会 (2021. 12)
4. 知的財産権の出願・資格取得状況  
該当なし
5. 令和3年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
該当なし

6. 自己評価: 査読論文はないものの、論文の寄稿、学会大会や研修会への参加等により、自己の専門性の向上を図った。

### 大学内運営

- 1) 徳島文理大学臨床心理相談室長
- 2) 心理学科就職支援委員
- 3) 修士論文主査及び副査
- 4) 大学院及び学部入学試験にかかる業務
- 5) 心理学科1～4年生のチューター
- 6) オープンキャンパスでの学科説明・模擬授業
- 7) 保護者会での保護者との面談

### 社会貢献

- 1) 一般社団法人 日本公認心理師協会 理事(司法・犯罪分野委員会委員長、専門認定資格委員会委員長)
- 2) 一般社団法人 日本臨床心理士会 司法矯正領域委員会副委員長(2021.9まで)
- 3) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会 副会長
- 4) 日本犯罪心理学会 全国区理事・編集委員
- 5) 徳島県警察留置施設視察委員会委員
- 6) 徳島県ライフサポーター指導員
- 7) 徳島ロールシャッハ・テスト研究会代表
- 8) 法務省矯正研修所法務技官(心理)基礎科研修での講義(2021.7)
- 9) 法務省矯正研修所法務技官(心理)応用科研修での講義(2021.12)
- 10) 徳島県警察学校専科研修での講義(2021.12)



## 編集後記

刊行が遅れたことをお詫び申し上げます。

今号は、いまだ新型コロナウイルス感染症による禍が残る中での我々の教育研究活動を振り返るものになりました。やはり、種々の制約があるなかでの教育研究活動でありました。特に対応が求められたのは、学外施設での実習だったかもしれませんが、個々の事情がある関係で、具体的な対応をこの自己点検・自己評価報告書に十分に盛り込めなかったのはやや残念に思います。自己点検・自己評価報告書は、人間生活学部の活動の記録であり、今後のよりよい教育研究活動へと活用されることを願っております。

徳島文理大学人間生活学部	
令和3年度 自己点検・自己評価委員会	
人間生活学科	竹内 理恵 (副委員長)
食物栄養学科	小川 直子
児童学科	岡 直樹
メディアデザイン学科	加治 芳雄
建築デザイン学科	池田 文夫
心理学科	原田 耕太郎 (委員長)

編集責任者：原田 耕太郎